

| ピアノⅠ | | 音楽総合学科 | | 1年前期 | | |
|-------------------|---|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 2単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：横井 香織・三ツ橋 義晴 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | エチュード、バロック、古典派の作品を学びながら、ピアノを弾く姿勢、楽譜を正確に読む、指使いの考え方、指のポジション、スケール・アルペジオ、楽曲の構成を理解することから表現へ繋げるなど、演奏の基本を確認し、毎日の練習を実りある練習にするために、基本的な練習法を細かく指導します。 | | | | | |
| 授業方法 | 演習授業で、個々のレベルや進度に合わせた個人レッスンを行います。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 基礎的な音楽知識を身に付けて楽譜の理解に努め、作曲家や作品についての知識も修得し、楽曲理解に繋げることができる。 (○) 2. [思考・判断・表現] 音色や響きを追求し、楽曲にふさわしい演奏表現をすることができる。 (◎) 3. [技能] 基礎テクニックを修得し、演奏技術の向上に努めることができる。 (◎) 4. [関心・意欲・態度] 指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、積極的な取り組みができる。 (○) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 試験 | - | 30 | 30 | - | 60 |
| | 中間試験 | - | 5 | 5 | - | 10 |
| | 受講態度 | 15 | - | - | 15 | 30 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 15 | 35 | 35 | 15 | 100 |
| 成績評価と割合 | 試験 60%、中間試験 10%、受講態度 30% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | 全訳ハノンピアノ教本（全音楽譜出版社、または手持ちのもの） ツェルニー30番以上の練習曲（指定なし） J. S. バッハ：インヴェンション・シンフォニア（指定なし） | | | | | |
| 参考書・教材 | 個々に合わせて選択します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 授業説明 各々が選んだ課題の発表 [準備・課題] 選んだ曲をレッスンできるように準備しておく（2～3h） | | | | | |
| 2 | ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品（1） 正確な譜読み [準備・課題] 各曲1曲ずつ譜読みをする（2～3h） | | | | | |
| 3 | ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品（2） テクニック練習 [準備・課題] レッソンの復習をし、テクニックを向上する（2～3h） | | | | | |
| 4 | ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品（3） 強弱・速度・音楽用語 [準備・課題] レッソンの復習をし、楽譜に忠実に強弱、速度、音楽用語を表現する（2～3h） | | | | | |
| 5 | ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品（4） 暗譜 [準備・課題] レッソンの復習をし、暗譜に取り組む（2～3h） | | | | | |
| 6 | ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品（5） 弾き込み [準備・課題] レッソンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める（2～3h） | | | | | |
| 7 | ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品（6） 仕上げ [準備・課題] レッソンの復習をし、中間試験に向けて仕上げる（2～3h） | | | | | |
| 8 | 中間試験（練習曲） 試験曲を選曲（古典派の作品） ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品（試験曲）（1） 正確な譜読み [準備・課題] 試験曲の譜読みに取り組む（2～3h） | | | | | |
| 9 | ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品（試験曲）（2） テクニック練習 [準備・課題] レッソンの復習をし、テクニックを向上する（2～3h） | | | | | |
| 10 | ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品（試験曲）（3） 曲想 [準備・課題] レッソンの復習をし、楽譜を熟読して曲想を付ける（2～3h） | | | | | |
| 11 | ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品（試験曲）（4） 音色 [準備・課題] レッソンの復習をし、楽曲にふさわしい音色を研究する（2～3h） | | | | | |
| 12 | ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品（試験曲）（5） 音楽表現 [準備・課題] レッソンの復習をし、表現力を高める（2～3h） | | | | | |
| 13 | ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品（試験曲）（6） 暗譜 [準備・課題] レッソンの復習をし、確実に暗譜演奏ができるようにする（2～3h） | | | | | |
| 14 | ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品（試験曲）（7） 弾き込み [準備・課題] レッソンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める（2～3h） | | | | | |
| 15 | ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品（試験曲）（8） 仕上げ [準備・課題] レッソンの復習をし、音楽性を高め仕上げる（2～3h） | | | | | |
| 時間外での学習 | レッスン時に次回までの課題が提示されますので、毎日怠らずに練習し、毎回のレッスンでレベルアップできるよう、日頃の練習に取り組んでください。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | レッスン内容を自ら楽譜やノート等へ書き留めるなど、自ら学ぶ姿勢で積極的に受講してください。 オフィスアワーは各レッスン室で授業前後の休み時間です。 | | | | | |

| ピアノⅡ | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|--------------------|---|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 2単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]： 横井 香織・三ツ橋 義晴 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 前期に引き続き、練習曲、バッハの作品に取り組みながら、ロマン派の作品も学びます。前期に学んだ基礎テクニックや練習法を更に発展させ、演奏技術、表現力を高めます。 | | | | | |
| 授業方法 | 演習授業で、個々のレベルや進度に合わせた個人レッスンを行います。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 音楽的知識を身に付けて楽譜の理解に努め、作曲家や作品についての知識も修得し、楽曲理解に繋げることができる。(○) 2. [思考・判断・表現] 音色や響きを追求し、楽曲にふさわしい演奏表現をすることができる。(◎) 3. [技能] 演奏技術の向上に努めることができる。(◎) 4. [関心・意欲・態度] 音楽的感性を養う努力をし、指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、積極的な取り組みができる。(○) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 試験 | － | 30 | 30 | － | 60 |
| | 中間試験 | － | 5 | 5 | － | 10 |
| | 受講態度 | 15 | － | － | 15 | 30 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 15 | 35 | 35 | 15 | 100 |
| 成績評価と割合 | 試験 60%、中間試験 10%、受講態度 30% の合計100%で評価します。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | 全訳ハノンピアノ教本（全音楽譜出版社、または手持ちのもの） ツェルニー30番以上の練習曲（指定なし） J.S. バッハ：インヴェンション・シンフォニア（指定なし） | | | | | |
| 参考書・教材 | 個々に合わせて選択します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（1） 休暇中の課題のレッスン、譜読みの再確認 [準備・課題] 課題をレッスンできるように準備しておく 各曲1曲ずつ正確に譜読みの再確認をする（2～3h） | | | | | |
| 2 | ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（2） テクニック練習 [準備・課題] レッソンの復習をし、テクニックを向上する（2～3h） | | | | | |
| 3 | ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（3） 曲想 [準備・課題] レッソンの復習をし、楽譜を熟読して曲想を付ける（2～3h） | | | | | |
| 4 | ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（4） 音楽性 [準備・課題] レッソンの復習をし、音楽性を高める（2～3h） | | | | | |
| 5 | ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（5） 暗譜 [準備・課題] レッソンの復習をし、暗譜に取り組む（2～3h） | | | | | |
| 6 | ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（6） 弾き込み [準備・課題] レッソンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める（2～3h） | | | | | |
| 7 | ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（7） 仕上げ [準備・課題] レッソンの復習をし、中間試験に向けて仕上げる（2～3h） | | | | | |
| 8 | 中間試験（バッハ：インヴェンション） 試験曲を選曲（ロマン派の作品） ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（試験曲）（1） 正確な譜読み [準備・課題] 試験曲の譜読みに取り組む（2～3h） | | | | | |
| 9 | ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（試験曲）（2） テクニック練習 [準備・課題] レッソンの復習をし、テクニックを向上する（2～3h） | | | | | |
| 10 | ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（試験曲）（3） 曲想 [準備・課題] レッソンの復習をし、楽譜を熟読して曲想を付ける（2～3h） | | | | | |
| 11 | ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（試験曲）（4） 音色 [準備・課題] レッソンの復習をし、各曲にふさわしい音色を研究する（2～3h） | | | | | |
| 12 | ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（試験曲）（5） 音楽表現 [準備・課題] レッソンの復習をし、表現力を高める（2～3h） | | | | | |
| 13 | ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（試験曲）（6） 暗譜 [準備・課題] レッソンの復習をし、確実に暗譜演奏ができるようにする（2～3h） | | | | | |
| 14 | ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（試験曲）（7） 弾き込み [準備・課題] レッソンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める（2～3h） | | | | | |
| 15 | ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品（試験曲）（8） 仕上げ [準備・課題] レッソンの復習をし、音楽的な演奏になるよう仕上げる（2～3h） | | | | | |
| 時間外での学習 | レッスン時に提示される各々の課題を毎日怠らず練習し、毎回のレッスンが質の高いレッスンとなるよう、日頃の練習に取り組んでください。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | レッスンでアドバイスを受けたことを自分の演奏に活かし、演奏力の向上に努めてください。オフィスアワーは各レッスン室で授業前後の休み時間です。 | | | | | |

| 電子オルガンⅠ | | 音楽総合学科 | | 1年前期 | | |
|-----------------|---|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 2単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：松井 宏行 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 電子オルガンにおける様々な音楽ジャンルの演奏を経験・追究し、トータルで安定した演奏基盤を身につけます。 具体的には、前半で 得意な音楽ジャンルのレパートリー演奏を追究し、後半では その他様々なジャンルの演奏を広く経験し、多種なジャンルへの演奏対応力を身に付け、新たな得意ジャンルを探索します。 個人の演奏力や知識に応じて、その場で必要な楽器の操作／レジスト等の制作力もカバーしていきます。 | | | | | |
| 授業方法 | 個人レッスン | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 取り組む楽曲において、その曲の構成や、用いられている表現手法を理解できる。(○) 2. [思考・判断・表現] 取り組む楽曲において、楽譜から読み取れる情報をもとに、適切に演奏に取り入れて表現することができる。(◎) 3. [技能] 取り組む楽曲に対して、自らのこだわりを持って演奏することができる。(◎) 4. [関心・意欲・態度] 各曲を演奏する上で生じる疑問点を、自ら発見し、質問できる。(○) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 実技試験 | 20 | 25 | 25 | － | 70 |
| | 準備・課題 | 5 | 5 | 5 | － | 15 |
| | 受講態度 | － | － | － | 15 | 15 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 25 | 30 | 30 | 15 | 100 |
| 成績評価と割合 | 実技試験(得意ジャンル1曲／その他ジャンル1曲の演奏発表) 70%、準備・課題(毎週の練習の結果) 15%、受講態度 15% の合計 100% で評価します。 | | | | | |
| テキスト | これまで自身で取り組んだことのある得意ジャンルのレパートリーから2曲ピックアップし、第1週授業の際に 楽譜・レジストデータなどを準備してきてください。(この授業のために、新たに選曲し取り組んだ曲でも構いません。) その他に、個人の必要に応じて授業開始後テキストを案内する場合があります。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 授業開始後、必要に応じて参考書・楽譜などを案内します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | これまでの演奏経験や現在の演奏レパートリーの確認／今後のレッスン内容の方向性を検討～決定 [準備・課題] 決定した得意ジャンルの演奏曲を練習し、まず自身の力の範囲内で仕上げてくる (1～6h) | | | | | |
| 2 | 得意ジャンルのレパートリーにおける演奏追究(1) 例. 演奏全体へのアドバイス (リズムの感じ方など) [準備・課題] アドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する (2～5h) | | | | | |
| 3 | 得意ジャンルのレパートリーにおける演奏追究(2) 例. 鍵盤タッチ奏法 [準備・課題] アドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する (2～5h) | | | | | |
| 4 | 得意ジャンルのレパートリーにおける演奏追究(3) 例. エクスプレッションペダル奏法 [準備・課題] アドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する (2～5h) | | | | | |
| 5 | 得意ジャンルのレパートリーにおける演奏追究(4) 例. まとめのアドバイス [準備・課題] アドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する (2～5h) | | | | | |
| 6 | その他ジャンルへの演奏取り組み[1曲目](1) 例. クラシック [準備・課題] アドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する (2～6h) | | | | | |
| 7 | その他ジャンルへの演奏取り組み[1曲目](2) [準備・課題] アドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する (2～6h) | | | | | |
| 8 | その他ジャンルへの演奏取り組み[2曲目](1) 例. Jazz [準備・課題] アドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する (2～6h) | | | | | |
| 9 | その他ジャンルへの演奏取り組み[2曲目](2) [準備・課題] アドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する (2～6h) | | | | | |
| 10 | その他ジャンルへの演奏取り組み[3曲目](1) 例. ラテン [準備・課題] アドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する (2～6h) | | | | | |
| 11 | その他ジャンルへの演奏取り組み[3曲目](2) [準備・課題] アドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する (2～6h) | | | | | |
| 12 | その他ジャンルへの演奏取り組み[4曲目](1) 例. フュージョン／ニューエイジミュージック [準備・課題] アドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する (2～6h) | | | | | |
| 13 | その他ジャンルへの演奏取り組み[4曲目](2) [準備・課題] アドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する (2～6h) | | | | | |
| 14 | 得意ジャンルのレパートリー曲 演奏の仕上りの確認と最終アドバイス [準備・課題] アドバイスされた箇所を練習し、演奏全体を仕上げる (2～3h) | | | | | |
| 15 | その他ジャンルからの選択曲 演奏の仕上りの確認と最終アドバイス [準備・課題] アドバイスされた箇所を練習し、演奏全体を仕上げる (2～3h) | | | | | |
| 時間外での学習 | ・実技試験では、得意ジャンルのレパートリー曲1曲と、その他ジャンルから1曲を演奏します。 ・第6週～第13週の間も、第14週授業に向けて、前半で取り組んだ得意ジャンルのレパートリー曲を練習しましょう。 ・第15週授業では、第6週～第13週で取り組んだその他ジャンルの演奏曲の中から、実技試験で演奏したい1曲を選曲して取り組みます。第13週授業を終えた段階で、取り組む曲を決定して練習しましょう。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 皆さんが既に演奏しているレパートリーも、実はまだまだ奥の深いものかも知れません。この授業前半では、その奥深さを知り、一歩踏み込んだ演奏に取り組んでみましょう。また後半で、新たな得意ジャンルを開拓しましょう。 [オフィスアワー]当授業の教室にて 毎週木曜日 14:35～14:40 | | | | | |

| 電子オルガンⅡ | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|-----------------|---|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 2単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：松井 宏行 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 電子オルガンの演奏力向上とともに、レパートリーの拡充に取り組みます。 具体的には、前半で 自身で選曲した新規レパートリーの演奏に取り組み、後半では 与えられた課題曲の演奏に取り組みます。 どちらの曲においても、細部にまでこだわった演奏を目指します。 個人の演奏力や知識に応じて、その場で必要な楽器の操作／レジスト等の制作力もカバーしていきます。 | | | | | |
| 授業方法 | 個人レッスン | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 取り組む楽曲において、その曲の構成や、用いられている表現手法を理解できる。(○) 2. [思考・判断・表現] 取り組む楽曲において、楽譜から読み取れる情報をもとに、適切に演奏に取り入れて表現することができる。(◎) 3. [技能] 取り組む楽曲に対して、自らのこだわりを持って演奏することができる。(◎) 4. [関心・意欲・態度] 各曲を演奏する上で生じる疑問点を、自ら発見し、質問できる。(○) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 実技試験 | 20 | 25 | 25 | － | 70 |
| | 準備・課題 | 5 | 5 | 5 | － | 15 |
| | 受講態度 | － | － | － | 15 | 15 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 25 | 30 | 30 | 15 | 100 |
| 成績評価と割合 | 実技試験(自由曲1曲／課題曲1曲の演奏発表) 70%、準備・課題(毎週の練習の結果) 15%、受講態度 15%の割合で評価します。 | | | | | |
| テキスト | 第1週授業の際に、前半で取り組む自由曲の候補曲(2曲)の楽譜・レジストデータなどを準備してきてください。 その他に、個人の必要に応じて 授業開始後 テキストを案内する場合があります。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 授業開始後、必要に応じて 参考書・楽譜などを案内します。 | | | | | |
| 内 容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 前半で取り組む自由曲の候補曲を確認／今後のレッスン内容の方向性を検討～決定 [準備・課題]決定した自由曲の練習を開始し、まず自身の力の範囲内で曲の冒頭から1/3程度まで 仕上げてくる (2～6h) | | | | | |
| 2 | 自由曲における演奏追究(1) 曲の冒頭から1/3程度まで [準備・課題]アドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する (2～5h) | | | | | |
| 3 | 自由曲における演奏追究(2) [準備・課題]曲のつづき～2/3程度まで 仕上げてくる (2～6h) | | | | | |
| 4 | 自由曲における演奏追究(3) 曲のつづき～2/3程度まで [準備・課題]アドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する (2～5h) | | | | | |
| 5 | 自由曲における演奏追究(4) [準備・課題]曲のつづき～最後まで 仕上げてくる (2～6h) | | | | | |
| 6 | 自由曲における演奏追究(5) 曲全体 [準備・課題]アドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する (2～5h) | | | | | |
| 7 | 自由曲における演奏追究(6) [準備・課題]後半で取り組む課題曲の練習を開始し、まず自身の力の範囲内で曲の冒頭から1/3程度まで仕上げてくる (2～6h) | | | | | |
| 8 | 課題曲における演奏追究(1) 曲の冒頭から1/3程度まで [準備・課題]アドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する (2～5h) | | | | | |
| 9 | 課題曲における演奏追究(2) [準備・課題]曲のつづき～2/3程度まで 仕上げてくる (2～6h) | | | | | |
| 10 | 課題曲における演奏追究(3) 曲のつづき～2/3程度まで [準備・課題]アドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する (2～5h) | | | | | |
| 11 | 課題曲における演奏追究(4) [準備・課題]曲のつづき～最後まで 仕上げてくる (2～6h) | | | | | |
| 12 | 課題曲における演奏追究(5) 曲全体 [準備・課題]アドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する (2～5h) | | | | | |
| 13 | 課題曲における演奏追究(6) [準備・課題]前半で取り組んだ自由曲を再度仕上げてくる (2～6h) | | | | | |
| 14 | 自由曲演奏の仕上がりの確認と最終アドバイス [準備・課題]アドバイスされた箇所を練習し、演奏全体を仕上げる (2～4h) | | | | | |
| 15 | 課題曲演奏の仕上がりの確認と最終アドバイス [準備・課題]アドバイスされた箇所を練習し、演奏全体を仕上げる (2～4h) | | | | | |
| 時間外での学習 | ・授業開始前に、この授業前半で取り組む自由曲の候補曲を2曲用意し、簡単に譜読みを済ませておいてください。 ・実技試験では、自由曲1曲と、課題曲1曲を演奏します。第8週～第13週の間も、第14週授業に向けて、前半で取り組んだ自由曲を練習しましょう。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 自分で選んだ曲と、与えられた課題曲という2つの対照的な演奏を、平等に取り組んでみましょう。 いずれの楽曲においても深くこだわった練習をしていきます。 魅力的な演奏に仕上げると同時に、皆さんのレパートリーを増強していきましょう。 [オフィスアワー]当授業の教室にて 毎週木曜日 14:35～14:40 | | | | | |

| 副科ピアノⅠ | | 音楽総合学科 | | 1年前期 | | |
|-----------------|--|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：横井 香織 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 鍵盤楽器演奏において、ピアノ演奏の修得は基本となります。 ピアノ演奏に必要なとされる強く独立性のある指作り、自らの体で強弱や音色を創り出し表現する演奏技術を修得します。 | | | | | |
| 授業方法 | 演習授業で、個々のレベルや進度に合わせた個人レッスンを行います。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 音楽的知識を身に付け、楽曲を理解することができる。(△) 2. [思考・判断・表現] 楽曲についてのイメージを持ち、表現力を養うことができる。(◎) 3. [技能] 基礎テクニックを修得することができる。(◎) 4. [関心・意欲・態度] 指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、積極的に技術修得のための努力をすることができる。(○) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 実技試験 | － | 30 | 40 | － | 70 |
| | 受講態度 | 10 | － | － | 20 | 30 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 10 | 30 | 40 | 20 | 100 |
| 成績評価と割合 | 実技試験 70%、受講態度 30% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | 全訳ハノンピアノ教本（全音楽譜出版社、または手持ちのもの） ツェルニー30番以上の練習曲（指定なし） ソナチネアルバム またはソナタアルバム（全音楽譜出版社、または手持ちのもの） | | | | | |
| 参考書・教材 | 個々に合わせて選択します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 授業説明 曲決め [準備・課題] 楽譜を持っている学生は楽譜を持参する（1～2h） | | | | | |
| 2 | ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタ（1） 正確な譜読み [準備・課題] 各曲1曲ずつ正確に譜読みをする（1～2h） | | | | | |
| 3 | ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタ（2） テクニック練習 [準備・課題] レッソンの復習をし、テクニックを向上する（1～2h） | | | | | |
| 4 | ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタ（3） 強弱 [準備・課題] レッソンの復習をし、強弱を付けて弾けるようにする（1～2h） | | | | | |
| 5 | ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタ（4） 曲想 [準備・課題] レッソンの復習をし、音楽用語を調べ、曲想を付ける（1～2h） | | | | | |
| 6 | ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタ（5） 音楽表現 [準備・課題] レッソンの復習をし、表現力を身に付ける（1～2h） | | | | | |
| 7 | ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタ（6） 仕上げ [準備・課題] レッソンの復習をし、弾き込んで仕上げる（1～2h） | | | | | |
| 8 | ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲（1） 正確な譜読み [準備・課題] 各曲を正確に譜読みをする（1～2h） | | | | | |
| 9 | ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲（2） テクニック練習 [準備・課題] レッソンの復習をし、テクニックを向上する（1～2h） | | | | | |
| 10 | ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲（3） 強弱 [準備・課題] レッソンの復習をし、強弱を付けて弾けるようにする（1～2h） | | | | | |
| 11 | ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲（4） 曲想 [準備・課題] レッソンの復習をし、音楽用語を調べ、曲想を付ける（1～2h） | | | | | |
| 12 | ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲（5） 音楽表現 [準備・課題] レッソンの復習をし、表現力を身に付ける（1～2h） | | | | | |
| 13 | ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲（6） 暗譜 [準備・課題] レッソンの復習をし、暗譜に取り組む（1～2h） | | | | | |
| 14 | ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲（7） 弾き込み [準備・課題] レッソンの復習をし、よく弾き込む（1～2h） | | | | | |
| 15 | ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲（8） 仕上げ [準備・課題] レッソンの復習をし、試験に向けて仕上げる（1～2h） | | | | | |
| 時間外での学習 | 毎日ピアノを練習する習慣を身に付け、毎回のレッスンでレベルアップするように取り組んでください。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | レッスン内容を自ら楽譜やノート等へ書き留めるなど、自ら学ぶ姿勢で積極的に受講してください。 オフィスアワーはB206で授業前後の休み時間です。 | | | | | |

| 副科ピアノⅡ | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|-----------------|---|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]： 横井 香織 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 前期に修得した基礎を土台とし、個々の目標に合わせた曲目やバッハや古典派の作品も取り入れながら、更にピアノの演奏技術を高め、表現力を身に付けていきます。 | | | | | |
| 授業方法 | 演習授業で、個々のレベルや進度に合わせた個人レッスンを行います。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 作曲家や作品についてなどの音楽的知識を身に付け、楽曲を理解することができる。(△) 2. [思考・判断・表現] 楽曲についてのイメージを持ち、表現力を高めることができる。(◎) 3. [技能] 演奏技術を向上することができる。(◎) 4. [関心・意欲・態度] 指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、積極的に技術修得のための努力をすることができる。(○) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 実技試験 | － | 30 | 40 | － | 70 |
| | 受講態度 | 10 | － | － | 20 | 30 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 10 | 30 | 40 | 20 | 100 |
| 成績評価と割合 | 実技試験 70%、受講態度 30% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | 全訳ハノンピアノ教本（全音楽譜出版社、または手持ちのもの） ツェルニー30番以上の練習曲（指定なし） ソナチネアルバム またはソナタアルバム（全音楽譜出版社、または手持ちのもの） | | | | | |
| 参考書・教材 | 個々に合わせて選択します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタ（1） 休暇中の課題のレッスン [準備・課題] 初回の授業でレッスンできるよう練習しておく（1～2h） | | | | | |
| 2 | ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタ（2） 譜読みの確認 [準備・課題] 譜読みが正確にできているか確認する（1～2h） | | | | | |
| 3 | ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタ（3） テクニック練習 [準備・課題] レッソンの復習をし、テクニックを向上する（1～2h） | | | | | |
| 4 | ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタ（4） 強弱 [準備・課題] レッソンの復習をし、強弱を付けて弾けるようにする（1～2h） | | | | | |
| 5 | ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタ（5） 曲想 [準備・課題] レッソンの復習をし、音楽用語を調べ、曲想を付ける（1～2h） | | | | | |
| 6 | ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタ（6） 音楽表現 [準備・課題] レッソンの復習をし、表現力を身に付ける（1～2h） | | | | | |
| 7 | ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタ（7） 仕上げ [準備・課題] レッソンの復習をし、弾き込んで仕上げる（1～2h） | | | | | |
| 8 | ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲（1） 正確な譜読み [準備・課題] 各曲を正確に譜読みをする（1～2h） | | | | | |
| 9 | ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲（2） テクニック練習 [準備・課題] レッソンの復習をし、テクニックを向上する（1～2h） | | | | | |
| 10 | ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲（3） 強弱 [準備・課題] レッソンの復習をし、強弱を付けて弾けるようにする（1～2h） | | | | | |
| 11 | ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲（4） 曲想 [準備・課題] レッソンの復習をし、音楽用語を調べ、曲想を付ける（1～2h） | | | | | |
| 12 | ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲（5） 音楽表現 [準備・課題] レッソンの復習をし、表現力を身に付ける（1～2h） | | | | | |
| 13 | ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲（6） 暗譜 [準備・課題] レッソンの復習をし、暗譜に取り組む（1～2h） | | | | | |
| 14 | ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲（7） 弾き込み [準備・課題] レッソンの復習をし、よく弾き込む（1～2h） | | | | | |
| 15 | ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど試験曲（8） 仕上げ [準備・課題] レッソンの復習をし、試験に向けて仕上げる（1～2h） | | | | | |
| 時間外での学習 | 毎日の練習を怠らず、毎回のレッスンでレベルアップするように取り組んでください。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 自らの指や体で音色を創り出して、自然な演奏ができるよう、積極的に演奏法を修得しましょう。 オフィスアワーはB206で授業前後の休み時間です。 | | | | | |

| 副科電子オルガンⅠ | | 音楽総合学科 | | 1年前期 | | |
|------------------|--|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：上園 弥生・相原 里美 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 電子オルガンの演奏法を学びます。まず、ステージアの基本的な操作を勉強します。また、市販のデータを分析し、入力技術を学び、演奏法を研究し習得します。 | | | | | |
| 授業方法 | 毎週1回の個人レッスンです。個々のレベルにあった指導をします。時には、数名で協力しあってデータを入力することもあります。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 色々なジャンルの音楽を体験し、理解できる。(○) 2. [思考・判断・表現] 楽譜からアレンジャーの意図がよみとれる。表情豊かな演奏ができる。(○) 3. [技能] データを生かした演奏力の向上。(◎) 4. [関心・意欲・態度] 学んだ内容を復習する。オルガン演奏に関心を持ち、意欲的に取り組む。(◎) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 実技試験 | 15 | 15 | 40 | － | 70 |
| | 受講態度 | － | － | － | 15 | 15 |
| | 課題に対する練習状況 | － | － | － | 15 | 15 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 15 | 15 | 40 | 30 | 100 |
| 成績評価と割合 | 実技試験70%、受講態度15%、課題に対する練習状況15% の 合計 100% で評価します。 | | | | | |
| テキスト | 個々に合わせて選択します。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 個々に合わせて選択します。 | | | | | |
| 内 容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | ガイダンス 授業の進め方について [準備・課題]電子オルガン演奏を視聴してみる(3～6h) | | | | | |
| 2 | 曲決め [準備・課題]練習にとりかかる(3～6h) | | | | | |
| 3 | 電子オルガンの操作、奏法など [準備・課題]学んだ内容を復習する(3～6h) | | | | | |
| 4 | レジストについて [準備・課題]学んだ内容を理解し、さらに進める(3～6h) | | | | | |
| 5 | レジスト分析 [準備・課題]学んだ内容を理解し、さらに進める(3～6h) | | | | | |
| 6 | ベース奏法について [準備・課題]学んだ内容を復習する(4h) | | | | | |
| 7 | レパートリー拡大 [準備・課題]学んだ内容を復習する(5～7h) | | | | | |
| 8 | レパートリー拡大 [準備・課題]学んだ内容を復習し、さらに進める(5～7h) | | | | | |
| 9 | レパートリー拡大 [準備・課題]学んだ内容を復習し、さらに進める(5～7h) | | | | | |
| 10 | タッチについて [準備・課題]学んだ内容を復習する(5～7h) | | | | | |
| 11 | タッチをいかして [準備・課題]学んだ内容復習し、さらに進める(5～7h) | | | | | |
| 12 | オルガン奏法について [準備・課題]学んだ内容を復習する(5～7h) | | | | | |
| 13 | 試験に向けての取り組み [準備・課題]学んだ内容を復習、理解し、弾き込む(5～7h) | | | | | |
| 14 | 弾き込み 暗譜 [準備・課題]学んだ内容を復習、理解し、弾き込む(5～7h) | | | | | |
| 15 | 弾き込み 仕上げ [準備・課題]学んだ内容を復習、理解し、弾き込む(5～7h) | | | | | |
| 時間外での学習 | 色々なジャンルの音楽をたくさん聴きましょう。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 空き時間を利用して、毎日練習しましょう。 オフィスアワーは、教室にて講義後行います。 | | | | | |

| 副科電子オルガンⅡ | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|------------------|---|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：上園 弥生・相原 里美 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 色々なジャンルの音楽を体験します。市販曲の構成、編曲を理解しながらデータを分析、参考にして、入力技術を学び、小アレンジに挑戦します。前期と同様、演奏法を研究し習得します。 | | | | | |
| 授業方法 | 毎週1回の個人レッスンです。個々に適した指導を行います。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 色々なジャンルの音楽を体験し、理解できる。電子オルガンの基本的な操作ができる。(○) 2. [思考・判断・表現] 楽譜からアレンジャーの意図がよみとれる。表情豊かな演奏ができる。(○) 3. [技能] 各自の演奏力の向上。(◎) 4. [関心・意欲・態度] 学んだ内容を復習する。オルガン演奏に関心を持ち、意欲的に取り組む。(◎) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 実技試験 | 15 | 15 | 40 | － | 70 |
| | 受講態度 | － | － | － | 15 | 15 |
| | 課題に対する練習状況 | － | － | － | 15 | 15 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 15 | 15 | 40 | 30 | 100 |
| 成績評価と割合 | 実技試験70%、受講態度15%、課題に対する練習状況15% の 合計 100% で評価します。 | | | | | |
| テキスト | 個々に合わせて選択します。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 個々に合わせて選択します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 休暇中の宿題を発表する [準備・課題] 次の課題に取り組む(3～6h) | | | | | |
| 2 | 前期の復習 [準備・課題] 次の曲の練習にとりかかる(3～6h) | | | | | |
| 3 | 電子オルガンの操作、奏法などステージアの機能について [準備・課題] 学んだ内容を復習する(3～6h) | | | | | |
| 4 | レジストについて [準備・課題] 学んだ内容を理解し、さらに進める(3～6h) | | | | | |
| 5 | レジスト分析 [準備・課題] 学んだ内容を理解し、さらに進める(3～6h) | | | | | |
| 6 | レパートリーを増やす [準備・課題] 学んだ内容を復習する(5～7h) | | | | | |
| 7 | レパートリーを増やす [準備・課題] 学んだ内容を復習する(5～7h) | | | | | |
| 8 | レパートリーを増やす [準備・課題] 学んだ内容を復習し、さらに進める(5～7h) | | | | | |
| 9 | 小アレンジに挑戦 [準備・課題] 学んだ内容を復習し、さらに進める(5～7h) | | | | | |
| 10 | 小アレンジ実習 [準備・課題] 学んだ内容を復習し、さらに進める(5～7h) | | | | | |
| 11 | 小アレンジ実習 [準備・課題] 学んだ内容を復習し、さらに進める(5～7h) | | | | | |
| 12 | オルガン奏法について [準備・課題] 学んだ内容を復習する(5～7h) | | | | | |
| 13 | 試験に向けての取り組み [準備・課題] 学んだ内容を復習、理解し、弾き込む(5～7h) | | | | | |
| 14 | 弾き込み 暗譜 [準備・課題] 学んだ内容を復習、理解し、弾き込む(5～7h) | | | | | |
| 15 | 弾き込み 仕上げ [準備・課題] 学んだ内容を復習、理解し、弾き込む(5～7h) | | | | | |
| 時間外での学習 | 色々なジャンルの音楽をたくさん聴きましょう。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 毎日の練習を怠らないよう、空き時間を利用して電子オルガンに向かいましょう。 オフィスアワーは、講義後教室にて行います。 | | | | | |

| P・O r アンサンブル I | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|-------------------|---|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]： 横井 香織・相原 里美 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | ピアノ連弾や2台ピアノ、2台電子オルガン、ピアノと電子オルガンのデュオなど、ソロとは違ったアンサンブルの音色や魅力、連帯感を楽しみながら、アンサンブルにおける演奏技術や表現力を身に付けます。また、アンサンブルを通して人と合わせることの難しさや大切さ、協調性や責任感なども学びます。 | | | | | |
| 授業方法 | 演習授業で、パートナーを決めて1組ずつレッスンを行います。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 各アンサンブル形態における演奏法についての知識を身に付け、理解することができる。(△) 2. [思考・判断・表現] 楽曲についてパートナーと研究し、楽曲にふさわしい演奏表現をすることができる。(◎) 3. [技能] アンサンブル演奏の技術を身に付け、各パートを把握・理解しながら、バランスの良いハーモニーで息の合った演奏をすることができる。(◎) 4. [関心・意欲・態度] パートナーと十分なコミュニケーションを図りながら積極的に取り組み、協調性・責任感を養うことができる。(○) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 実技試験 | - | 30 | 30 | - | 60 |
| | 中間発表 | - | 5 | 5 | - | 10 |
| | 受講態度 | 10 | - | - | 20 | 30 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 10 | 35 | 35 | 20 | 100 |
| 成績評価と割合 | 実技試験 60%、中間発表 10%、受講態度 30% の合計100%で評価します。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | 個々に合わせて選択します。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 個々に合わせて選択します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 授業説明（今後の授業の進め方等） パートナー決め 選曲（ピアノ連弾1曲と2台電子オルガン1曲） 〔準備・課題〕 選曲後、各自譜読みに取り組む（1～2h） | | | | | |
| 2 | レッスン（1） 〔準備・課題〕 譜読みの確認 見落としのないよう、正確に譜読みを行う（1～2h） | | | | | |
| 3 | レッスン（2） 〔準備・課題〕 合わせ ゆっくりなテンポで合わせて弾けるようにしておく（1～2h） | | | | | |
| 4 | レッスン（3） 〔準備・課題〕 バランスの確認 自分のパートの役割を理解して、全体のバランスを考える（1～2h） | | | | | |
| 5 | レッスン（4） 〔準備・課題〕 曲想 パートナーと楽曲を研究し、曲想を付ける（1～2h） | | | | | |
| 6 | レッスン（5） 〔準備・課題〕 音楽表現 表現力豊かな演奏ができるように弾き込む（1～2h） | | | | | |
| 7 | レッスン（6） 〔準備・課題〕 仕上げ バランス、呼吸、音楽表現を確認しながら仕上げる（1～2） | | | | | |
| 8 | 中間発表 試験曲決め 〔準備・課題〕 中間発表に向けて弾き込む（1～2h） | | | | | |
| 9 | 試験曲（1） 〔準備・課題〕 譜読みの確認 各自正確な譜読みをする（1～2h） | | | | | |
| 10 | 試験曲（2） 〔準備・課題〕 合わせ レッスンまでにパートナーと合わせをする（1～2h） | | | | | |
| 11 | 試験曲（3） 〔準備・課題〕 テクニックの向上 テクニック練習をし、自然に流れるような演奏を目指す（1～2h） | | | | | |
| 12 | 試験曲（4） 〔準備・課題〕 バランス 各パートの把握・理解をしてバランスづくりをする（1～2h） | | | | | |
| 13 | 試験曲（5） 〔準備・課題〕 曲想 楽曲にふさわしい曲想を付ける（1～2h） | | | | | |
| 14 | 試験曲（6） 〔準備・課題〕 音楽表現 弾き込んで表現力を磨く（1～2h） | | | | | |
| 15 | 試験曲（7） 〔準備・課題〕 仕上げ バランス、呼吸、音楽表現を確認しながら仕上げる（1～2h） | | | | | |
| 時間外での学習 | アンサンブル演奏の前提として、個々のパートの演奏力が必要ですので、責任を持って個々の練習を行いましょう。そして授業までにパートナーとの合わせ練習を行い、毎回の授業でアンサンブル演奏が成立するように準備してください。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 一人でも授業を欠席するとアンサンブルとしてのレッスンができませんので、欠席をしないようにしてください。オフィスアワーはB301・B302で授業前後の休み時間です。 | | | | | |

| 伴奏法（P） | | 音楽総合学科 | | 1年前期 | | |
|-----------------|---|--|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：横井 香織 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 伴奏法として誰もが思い浮かぶことの一つに、メロディーよりも控えめに演奏するということが挙げられるでしょう。しかし、それだけでは充分ではないことも周知のことです。この授業では、主に歌曲を用いて伴奏法を学修しますが、伴奏譜を弾くだけではなく、メロディーの歌詞の理解、呼吸、フレージング、構成などを深く理解することが大切であり、その理解が楽曲にふさわしい音楽表現に繋がると考えられます。これらを理解するために効果的な弾き歌いも学修し、また、様々な場面に対応するために、コードネーム付きメロディー譜の伴奏付けも学修します。 | | | | | |
| 授業方法 | 演習授業で、一人ずつ各曲の伴奏をレッスンします。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 伴奏についての知識を身に付け、理解することができる。 (○) 2. [思考・判断・表現] 楽曲を深く研究して理解し、ふさわしい演奏表現をすることができる。 (◎) 3. [技能] 適切な呼吸、フレージング、メロディーとのバランスを考えた伴奏ができる。 (◎) 4. [関心・意欲・態度] 他者とのコミュニケーション力や協調性を養いながら、積極的に学修することができる。 (○) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 試験 | - | 30 | 30 | - | 60 |
| | 受講態度 | 20 | - | - | 20 | 40 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 20 | 30 | 30 | 20 | 100 |
| 成績評価と割合 | 試験 60%、受講態度 40% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | その都度提示します。 | | | | | |
| 参考書・教材 | その都度提示します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | ガイダンス 授業の進め方について・伴奏について 等 [準備・課題] ピアノ伴奏のある演奏会やDVDなどで、伴奏とはどのようなものか観ておく（1～2h） | | | | | |
| 2 | 歌曲伴奏（1） [準備・課題] | 譜読み 選曲した曲の譜読みをし、ひと通り弾けるようにしておく（1～2h） | | | | |
| 3 | 歌曲伴奏（2） [準備・課題] | ブレス メロディーに合わせたブレスに気を付けながら練習する（1～2h） | | | | |
| 4 | 歌曲伴奏（3） [準備・課題] | バランス メロディーとのバランスを考える（1～2h） | | | | |
| 5 | 弾き歌い（1） [準備・課題] | メロディーの把握 小テストに向けて仕上げる メロディーを歌いながら伴奏を付けて弾き歌いができるようにしておく（1～2h） | | | | |
| 6 | 弾き歌い（2） [準備・課題] | ブレス メロディーとともにブレスを取って弾く（1～2h） | | | | |
| 7 | 弾き歌い（3） [準備・課題] | 曲想・音楽表現 楽曲にふさわしい曲想・表現を考える（1～2h） | | | | |
| 8 | コードネーム付きメロディー（1） [準備・課題] | コードネームについて 小テストに向けて仕上げる コードネームの知識を修得する（1～2h） | | | | |
| 9 | コードネーム付きメロディー（2） [準備・課題] | 片手伴奏・両手伴奏について 譜読みをしておく（1～2h） | | | | |
| 10 | コードネーム付きメロディー（3） [準備・課題] | 曲想・音楽表現 楽曲にふさわしい音楽表現ができるようにする（1～2h） | | | | |
| 11 | 試験曲（1） [準備・課題] | 譜読み・コード付け 小テストに向けて仕上げる 正確な譜読み、コード付けをしておく（1～2h） | | | | |
| 12 | 試験曲（2） [準備・課題] | テクニックの向上 スムーズに弾けるようにする（1～2h） | | | | |
| 13 | 試験曲（3） [準備・課題] | ブレス メロディーのブレスに合わせて弾けるようにする（1～2h） | | | | |
| 14 | 試験曲（4） [準備・課題] | 音楽表現 楽曲にふさわしい音楽表現を考える（1～2h） | | | | |
| 15 | 試験曲（5） [準備・課題] | 仕上げ メロディーとのバランス、曲想などを再確認する（1～2h） | | | | |
| 時間外での学習 | 歌曲や器楽曲の演奏会に出掛けたり、CD等を積極的に聴くなどして、メロディーと伴奏のバランス、伴奏の理解に努めましょう。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 伴奏によって楽曲の完成度が違ってきます。演奏技術や表現力を磨き、伴奏に活かしてください。 オフィスアワーはB206で授業前後の休み時間です。 | | | | | |

| オーケストレーション | | 音楽総合学科 | | 1年前期 | |
|-----------------|---|--------|--|------|------|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 |
| [教員]：石原 朱実 | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | |
| 授業内容 | 管楽器の音域や特色を理解しスコアリーディング（読譜）を通して、必要楽器・配置や編成を電子オルガン（ステージ）の三段楽譜に編曲する。 | | | | |
| 授業方法 | 電子オルガン（ステージ）のレジストレーション（音色研究、エフェクト効果）にて、オーケストラの様々な楽器を置き換え学びます。 | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 電子オルガンを用いて、ソロ・アンサンブルの音色、レジスト作りができる。 | | | | |

| ポピュラーリズム&コードブックレクション | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|----------------------|---|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：石原 朱実・野々垣 行恵 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 電子オルガン（ステージア）を用いて、ポピュラー音楽の様々なリズムとルーツを探り、ラテン楽器の使用とポピュラー音楽のコード・リズム表現を学ぶ。 | | | | | |
| 授業方法 | 前半5回レッスンで、ラテン楽器の理解と使用方法を学び、それを電子オルガン（ステージア）に表現できるようにする。ポピュラー音楽発祥の地ラテンアメリカの音楽を学ぶ。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] ポピュラー音楽の理解と表現が電子オルガン（ステージア）にてできる（○） 2. [知識・理解] Jazzなどポピュラーで使用するコード、和声進行の理解ができる（○） 3. [思考・判断・表現] ラテンリズムを電子オルガン（ステージア）で演奏・表現できるようにする（○） 4. [技能] 本来踊りの曲であることを認識し、演奏をすると自然に身体が動く様に、リズムを体感し表現できるようにする（◎） 5. [関心・意欲・態度] ラテン音楽で踊りを楽しむなど、体感表現することへの興味を高める事（○） | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 実技試験 | 10 | 10 | 20 | － | 40 |
| | 筆記試験 | 15 | 15 | － | － | 30 |
| | 受講態度 | － | － | 15 | 15 | 30 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 25 | 25 | 35 | 15 | 100 |
| 成績評価と割合 | 試験(実技・筆記) 70%、受講態度 30% の割合で評価します。 | | | | | |
| テキスト | ありません。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 実習課題はコピーで配布します。各ジャンルのCDを聞かせます。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1(野々垣) | ラテンパーカッションの理解と体験 [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 2(野々垣) | ラテンパーカッションの理解と体験 [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 3(野々垣) | ラテンパーカッションの理解と体験 [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 4(野々垣) | ラテンパーカッションの理解と体験 [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 5(野々垣) | ラテンパーカッションの理解と体験 [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 6(石原) | ポピュラー音楽、リズムの基礎 リズム楽器・打楽器の体験 [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 7(石原) | ラテン音楽の歴史 曲を聴かせ、そのルーツを探る [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 8(石原) | ラテンアメリカの国々のリズムと名称を覚え、そのリズムパターンを表現する [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 9(石原) | ビギン・ルンバの曲を聴き、表現する。コードの特徴を理解する [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 10(石原) | アンサンブルにて体験する [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 11(石原) | タンゴ・サンバの曲を聴き表現する。コード進行や特徴を覚える [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 12(石原) | アンサンブルにて体験する [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 13(石原) | Swing、8・16ビートの曲を聴き、コード進行や特徴を覚える [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 14(石原) | 今までのまとめとして電子オルガン（ステージア）で個々に発表・表現し、個人チェックをする [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 15(石原) | 筆記試験（ラテン音楽の歴史とリズムの特色） 16回目：実技試験（課題を与えソロ演奏） [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 時間外での学習 | 2・4・8・16ビートなど、ポピュラー音楽をCDやコンサートetc.などで積極的に聴いて、体でリズムを覚える事。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | リズムの世界をCD・ライブ演奏などから直接耳にし、体で感じて欲しい。 音楽を聴く時は、必ず体の一部で拍子・テンポをとって聴くようにする事。 オフィスアワーは非常勤講師控室にて毎週金曜日の12:40～12:55です。 | | | | | |

| プレイヤー演習Ⅰ | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|-----------------|---|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：松井 宏行 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 将来、音楽に関わる職業につくと、多かれ少なかれ、自身が奏者（＝プレイヤー）として演奏するシーンがあることでしょう。 この授業では、プレイヤーとして必要な知識を幅広く知り、またそれらを応用して、自らのステージに活かせるように取り組んでいきます。 | | | | | |
| 授業方法 | <演習> ・社会における種々の音楽に目を配り、それらのサウンド／奏法／表現／構成などを学ぶ。 ・各種のステージに応じたサウンド／奏法／表現／構成などを考える。 ・自身のオリジナリティを含んだステージを構成し実演する。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 様々なサウンド／奏法／表現／構成などを知り、世の中に溢れる音楽において、それらの存在を理解できる。(○) 2. [思考・判断・表現] 与えられた情報をもとに、適切なサウンド／奏法／表現／構成を用いたステージを構成できる。(◎) 3. [技能] 種々の音楽において、こだわりをもったサウンド／奏法／表現／構成ができる。また、適切なロールプレイングができる。(◎) 4. [関心・意欲・態度] サウンド／奏法／表現／構成を研究する上で生じる疑問を、自ら発見し、質問できる。(△) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 実技試験 | 10 | 15 | 15 | － | 40 |
| | 準備・課題 | 5 | 5 | － | － | 10 |
| | 課題提出 | 10 | 15 | 15 | － | 40 |
| | 受講態度 | － | － | － | 10 | 10 |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 25 | 35 | 30 | 10 | 100 |
| 成績評価と割合 | 実技試験（構成ステージの実演）40%、準備・課題 10%、課題提出（ステージ構成の制作）40%、受講態度 10% の割合で評価します。 | | | | | |
| テキスト | なし | | | | | |
| 参考書・教材 | 受講資料をプリントで配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 授業内容の紹介～ その必要性の理解 | | | | | |
| 2 | 様々な楽器と奏法(1) アコースティック楽器を知る [準備・課題]学んだことと実践内容の復習（1～2h） | | | | | |
| 3 | 様々な楽器と奏法(2) 電子楽器を知る [準備・課題]学んだことと実践内容の復習（1～2h） | | | | | |
| 4 | PA知識 [準備・課題]学んだことと実践内容の復習（1～2h） | | | | | |
| 5 | 音楽業界におけるスマートビジネスのいろいろ [準備・課題]学んだことの復習（1～2h） | | | | | |
| 6 | ステージング例の実演と理解(1) こども向けステージ [準備・課題]提示された設定でのステージを構成し、実演の準備をしてくる（1～4h） | | | | | |
| 7 | ステージング構成実践(1) こども向けステージ | | | | | |
| 8 | ステージング例の実演と理解(2) 大人一般向けステージ、市場ビジネスと絡んだステージ [準備・課題]提示された設定でのステージを構成し、実演の準備をしてくる（1～4h） | | | | | |
| 9 | ステージング構成実践(2) 大人一般向けステージ、市場ビジネスと絡んだステージ | | | | | |
| 10 | ステージング例の実演と理解(3) 種々のBGMの活用とその効果 | | | | | |
| 11 | ステージング例の実演と理解(4) イベント内容に適した演奏サイズ（カット） | | | | | |
| 12 | ステージング例の実演と理解(5) 季節を絡めたプログラム | | | | | |
| 13 | ステージング例の実演と理解(6) 独自のオリジナル要素を含んだプログラム | | | | | |
| 14 | ステージング構成実践(3) ここまでの習得知識を活用したトータルステージング制作 [準備・課題]最終提出課題を制作し、実技試験に向けた準備をする（1～5h） | | | | | |
| 15 | 自主企画への取り組み（発案～告知／リハーサル～本番／事後フォロー） [準備・課題]提出した課題にそって、実技試験に向けてステージを仕上げる（1～5h） | | | | | |
| 時間外での学習 | サウンド／奏法／表現／構成のヒントは至る所にあります。 プロミュージシャンの演奏はもちろんのこと、テレビ・ラジオ番組、テーマパークのショーなど様々な分野の音楽シーンに、日頃から目を向けてヒントを探すようにしましょう。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | この授業で得られる知識は、演奏者としてのステージに限らず、講師としてのレッスンの進行や、その他一般イベントにも活用し得る有意義な知識です。 あらゆるシーンで役立つ知識を身につけていきましょう。 [オフィスアワー]当授業の教室にて毎週火曜日16:15～16:20 | | | | | |

| 演奏グレード対策(ピアノA) I | | 音楽総合学科 | | 1年前期 | | |
|------------------|---|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：上園 弥生 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | ヤマハの演奏グレードの項目の実習 主に、即興演奏、初見演奏の実習を行います。 | | | | | |
| 授業方法 | グループレッスンですが、各々のレベルに合わせて個別指導もおこないます。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] ヤマハのグレードテストの内容を理解す。楽譜から雰囲気を読み取る。(○) 2. [思考・判断・表現] 適切な伴奏形、変奏の仕方を選択できる。(○) 3. [技能] 思った通りに演奏できる。(◎) 4. [関心・意欲・態度] 学んだ内容を復習する。(◎) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 実技試験 | 15 | 15 | 40 | - | 70 |
| | 受講態度 | - | - | - | 15 | 15 |
| | 課題に対する練習状況 | - | - | - | 15 | 15 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 15 | 15 | 40 | 30 | 100 |
| 成績評価と割合 | 実技試験 70%、受講態度 15%、課題に対する練習状況 15% の 合計 100% で評価します。 | | | | | |
| テキスト | 『ピアノ即興演奏法 [改訂版]』財団法人ヤマハ音楽振興会(売店で購入してください) | | | | | |
| 参考書・教材 | 授業開始後提示します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | ガイダンス 即興演奏の要素について [準備・課題]学習した事を復習し、練習する。(3～6h) | | | | | |
| 2 | バスの進行について [準備・課題]学習した事を復習し、練習する。(3～6h) | | | | | |
| 3 | コードネームについて [準備・課題]学習した事を復習し、練習する。(3～7h) | | | | | |
| 4 | 伴奏形について [準備・課題]学習した事を復習し、練習する。(5～7h) | | | | | |
| 5 | 変奏の仕方について [準備・課題]学習した事を復習し、練習する。(5～7h) | | | | | |
| 6 | 曲の構成について [準備・課題]学習した事を復習し、練習する。(3～6h) | | | | | |
| 7 | まとめ方 [準備・課題]学習した事を復習し、練習する。(5～7h) | | | | | |
| 8 | 重音奏について [準備・課題]学習した事を復習し、練習する。(5～7h) | | | | | |
| 9 | モチーフ即興について [準備・課題]学習した事を復習し、練習する。(3～5h) | | | | | |
| 10 | 実習 [準備・課題]学習した事を復習し、練習する。(5～7h) | | | | | |
| 11 | 実習 [準備・課題]学習した事を復習し、練習する。(5～7h) | | | | | |
| 12 | 実習 [準備・課題]学習した事を復習し、練習する。(5～7h) | | | | | |
| 13 | 実習 [準備・課題]学習した事を復習し、練習する。(5～7h) | | | | | |
| 14 | 実習 試験に向けての取り組み [準備・課題]学習した事を復習し、練習する。(6～9h) | | | | | |
| 15 | 実習 試験に向けての取り組み [準備・課題]学習した事を復習し、練習する。(6～7h) | | | | | |
| 時間外での学習 | 学習した事を毎日トレーニングしましょう。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 苦手意識を持たないで、積極的にとりくみましょう。 オフィスアワーは、講義後教室にて行います。 | | | | | |

| 演奏グレード対策(ピアノA)Ⅱ | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|-----------------|---|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：上園 弥生 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 引き続き、ヤマハのグレードの項目、即興演奏の基礎から応用まで、個々のレベルに合わせて勉強します。変奏パターンの定着と演奏表現を学びます。初見演奏のポイントを理解し練習します。 | | | | | |
| 授業方法 | グループレッスンですが、個別にも指導します。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] ヤマハのグレードテストの内容を理解す。楽譜から雰囲気を読み取る。(○) 2. [思考・判断・表現] 適切な伴奏形、変奏の仕方を選択できる。(○) 3. [技能] 思った通りに演奏できる。(◎) 4. [関心・意欲・態度] 学んだ内容を復習するグレードテストを受けられる力をつける。(◎) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 実技試験 | 15 | 15 | 40 | － | 70 |
| | 受講態度 | － | － | － | 15 | 15 |
| | 課題に対する練習状況 | － | － | － | 15 | 15 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 15 | 15 | 40 | 30 | 100 |
| 成績評価と割合 | 実技試験 70%、受講態度 15%、課題に対する練習状況 15% の 合計 100% で評価します。 | | | | | |
| テキスト | ありません。 | | | | | |
| 参考書・教材 | そのつど提示します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 前期の復習と確認 カデンツ、コードネーム について [準備、課題]学んだ事を理解し復習する。課題に取り組む。(3～5h) | | | | | |
| 2 | 伴奏付け 変奏の仕方について 確認 [準備、課題]学習した事を復習し、練習する。(3～5h) | | | | | |
| 3 | バス進行について確認 [準備、課題]学習した事を復習し、練習する。(5～7h) | | | | | |
| 4 | もりあげ方について [準備、課題]学習した事を復習し、練習する。(5～7h) | | | | | |
| 5 | クライマックスをどこにおくか [準備、課題]学習した事を復習し、練習する。(5～7h) | | | | | |
| 6 | モチーフ即興実習 [準備、課題]学習した事を復習し、練習する。(5～7h) | | | | | |
| 7 | Bの和音進行について [準備、課題]学習した事を復習し、練習する。(5～7h) | | | | | |
| 8 | 形式について 色々な拍子におけるまとめ方 [準備、課題]学習した事を復習し、練習する。(5～7h) | | | | | |
| 9 | モチーフの発展の仕方について [準備、課題]学習した事を復習し、練習する。(5～7h) | | | | | |
| 10 | 和音進行と配置について [準備、課題]学習した事を復習し、練習する。(5～7h) | | | | | |
| 11 | まとめ方について [準備、課題]学習した事を復習し、練習する。(5～7h) | | | | | |
| 12 | 即興演奏A課題実習 (試験に向けて) [準備、課題]学習した事を復習し、練習する。(5～7h) | | | | | |
| 13 | 即興演奏B課題実習 (試験に向けて) [準備、課題]学習した事を復習し、練習する。(5～7h) | | | | | |
| 14 | 初見演奏の予見について [準備、課題]学習した事を復習し、練習する。(5～7h) | | | | | |
| 15 | 初見演奏実習 [準備、課題]学習した事を復習し、練習する。(5～7h) | | | | | |
| 時間外での学習 | 学習した事を毎日繰り返し練習しましょう。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 苦手意識を持たないで、積極的に取り組みましょう。 オフィスアワーは、講義後教室にて行います。 | | | | | |

| 演奏グレード対策(ピアノB) I | | 音楽総合学科 | | 1年前期 | | |
|------------------|--|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]： 横井 香織 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | カワイピアノ演奏グレードの課題である和音記号付きメロディー&ベース、コード&ベースなどの伴奏付けを学修します。そのために必要な調や和音記号、コードネームなどの基礎知識を理解し、実習しながら修得します。 | | | | | |
| 授業方法 | 演習授業で、一人ずつ指導を行います。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 調性、和音、コードネームなどの基礎知識を理解することができる。 (◎) 2. [思考・判断・表現] 課題に適したベースやコードを的確に判断し、音楽的に演奏することができる。 (○) 3. [技能] 伴奏付けの演奏力を身に付けることができる。 (◎) 4. [関心・意欲・態度] 積極的に取り組み、技術修得のための努力を継続することができる。 (○) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 試験 | 30 | 20 | 30 | - | 80 |
| | 受講態度 | - | - | - | 20 | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 30 | 20 | 30 | 20 | 100 |
| 成績評価と割合 | 試験 80%、受講態度 20% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | 『キーボードトレーニング集A』 カワイ出版 進度が早い人は、『キーボードトレーニング集B』（カワイ出版）も準備してください。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 必要に応じて配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 授業説明 調について [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 2 | 和音記号・コードネームについて [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 3 | 固有和音 (1) I・Ⅳ・Ⅴ [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 4 | 固有和音 (2) Ⅵ・Ⅱ・Ⅲ [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 5 | 固有和音 (3) Ⅵ・Ⅱ・Ⅲ [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 6 | 借用和音 (1) ドッペルドミナント [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 7 | 借用和音 (2) ドッペルドミナント [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 8 | その他の借用和音 (1) [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 9 | その他の借用和音 (2) [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 10 | 転回形によるベース (1) I・Ⅱの第1 転回形 [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 11 | 転回形によるベース (2) Ⅳの第2 転回形・属7 の第1 転回形 [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 12 | 転回形によるベース (3) Ⅳの第1 転回形・属7 の第2・3 転回形 [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 13 | スタンダード曲 (1) [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 14 | スタンダード曲 (2) [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 15 | 試験対策 [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 時間外での学習 | 授業で学んだことを必ず復習しましょう。毎日の積み重ねが大切です。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 基礎的知識の理解ができていないと実践ができません。積極的に理解に努め、スムーズに演奏できるよう努力をしましょう。 オフィスアワーは研究室B206で授業前後の休み時間です。 | | | | | |

| 演奏グレード対策(ピアノB)Ⅱ | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|-----------------|--|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：横井 香織 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 前期に引き続き、カワイピアノ演奏グレードの課題である和音記号付きメロディー&ベース、コード&ベースなどの伴奏付けを学修します。修得した知識と技術を活かし、さらに発展していきます。 | | | | | |
| 授業方法 | 演習授業で、一人ずつ指導を行います。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 調性、和音、コードネームなどの基礎知識を理解することができる。 (○) 2. [思考・判断・表現] 課題に適したベースやコードを的確に判断し、音楽的に演奏することができる。 (◎) 3. [技能] 伴奏付けの演奏力を身に付けることができる。 (◎) 4. [関心・意欲・態度] 積極的に取り組み、技術修得のための努力を継続することができる。 (○) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 試験 | 20 | 30 | 30 | - | 80 |
| | 受講態度 | - | - | - | 20 | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 20 | 30 | 30 | 20 | 100 |
| 成績評価と割合 | 試験 80%、受講態度 20% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | 『キーボードトレーニング集B』カワイ出版 | | | | | |
| 参考書・教材 | 必要に応じて配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 前期の復習 固有和音 [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 2 | 借用和音 (1) ドッペルドミナント・Ⅱの第1 転回形 [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 3 | 借用和音 (2) IVマイナー [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 4 | 借用和音 (3) [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 5 | 借用和音 (4) [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 6 | 借用和音 (5) [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 7 | 借用和音 (6) [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 8 | 復習 [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 9 | ディミニッシュ [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 10 | 転調 [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 11 | スタンダード曲 (1) [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 12 | スタンダード曲 (2) [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 13 | スタンダード曲 (3) [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 14 | 試験対策 (1) [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 15 | 試験対策 (2) [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 時間外での学習 | 授業で学んだことを必ず復習しましょう。毎日の積み重ねが大切です。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 基礎知識を確実に理解し、応用できるように努めましょう。 オフィスアワーは研究室B206で授業前後の休み時間です。 | | | | | |

| 演奏グレード対策(電子オルガン)Ⅰ | | 音楽総合学科 | | 1年前期 | | |
|-------------------|---|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：石原 朱実 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 演奏グレード即興A、Bモチーフ即興 5級程度の課題演習 基礎編（オルタネートベース、カウンター奏、メロディフェイク、ブロック奏） | | | | | |
| 授業方法 | テキストの項目順に基礎作りのためのトレーニング、カデンツ、スケールetc. # ♭ 3つまでコードパターントレーニング | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 即興演奏とは何かを理解する（○） 2. [知識・理解] 音楽の形式、構造、和声の仕組みを理解できる（○） 3. [知識・理解] 即興A、新曲の形式を捉え、曲想を把握できる（○） 4. [思考・判断・表現] 与えられたテーマから曲想を読み取りリズムを感じられるようにする（○） 5. [技能] 楽譜を指示通り弾くのみでなく、自分なりのアレンジ演奏ができる。（◎） 6. [関心・意欲・態度] 自分なりのアレンジ演奏ができるという喜びを感じるようになること（◎） | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 実技試験 | 20 | 20 | 20 | 10 | 70 |
| | 受講態度 | - | - | 10 | 20 | 30 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 20 | 20 | 30 | 30 | 100 |
| 成績評価と割合 | 実技試験70% 課題消化（受講態度）30% で評価します。 | | | | | |
| テキスト | 『エレクトーン即興演奏法基礎編』財団法人ヤマハ音楽振興会 『新即興演奏課題曲集VOL. 10』財団法人ヤマハ音楽振興会 | | | | | |
| 参考書・教材 | その他はコピーで渡します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 即興演奏とは何か A新曲課題 Bモチーフ即興 [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 2 | 即興における基礎トレーニング、コードネーム、カデンツ、スケールの確認 [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 3 | オルタネーティングベースについて I→V 7 I→II 7→V 7 I→IV→V 7 基本的ラインの説明 [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 4 | コードパターンによる演習 [準備・課題]学んだ内容の復習(3～7h) | | | | | |
| 5 | カウンターラインとは？ 指導筆記グレードとの共通性について [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 6 | コードパターンによる演習 [準備・課題]学んだ内容の復習(3～7h) | | | | | |
| 7 | 即興A新曲演奏：形式、構造、リズムの捉え方 [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 8 | リズムパターンの説明：ラテン（ビギン、ルンバ）スウィング、ロック（8，16ビート）ワルツ [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 9 | 既成曲をコピーして渡し、それを演奏する [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 10 | メロディーフェイクについて [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 11 | 課題による演習 [準備・課題]学んだ内容の復習(3～7h) | | | | | |
| 12 | ブロック奏とは？ メロディにその他のパートを付ける方法 [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 13 | 課題による演習 [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 14 | 課題による演習 [準備・課題]学んだ内容の復習(3～7h) | | | | | |
| 15 | 即興A新曲演奏のまとめ、個人チェック [準備・課題]学んだ内容の復習(3～7h) | | | | | |
| 時間外での学習 | 多くの音楽を注意深く聴き、多くの良質のアレンジ譜を演奏する中でフィーリングを培っていく。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | ひたすら粘り強く、着実に練習してください。 オフィスアワーは非常勤講師控室にて毎週金曜日の12:40～12:55です。 | | | | | |

| 演奏グレード対策(電子オルガン)Ⅱ | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|-------------------|---|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：石原 朱実 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 即興演奏A：前期に学んだ基礎の確認と応用 即興演奏B：モチーフ即興の演習と5級程度の課題実習 | | | | | |
| 授業方法 | 前期に学んだスケール、カデンツ、コード進行の基礎確認と演奏グレード5級実技試験問題集の実習 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 即興演奏を通じて楽曲構成と和声進行、リズム etc.を理解し、内容を即座に捉え演奏できるようにする。(○) 2. [思考・判断・表現] 演奏グレード5級程度の課題に、音楽として曲想、表現力をつけられる。(○) 3. [技能] 楽譜を指示通り弾くのみでなく、自分なりのアレンジ演奏ができる。(◎) 4. [関心・意欲・態度] 自分なりのアレンジ演奏ができるという喜びを感じるようになること (◎) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 実技試験 | 20 | 20 | 20 | 10 | 70 |
| | 受講態度 | - | - | 10 | 20 | 30 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 20 | 20 | 30 | 30 | 100 |
| 成績評価と割合 | 実技試験70% 授業態度30% で評価します。 | | | | | |
| テキスト | 『演奏グレード5級実技試験問題一覧2006～2012年』財団法人ヤマハ音楽振興会 | | | | | |
| 参考書・教材 | コピーにて渡します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 前期で学んだ基礎項目（オルタネートベース・カウンターライン・リズム設定）の確認 [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 2 | モチーフ即興について 曲の構成・2部3部形式 [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 3 | 2小節程度のモチーフの発展の仕方 [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 4 | 反復進行、ゼクエンツについて [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 5 | メロディーの反復とコード進行の反復について [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 6 | サビのメロディーの作り方とコードパターンの説明 [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 7 | 課題の演習 [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 8 | 課題の演習 [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 9 | 個人チェック 前もって与えられた課題を発表 [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 10 | 過去の問題集より実習 [準備・課題]学んだ内容の復習(3～7h) | | | | | |
| 11 | 初見演奏とは [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 12 | 課題の演習 [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 13 | 即興A 新曲演奏のまとめ [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 14 | 即興B モチーフ即興のまとめ [準備・課題]学んだ内容の復習(3～7h) | | | | | |
| 15 | 実際の試験と同様、緊張感の中での即興演奏 [準備・課題]学んだ内容の復習(3～7h) | | | | | |
| 時間外での学習 | 前期と同じく、多くの音楽を聴き、その曲の構成・和声進行をアナリーゼし、即興演奏に応用できるようにする。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | # ｂ 3つまでの長短調スケール・カデンツは確実にできるようにすること。 オフィスアワーは非常勤講師控室にて毎週金曜日の12:40～12:55です。 | | | | | |

| 指導グレード対策 A I | | 音楽総合学科 | | 1年前期 | | |
|-----------------|---|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：石原 朱実 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 指導グレード 筆記・実技試験に向けての内容理解 課題問題のアナリゼ、基本トレーニング | | | | | |
| 授業方法 | 課題実習と過去問題集の分析、キーボードハーモニーの実習、コードトレーニング | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 指導グレード5級を目指し、同程度の問題の理解と実習ができる（筆記）。(◎) 2. [思考・判断・表現] 指導グレード5級を目指し、同程度の問題の理解と実習ができる（実技）。(◎) 3. [技能] ソルフェージュ力をつけ、楽譜を見て頭で音を鳴らすことができるようにする。(○) 4. [関心・意欲・態度] 筆記・実技演習を通して個々のハーモニーの理解と楽曲の解釈、演奏に繋げる。(○) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 筆記試験 | 15 | 15 | 10 | － | 40 |
| | 実技試験 | 15 | 15 | 10 | － | 40 |
| | 受講態度 | － | － | － | 20 | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 30 | 30 | 20 | 20 | 100 |
| 成績評価と割合 | 筆記試験40% 実技試験40% 受講態度（課題消化）20% で評価します。 | | | | | |
| テキスト | 『指導グレード5～3級 筆記実技試験問題一覧2006～2012年実施』財団法人ヤマハ音楽振興会 | | | | | |
| 参考書・教材 | その他の資料はコピーを渡します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | コードネームの理解、スケール・カデンツ＃b 3つまで [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 2 | キーボードハーモニーとは？ コード進行法 パターンの色々 [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 3 | コードトレーニング、基本進行 I IV V I 各調に移調 [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 4 | コードトレーニング、基本進行 I IV V I 各調に移調 [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 5 | 伴奏付けの基本マスター ベース進行法 [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 6 | 伴奏付けの基本マスター ベース進行法 [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 7 | 伴奏付けの応用パターン トレーニング [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 8 | 伴奏付けの応用パターン トレーニング [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 9 | 筆記試験問題 課題 音程の確認 基本 [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 10 | 応用問題 課題 [準備・課題]学んだ内容の復習(3～6h) | | | | | |
| 11 | ソルフェージュ メロディ視唱 発声法 [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 12 | 弾き歌いに用いられるコードパターン [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 13 | 課題の分析と実習 [準備・課題]学んだ内容の復習(3～6h) | | | | | |
| 14 | 前期のまとめとして、コード進行・キーボードハーモニーの確認 [準備・課題]学んだ内容の復習(2～5h) | | | | | |
| 15 | 筆記試験 第16回目：実技試験 [準備・課題]学んだ内容の復習(3～6h) | | | | | |
| 時間外での学習 | ここのピアノ、電子オルガンでのレパートリー曲集などアナリゼして、曲の構成を日頃から理解できるようにする。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 毎回授業で与えられた課題の復習、ドリルを欠かさずにやる事。 オフィスアワーは非常勤講師控室にて毎週金曜日の12:40～12:55です。 | | | | | |

| 指導グレード対策AⅡ | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|-----------------|---|--------|----------|------|----------|----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：石原 朱実 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 指導グレード：筆記・実技試験に向けての実習 筆記試験問題（コード進行法、カウンター、楽典） | | | | | |
| 授業方法 | 過去の問題集、新曲、キーボードトレーニング | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 指導グレード・5級曲程度の問題消化（実技・筆記）（◎） 2. [思考・判断・表現] 個々にハーモニー、楽曲の解釈が身についている事（◎） 3. [技能] ソルフェージュ力、楽譜を読み解く力を向上させ、演奏に繋げられるようにする。（○） 4. [関心・意欲・態度] 実際の試験と同じ緊張感の中で問題の消化ができる事（○） | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 筆記試験 | 15 | 15 | 10 | － | 40 |
| | 実技試験 | 15 | 15 | 10 | － | 40 |
| | 受講態度 | － | － | － | 20 | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 合 計 | 30 | 30 | 20 | 20 | 100 | |
| 成績評価と割合 | 筆記試験40% 実技試験40% 受講態度20% で評価します。 | | | | | |
| テキスト | 『指導グレード5～3級筆記実技試験問題一覧2006～2012年実施』ヤマハ音楽振興会 | | | | | |
| 参考書・教材 | コピーにて渡します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | コード進行法、借用和音の説明 [準備・課題]学んだ内容の復習及び練習（2～5h） | | | | | |
| 2 | 借用和音を取り入れたパターンの説明 [準備・課題]学んだ内容の復習及び練習（2～5h） | | | | | |
| 3 | ベースライン、カウンターラインの効果的な使い方 [準備・課題]学んだ内容の復習及び練習（2～5h） | | | | | |
| 4 | ベースライン、カウンターラインの効果的な使い方 [準備・課題]学んだ内容の復習及び練習（2～5h） | | | | | |
| 5 | 基本パターンの個人チェック [準備・課題]学んだ内容の復習及び練習（2～5h） | | | | | |
| 6 | カウンターライン、筆記問題への導入 [準備・課題]学んだ内容の復習及び練習（2～5h） | | | | | |
| 7 | 応用問題の実習 [準備・課題]学んだ内容の復習及び練習（2～5h） | | | | | |
| 8 | コード進行法、カウンターラインの確認 [準備・課題]学んだ内容の復習及び練習（2～5h） | | | | | |
| 9 | 課題の演習 [準備・課題]学んだ内容の復習及び練習（2～5h） | | | | | |
| 10 | 実技問題 伴奏付け・新曲視唱、弾き歌い [準備・課題]学んだ内容の復習及び練習（2～5h） | | | | | |
| 11 | 聴音、移調奏の導入 [準備・課題]学んだ内容の復習及び練習（2～5h） | | | | | |
| 12 | 問題の演習 [準備・課題]学んだ内容の復習及び練習（2～5h） | | | | | |
| 13 | 問題の演習 [準備・課題]学んだ内容の復習及び練習（2～5h） | | | | | |
| 14 | 筆記・実技試験における問題の最終チェック [準備・課題]学んだ内容の復習及び練習（2～5h） | | | | | |
| 15 | 実際の指導グレード試験と同じく全科目の筆記試験 16回目：実技試験 [準備・課題]学んだ内容の復習及び練習（3～8h） | | | | | |
| 時間外での学習 | 前期と同じく個々のレパートリー曲の構成とアナリゼを必ずする事。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 課題の反復と、キーボードハーモニー、コードトレーニングを欠かさない事。 オフィスアワーは非常勤講師控室にて毎週金曜日の12:40～12:55です。 | | | | | |

| 指導グレード対策 B I | | 音楽総合学科 | | 1年前期 | | |
|-----------------|--|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]： 横井 香織 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | カワイピアノ指導グレードの内容である、音楽用語、楽語、音程、和音記号・コードネーム、音階などの知識と、聴音を学修します。 | | | | | |
| 授業方法 | 演習授業で、問題を解きながら進めます。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 音楽知識を理解し修得することができる。(◎) 2. [思考・判断・表現] 修得した知識を応用することができる。(○) 3. [技術] 聴音能力を身に付けることができる。(◎) 4. [関心・意欲・態度] 積極的な取り組みが継続できる。(○) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 試験 | 30 | 20 | 30 | － | 80 |
| | 受講態度 | － | － | － | 20 | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 30 | 20 | 30 | 20 | 100 |
| 成績評価と割合 | 試験 80%、受講態度 20% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | 『キーボード・アレンジ ピアノ篇』カワイ出版 『音楽用語ハンドブック<改訂版>』カワイ出版 | | | | | |
| 参考書・教材 | 必要に応じて配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 授業説明 音名について 幹音名と派生音名／聴音 [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 2 | 音程 (1) 幹音どうしの音程／聴音 [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 3 | 音程 (2) 派生音を含む音程／聴音 [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 4 | 調について 調号・近親調／聴音 [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 5 | 音階 (1) 音階各音の音程関係／聴音 [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 6 | 音階 (2) 長音階・短音階／聴音 [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 7 | 和音 (1) 和音の種類／聴音 [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 8 | 和音 (2) 音階の各音上にできる和音／聴音 [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 9 | コードネーム (1) 長・短音階上の3和音／聴音 [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 10 | コードネーム (2) 長・短音階上の7の和音・その他の4和音／聴音 [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 11 | 楽語 (1) 速度標語・強弱／聴音 [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 12 | 楽語 (2) 曲想標語／聴音 [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 13 | 音楽用語 (1) ・聴音 [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 14 | 音楽用語 (2) ・聴音 [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 15 | 試験対策 [準備・課題] 学修した内容の復習 (1h) | | | | | |
| 時間外での学習 | 自主的に様々な問題を数多く解きましょう。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 分からないことは質問するなどし、必ず解決しましょう。 オフィスアワーは研究室B206で授業前後の休み時間です。 | | | | | |

| 指導グレード対策BⅡ | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|-----------------|--|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：横井 香織 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 前期の内容に加え、カワイピアノ指導グレードの内容である、音楽用語、楽曲の知識、コードネーム、調判定・移調、楽曲分析などの知識と、聴音を学修します。 | | | | | |
| 授業方法 | 演習授業で、問題を解きながら進めます。 | | | | | |
| 到達目標 | 1.[知識・理解] 音楽知識を理解し修得することができる。(◎) 2.[思考・判断・表現] 修得した知識を応用することができる。(○) 3.[技術] 聴音能力を身に付けることができる。(◎) 4.[関心・意欲・態度] 積極的な取り組みが継続できる。(○) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 試験 | 30 | 20 | 30 | － | 80 |
| | 受講態度 | － | － | － | 20 | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 30 | 20 | 30 | 20 | 100 |
| 成績評価と割合 | 試験 80%、受講態度 20% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | 『キーボード・アレンジ ピアノ篇』カワイ出版 『音楽用語ハンドブック<改訂版>』カワイ出版 | | | | | |
| 参考書・教材 | 必要に応じて配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 和音（3） 和音の転回／聴音 [準備・課題] 学修した内容の復習（1h） | | | | | |
| 2 | 調判定（1）／聴音 [準備・課題] 学修した内容の復習（1h） | | | | | |
| 3 | 調判定（2）／聴音 [準備・課題] 学修した内容の復習（1h） | | | | | |
| 4 | 移調／聴音 [準備・課題] 学修した内容の復習（1h） | | | | | |
| 5 | 楽曲の形式（1）／聴音 [準備・課題] 学修した内容の復習（1h） | | | | | |
| 6 | 楽曲の形式（2）／聴音 [準備・課題] 学修した内容の復習（1h） | | | | | |
| 7 | 曲種について（1）／聴音 [準備・課題] 学修した内容の復習（1h） | | | | | |
| 8 | 曲種について（2）／聴音 [準備・課題] 学修した内容の復習（1h） | | | | | |
| 9 | 音楽用語（3）／聴音 [準備・課題] 学修した内容の復習（1h） | | | | | |
| 10 | 音楽用語（4）／聴音 [準備・課題] 学修した内容の復習（1h） | | | | | |
| 11 | 楽器について（1）／聴音 [準備・課題] 学修した内容の復習（1h） | | | | | |
| 12 | 楽器について（2）／聴音 [準備・課題] 学修した内容の復習（1h） | | | | | |
| 13 | 名曲について（1）／聴音 [準備・課題] 学修した内容の復習（1h） | | | | | |
| 14 | 名曲について（2）／聴音 [準備・課題] 学修した内容の復習（1h） | | | | | |
| 15 | 試験対策 [準備・課題] 学修した内容の復習（1h） | | | | | |
| 時間外での学習 | 自主的に様々な問題を数多く解きましょう。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 分からないことは質問するなどし、必ず解決しましょう。 オフィスアワーは研究室B206で授業前後の休み時間です。 | | | | | |

| 和声学Ⅰ | | 音楽総合学科 | | 1年前期 | | |
|-----------------|--|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：三輪 泰子 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 指導グレードに必要な和声学を身に付け、グレード取得を目指します。 | | | | | |
| 授業方法 | 講義形式ですが、課題理解のための個人指導にも力を入れていきます。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 和声の基礎的な知識を身に付ける。 (◎) 2. [思考・判断・表現] 西洋音楽の土台となっている和声感を感じられるようになる。 (○) 3. [技能] グレード取得により、社会的な評価を得る。 (○) 4. [関心・意欲・態度] 常識としての和声の知識を演奏、創作、音楽指導活動に活かせるようにする。 (△) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 試験 | 50 | 20 | 20 | － | 90 |
| | 受講態度 | － | － | － | 10 | 10 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 50 | 20 | 20 | 10 | 100 |
| 成績評価と割合 | 試験90%、受講態度10%で評価します。 欠席は、減点とし、3分の1以上欠席した学生には、単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | 『和声 理論と実習 Ⅰ』音楽之友社(売店で購入してください) | | | | | |
| 参考書・教材 | 特にありません。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 和声学の予備知識 [課題]教科書を購入して、読んでみましょう。(1h) | | | | | |
| 2 | 基本位置3和音の配置 [課題]課題1.2を解いてみましょう。(1h) | | | | | |
| 3 | 基本位置3和音の配置 [課題]課題3.4を解いてみましょう。(1h) | | | | | |
| 4 | 基本位置3和音の配置 [課題]課題5 (Ⅱ→Ⅴ) を解いてみましょう。(1h) | | | | | |
| 5 | 基本位置3和音の配置 [課題]課題6 (Ⅴ→Ⅵ) を解いてみましょう。(1h) | | | | | |
| 6 | 和音設定の原理 [課題]課題7 (T, D, S) を解いてみましょう。(1h) | | | | | |
| 7 | 和音設定の原理 [課題]課題8 (複合カデンツ) を解いてみましょう。(1h) | | | | | |
| 8 | 和音設定の原理 [課題]課題9 (終止形) を解いてみましょう。(1h) | | | | | |
| 9 | 各種の調 (長調) [課題]課題10を解いてみましょう。(1h) | | | | | |
| 10 | 各種の調 (短調) [課題]課題11を解いてみましょう。(1h) | | | | | |
| 11 | 各種の調 (総合) [課題]課題12を解いてみましょう。(1h) | | | | | |
| 12 | 補充課題 [課題]3和音基本位置 (1～3) を解いてみましょう。 | | | | | |
| 13 | 補充課題 [課題]3和音基本位置 (4～6) を解いてみましょう。(1h) | | | | | |
| 14 | 補充課題 [課題]3和音基本位置 (7～10) を解いてみましょう。(1h) | | | | | |
| 15 | 期末テストに向けて質疑応答 [課題]わからない所を質問できるようにまとめておきましょう。(1h) | | | | | |
| 時間外での学習 | 理解のためには、授業内の演習だけでなく、予習復習が必要不可欠です。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 和声学は、西洋音楽の基本です。演奏力、アレンジ力向上のためにも、積極的に受講してください。 オフィスアワーは、教室で授業前後です。 | | | | | |

| 和声学Ⅱ | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | | |
|-----------------|--|--------|-------|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | | |
| [教員]：三輪 泰子 | | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | | |
| 授業内容 | 指導グレードに必要な和声学を身に付け、グレード取得を目指します。 | | | | | | |
| 授業方法 | 講義形式ですが、課題理解のための個人指導にも力を入れていきます。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 和声の基礎的な知識を身に付ける。(◎) 2. [思考・判断・表現] 西洋音楽の土台となっている和声感を感じられるようになる。(○) 3. [技能] グレード取得により、社会的な評価を得る。(○) 4. [関心・意欲・態度] 常識としての和声の知識を演奏、創作、音楽指導活動に活かせるようにする。(△) | | | | | | |
| 観点別評価 | | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 試験 | | 50 | 20 | 20 | － | 90 |
| | 受講態度 | | － | － | － | 10 | 10 |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | 合 計 | | 50 | 20 | 20 | 10 | 100 |
| 成績評価と割合 | 試験90%、受講態度10%で評価します。 欠席は、減点とし、3分の1以上欠席した学生には、単位を与えません。 | | | | | | |
| テキスト | 『和声 理論と実習 I』音楽之友社(売店で購入してください) | | | | | | |
| 参考書・教材 | 特にありません。 | | | | | | |
| 内容 | | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | | |
| 1 | 3和音の第1転回位置 [課題]課題13、14、15を解いてみましょう。(1h) | | | | | | |
| 2 | 3和音の第1転回位置 [課題]課題16、17、18を解いてみましょう。(1h) | | | | | | |
| 3 | 3和音の第1転回位置 [課題]課題19 (1～4) を解いてみましょう。(1h) | | | | | | |
| 4 | 3和音の第1転回位置 [課題]課題19 (5～8) を解いてみましょう。(1h) | | | | | | |
| 5 | 3和音の第1転回位置 [課題]課題19 (9～12) を解いてみましょう。(1h) | | | | | | |
| 6 | 補充課題の実習 (第1転回位置) [課題]課題 (1～5) を解いてみましょう。(1h) | | | | | | |
| 7 | 補充課題の実習 (第1転回位置) [課題]課題 (6～10) を解いてみましょう。(1h) | | | | | | |
| 8 | 3和音の第2転回位置 [課題]課題20、21、22を解いてみましょう。(1h) | | | | | | |
| 9 | 3和音の第2転回位置 [課題]課題23、24 (1～4) を解いてみましょう。(1h) | | | | | | |
| 10 | 3和音の第2転回位置 [課題]課題24 (5～12) を解いてみましょう。(1h) | | | | | | |
| 11 | 属7の和音 [課題]課題25、26、27を解いてみましょう。(1h) | | | | | | |
| 12 | 属7の和音 [課題]課題28 (1～6) を解いてみましょう。(1h) | | | | | | |
| 13 | 属7の和音 [課題]課題28 (7～12) を解いてみましょう。(1h) | | | | | | |
| 14 | 属7の和音 [課題]課題30を解いてみましょう。(1h) | | | | | | |
| 15 | 期末テストに向けて質疑応答(1h) [課題]わからない所を質問できるようにまとめておきましょう。(1h) | | | | | | |
| 時間外での学習 | 理解のためには、授業内の演習だけでなく、予習復習が必要不可欠です。 | | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 和声学は、西洋音楽の基本です。演奏力、アレンジ力向上のためにも、積極的に受講してください。 オフィスアワーは、教室で授業前後です。 | | | | | | |

| 音楽総合特講Ⅰ | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|-------------------|--|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 2単位 | | 講義 | 30時間 | |
| [教員]：鈴木 孝育・矢田貝 真一 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 音楽の学びを深めていくために基礎的な教養の涵養を図るとともに、音楽に関して学んだ成果を公務として直接生かしていける職業（音楽活動によって職務を果たす自衛隊音楽隊・警察音楽隊・消防音楽隊などの公務員）に求められる基本的な教養についての理解を図ります。また音楽隊の隊員もしくは人事担当者をゲスト・スピーカーとして招き、活動や求められる資質等の基本について理解を図ります。 | | | | | |
| 授業方法 | 高校までの国語・社会・数学・英語の基礎的な内容について復習を行い、教養として必要な基本的事項の理解と定着を図ります。そのための教材として、実際の採用試験の問題等を活用しながら、学修を進めていきます。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 音楽を学ぶ基盤となる国語、社会、数学、英語についての基礎的な知識を復習して定着させられる。（◎） 2. [思考・判断・表現] 復習した基礎的な知識を、音楽活動に必要な思考力や判断力、表現力を培うために活用させようと努力できる。（○） 3. [関心・意欲・態度] 音楽を学ぶために必要となる豊かな教養を高められるよう、積極的に継続した学びの態度を身につけることができる。（○） | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 筆記試験 | 60 | － | － | － | 60 |
| | 学修記録表 | － | 10 | － | 10 | 20 |
| | 学修成果の自己評価 | － | 5 | － | 5 | 10 |
| | 受講態度（学修・提出などの状況） | － | 5 | － | 5 | 10 |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 60 | 20 | － | 20 | 100 |
| 成績評価と割合 | 筆記試験 60%、学修記録表 20%、学修成果の自己評価 10%、受講態度(学修・提出等の状況) 10% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、授業回数の3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | 授業で指示します。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 授業で指示もしくは配付します。 | | | | | |
| 内 容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | ガイダンス：音楽総合特講の目的と目標、授業の進め方や学修活動、準備物の説明、確認テスト [準備・課題]確認テストの復習を確実に行う（3～5h） | | | | | |
| 2 | 英語の発音、アクセント、英単語、疑問文や否定文 [準備・課題]学んだ内容の復習と次時内容の予習を確実に行う（3～5h） | | | | | |
| 3 | 英語（2）英語の命令文、感嘆文、基本5文型、未来形、助動詞や比較形 [準備・課題]学んだ内容の復習と次時内容の予習を確実に行う（3～5h） | | | | | |
| 4 | 英語（3）現在完了、受動態、不定詞や動名詞 [準備・課題]学んだ内容の復習と次時内容の予習を確実に行う（3～5h） | | | | | |
| 5 | 英語（4）関係代名詞、関係副詞、分詞、接続詞や付加疑問文 [準備・課題]学んだ内容の復習と次時内容の予習を確実に行う（3～5h） | | | | | |
| 6 | 英語（5）前置詞、対話文や英文解釈 [準備・課題]英語全5回の復習を確実に行う（3～5h） | | | | | |
| 7 | 地理・漢字の定着と発展 [準備・課題]学んだ内容の復習と次時内容の予習を確実に行う（3～5h） | | | | | |
| 8 | 式の計算・漢字の定着と発展 [準備・課題]学んだ内容の復習と次時内容の予習を確実に行う（3～5h） | | | | | |
| 9 | 日本史・漢字の定着と発展 [準備・課題]学んだ内容の復習と次時内容の予習を確実に行う（3～5h） | | | | | |
| 10 | 文字式・漢字の定着と発展 [準備・課題]学んだ内容の復習と次時内容の予習を確実に行う（3～5h） | | | | | |
| 11 | 日本史・漢字の定着と発展 [準備・課題]学んだ内容の復習と次時内容の予習を確実に行う（3～5h） | | | | | |
| 12 | 2式の展開と因数分解・同字異読語の定着と発展 [準備・課題]学んだ内容の復習とまとめに向けた学修を確実に行う（3～5h） | | | | | |
| 13 | 中間まとめ(第7週～12週までの学修の確認と定着) [準備・課題]学んだ内容の総合的な復習を行う（2～6h） | | | | | |
| 14 | 警察音楽隊講話：隊の活動状況、警察における音楽隊の役割（外部講師） [準備・課題]学んだ内容の復習とまとめに向けた学修を確実に行う（3～5h） | | | | | |
| 15 | 自衛隊音楽隊講話：隊の活動状況、自衛隊における音楽隊の役割（外部講師） [準備・課題]学んだ内容の復習と全体の総合的な復習を確実に行う（3～5h） | | | | | |
| 時間外での学習 | 学修した問題や課題とされた問題を確実に自主学習し、内容の定着を図ってください。授業以外での学修の取組が希望の実現を確実に左右します。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 音楽を活用する公務員への就職をめざして、採用試験を想定した学修や音楽隊の活動内容を学びます。音楽隊以外をめざす学生にとっても活用可能な内容です。積極的に学ぼうとする意識をもって受講してください。＊授業の順序や内容は、進捗等の都合で変更されることがあります。オフィスアワー：質問等があれば、授業後に担当教員に申し出てください。 | | | | | |

| ヴォーカルⅠ | | 音楽総合学科 | | 1年前期 | | | |
|-----------------|---|--------|-------|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | | |
| [教員]：五島　由美子 | | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | | |
| 授業内容 | 声楽の基礎を学び、様々な音楽に取り入れていく。前期においては発声の技術を身につけ、コンコーネ、イタリア歌曲での実践により、演奏技術を高めていく。 | | | | | | |
| 授業方法 | 視聴覚教材を取り入れながらグループレッスンを基本とし、相互の演奏技術を高めていきます。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解]　　　　　音楽の基礎的な理論や、曲の生まれた背景を理解し、人に音楽を伝えるための知識を習得することが出来る。(○) 2. [思考・判断・表現]　　音楽演奏や教育を行うにあたって必要な理論を適切に判断し、相手の理解に応じて伝えることが出来る。(△) 3. [技術]　　　　　　　音楽の専門家としての情報収集能力と技術をもち、関係職種と連携できるコミュニケーション能力がある。(◎) 4. [関心・意欲・態度]　　常に自己資質の向上をめざし、積極的に音楽を通して人とコミュニケーションをとろうとする意欲がある。(◎) | | | | | | |
| 観点別評価 | | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 発表レポート | | 10 | 10 | 20 | 30 | 70 |
| | 自己評価 | | － | － | 5 | 5 | 10 |
| | 受講態度 | | 5 | － | 5 | 10 | 20 |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | 合　計 | | 15 | 10 | 30 | 45 | 100 |
| 成績評価と割合 | 発表レポート 70%、自己評価 10%、受講態度 20% の 合計 100% で評価します。欠席は減点とし、3分の1以上欠席の学生には単位を与えません。 | | | | | | |
| テキスト | 『コンコーネ50番(中声用)』全音楽譜出版社 『イタリア歌曲集 1 中声用 [新版]』全音楽譜出版社 何れも手持可 | | | | | | |
| 参考書・教材 | なし | | | | | | |
| 内 容 | | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | | |
| 1 | 発声のしくみを考える [準備・課題] 声を出し易くするため、柔軟体操をしてくる (1～2h) | | | | | | |
| 2 | 響鳴する声とは…を考える [準備・課題] 身体各所の開放する訓練をしてくる (1～2h) | | | | | | |
| 3 | 母音での発声の違いについて学ぶ [準備・課題] ア・イ・ウ・エ・オの発音を明確にしてくる (1～2h) | | | | | | |
| 4 | イタリア語の発音を学ぶ [準備・課題] 巻き舌の訓練をしてくる (1～2h) | | | | | | |
| 5 | 母音唱法を交えながらイタリア歌曲を歌唱する (Caro mio benの歌唱) [準備・課題] 母音で既習の課題を歌唱してくる (1～2h) | | | | | | |
| 6 | イタリア語独自の発音を考慮しながら歌唱する (Caro mio ben暗譜で発表) [準備・課題] 発表に際して暗譜で臨む (1～2h) | | | | | | |
| 7 | 歌詞の内容を理解しながら歌唱することが出来る (Nel cor piu non mi sentoの歌唱) [準備・課題] 正確に歌唱するための予備練習をしてくる (1～2h) | | | | | | |
| 8 | 高音の発声法を考える (Nel cor piu non mi sentoの発表) [準備・課題] 高音のポジションを考えながら歌唱する (1～2h) | | | | | | |
| 9 | 低音の発声法を考える (Ninaの歌唱) [準備・課題] ペルゴレージについて文献を調べる (1～2h) | | | | | | |
| 10 | 中音の発声を考える (この回から日本歌曲も取り入れ中音域の発生を学ぶ) Nina仕上げ、浜辺の歌 [準備・課題] 日本歌曲について調べてくる (1～2h) | | | | | | |
| 11 | イタリア歌曲・日本歌曲の相違点を学ぶ (言語の違いによる声の出し方) 浜辺の歌仕上げ、Sebben cnudele [準備・課題] 日本歌曲の暗譜とイタリア語のディクシオン予習してくる (1～2h) | | | | | | |
| 12 | 音楽と息の流れを感じながら歌唱できる この道、Sebben cnudele仕上げ [準備・課題] 山田耕作についての文献を調べる (1～2h) | | | | | | |
| 13 | 日本語独自の言葉について学ぶ この道仕上げ Star vicinoの歌唱 [準備・課題] この道 暗譜してくる (1～2h) | | | | | | |
| 14 | イタリア歌曲 日本歌曲の仕上げ (作曲者の意図を汲み取る演奏が出来る) 荒城の月の歌唱 [準備・課題] 滝廉太郎について文献を調べる (1～2h) | | | | | | |
| 15 | イタリア歌曲 日本歌曲より 1 曲ずつ選択し発表する (発表後意見交換講評する) [準備・課題] 各自選曲した曲を暗譜で歌えるようにする (1～2h) | | | | | | |
| 時間外での学習 | 何れの音も正確に歌える訓練をすること。 | | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 身体が楽器ですので、体調管理に気を受けましょう。 オフィスアワーは授業後教室にて　月曜日12:10～12:30 | | | | | | |

| ヴォーカルⅡ | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|-----------------|---|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]： 五島 由美子 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 一年前期で学んだヴォーカルの基本にもとづき、更に多声音楽へと導入していく。 二声、三声の学修をする。 オペラ・オペラミュージカルを学ぶ。 | | | | | |
| 授業方法 | グループレッスンの中で相互に他声を聴き合い、意見交換をする。 オペラ・ミュージカルのそれぞれの初回の講義においては、DVDの視聴覚によりスムーズに導入する。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 音楽の基礎的な理論や、曲の生まれた背景を理解し、人に音楽を伝えるための知識を習得することが出来る。(○) 2. [思考・判断・表現] 音楽演奏や教育を行うにあたって必要な理論を適切に判断し、相手の理解に応じて伝えることが出来る。(◎) 3. [技術] 音楽の専門家としての情報収集能力と技術をもち、関係職種と連携できるコミュニケーション能力がある。(○) 4. [関心・意欲・態度] 常に自己資質の向上をめざし、積極的に音楽を通して人とコミュニケーションをとろうとする意欲がある。(○) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 発表レポート | 10 | 30 | 15 | 10 | 65 |
| | 自己評価 | 5 | 5 | 5 | 5 | 20 |
| | 受講態度 | 5 | 5 | - | 5 | 15 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 20 | 40 | 20 | 20 | 100 |
| 成績評価と割合 | 発表レポート 65%、自己評価 20%、受講態度 15% の 合計 100% で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席の学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | 『コンコーネ50番(中声用)』全音楽譜出版社 『イタリア歌曲集 1 中声用 [新版]』全音楽譜出版社 何れも手持可 | | | | | |
| 参考書・教材 | なし | | | | | |
| 内 容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | オペラ1 (オペラの歴史と変遷を学ぶ 今回取り上げるモーツァルト (フィガロの結婚DVD鑑賞)) [準備・課題] オペラ (フィガロの結婚) について文献を調べる (1～2h) | | | | | |
| 2 | 登場人物の役柄・特徴などを研究し、声と役割について発表する [準備・課題] DVDでの視聴により、役のイメージ作りをする (1～2h) | | | | | |
| 3 | 登場人物 (ケルビーノ) についてその登場人物の役割を発表する [準備・課題] ケルビーノのアリアを歌唱する (1～2h) | | | | | |
| 4 | アリアのまとめ 登場人物になりきって歌う 発表 [準備・課題] アリアを暗譜で歌える (1～2h) | | | | | |
| 5 | 重唱研究1 オペラ中の二重唱を歌唱する [準備・課題] 二人の人物に分かれて歌う 発表 (1～2h) | | | | | |
| 6 | 重唱研究2 登場人物になりきって歌唱する [準備・課題] お互いの声を聴き合うことが出来る (1～2h) | | | | | |
| 7 | 重唱研究3 「手紙の二重唱」仕上げ 発表 [準備・課題] それぞれの役になりきって歌う練習をする (1～2h) | | | | | |
| 8 | オペラ試験 [準備・課題] 暗譜でその役になりきり歌唱できる (1～2h) | | | | | |
| 9 | ミュージカル1 サウンド・オブ・ミュージックを取り上げる その歴史と内容を研究しDVD鑑賞をし意見交換する [準備・課題] 楽譜プリントを配布するので読譜してくる (1～2h) | | | | | |
| 10 | ミュージカル2 サウンド・オブ・ミュージックより (ドレミの歌 1) [準備・課題] 各パートに分かれて歌うことができる (1～2h) | | | | | |
| 11 | ミュージカル3 サウンド・オブ・ミュージック (ドレミの歌 2) [準備・課題] パート別で暗譜で歌える (1～2h) | | | | | |
| 12 | ミュージカル4 サウンド・オブ・ミュージック (ドレミの歌 仕上げ) 発表 [準備・課題] 各パートの音を聴きながら自分の音楽が出来る (1～2h) | | | | | |
| 13 | ミュージカル5 サウンド・オブ・ミュージック (ひとりぼっちの羊飼い 1) それぞれのパートを歌う [準備・課題] 読譜してくる (1～2h) | | | | | |
| 14 | ミュージカル6 サウンド・オブ・ミュージック (ひとりぼっちの羊飼い 2) [準備・課題] 各パートに別れる (1～2h) | | | | | |
| 15 | ミュージカル7 サウンド・オブ・ミュージック (ひとりぼっちの羊飼い 仕上げ) 発表 [準備・課題] 他パートの音を聴きながら自分の音楽を表現できる (1～2h) | | | | | |
| 時間外での学習 | 他声部とのコミュニケーションを常にとること。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 毎日正しい音程をとる練習をしましょう。 オフィスアワーは授業後教室にて 月曜日12:10～12:30 | | | | | |

| ソルフェージュⅠ | | 音楽総合学科 | | 1年前期 | | |
|-----------------|---|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：五島 由美子 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 音楽を的確に表現するための音楽的基礎能力の育成、聴覚訓練をしていきます。 | | | | | |
| 授業方法 | 実技、実践を中心として基礎的な音楽知識の習得をしていきます。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 音感、リズム感、和声感を身につけフレーズを理解し音楽活動の基礎を養う。(○) 2. [思考・判断・表現] 得られた知識を実際の音楽の現場に対応できるものにする。(△) 3. [技術] 音楽の専門家としての情報収集能力と技術をもち、関係職種と連携できるコミュニケーション能力がある。(○) 4. [関心・意欲・態度] 常に自己資質の向上をめざし、積極的に音楽を通して人とコミュニケーションをとろうとする意欲がある。(◎) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 発表（グループ発表含む） | 5 | 10 | 10 | 40 | 65 |
| | 筆記試験 | 10 | - | 10 | - | 20 |
| | 自己評価 | 5 | - | - | 5 | 10 |
| | 受講態度 | - | - | - | 5 | 5 |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 20 | 10 | 20 | 50 | 100 |
| 成績評価と割合 | 発表 65%、筆記試験 20%、自己評価 10%、受講態度 5% の 合計 100% で評価します。 | | | | | |
| テキスト | 『コールユーブンゲン』大阪開成館 『コンコーネ50番(中声用)』全音楽譜出版社 『新曲視唱(1)』エー・ティー・エヌ 何れも手持可 | | | | | |
| 参考書・教材 | なし | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | ソルフェージュについて（授業ガイダンス、ソルフェージュの理解と確認） [準備・課題] これまでに学んだことのあるソルフェージュについての質疑応答。(1～2h) | | | | | |
| 2 | 音楽の3要素よりメロディーについて学ぶ [準備・課題] 読譜・歌唱演習とコールユーブンゲンNo. 18、No. 19を予習。(1～2h) | | | | | |
| 3 | 音楽の3要素よりリズムについて学ぶ [準備・課題] プリントのリズム練習について学ぶ。(1～2h) | | | | | |
| 4 | 音楽の3要素より和音について学ぶ（二声、三声） [準備・課題] 二声、三声を歌唱、ピアノで演奏する。(1～2h) | | | | | |
| 5 | 既習の学習成果の確認テストを行う [準備・課題] 既習のメロディー、リズム、和音を書き取り、歌唱することが出来る。(1～2h) | | | | | |
| 6 | 音楽の三要素よりメロディー、リズムについて学ぶ [準備・課題] 課題のプリントを復習し確実なものにする。(1～2h) | | | | | |
| 7 | 音楽の三要素よりメロディー、リズムについて学ぶ [準備・課題] コールユーブンゲンNo. 20、No. 23の予習をし、リズムを体得する。(1～2h) | | | | | |
| 8 | 四度音程の理解をする 四度和音について学ぶ [準備・課題] コールユーブンゲンNo. 24～No. 29の予習をする。(1～2h) | | | | | |
| 9 | 五度音程の理解をする 五度和音について学ぶ [準備・課題] 五度音程の理解をしておく。コールユーブンゲンNo. 30～No. 35の予習をする。(1～2h) | | | | | |
| 10 | 確認テストを行う NO. 35まで [準備・課題] コールユーブンゲンNO. 35までの復習をする(1～2h) | | | | | |
| 11 | 六度音程の理解をする 六度和音について学ぶ [準備・課題] 六度音程の理解をしておく。コールユーブンゲンNo. 36～No. 40の予習をする。(1～2h) | | | | | |
| 12 | 七度音程の理解をする 七度和音について学ぶ [準備・課題] 七度音程の理解をしておく。コールユーブンゲンNo. 42、No. 45の予習をする。(1～2h) | | | | | |
| 13 | 既習のメロディー、リズム、和音の展開演習 [準備・課題] 既習の演習課題を復習しておく。(1～2h) | | | | | |
| 14 | 既習のメロディー、リズム、和音の展開演習 [準備・課題] 既習の演習課題を復習しておく。(1～2h) | | | | | |
| 15 | 確認テストを行う [準備・課題] 既習の演習課題を復習しておく。(1～2h) | | | | | |
| 時間外での学習 | 毎回授業で学んだ課題の復習、予習をしっかりと行うことがソルフェージュ上達を確実なものにします。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 一回一回の授業がとても大切です。欠席しないよう体調にも気を付けてください。 オフィスアワーは授業後教室にて 木曜日12:10～12:30、木曜日14:30～14:40 | | | | | |

| ソルフェージュⅡ | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|-----------------|---|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：五島 由美子 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 一年前期で習得した音楽を、更なる確に表現するための音楽的基礎能力の育成、聴覚訓練をしていきます。 | | | | | |
| 授業方法 | 実技、実践を中心として基礎的な音楽知識の習得をしていきます。 | | | | | |
| 到達目標 | 1.[知識・理解] 音感、リズム感、和声感を身につけフレーズを理解し音楽活動の基礎を養う。(○) 2.[思考・判断・表現] 得られた知識を実際の音楽の現場に対応できるものにする。(△) 3.[技術] 音楽の専門家としての情報収集能力と技術をもち、関係職種と連携できるコミュニケーション能力がある。(○) 4.[関心・意欲・態度] 常に自己資質の向上をめざし、積極的に音楽を通して人とコミュニケーションをとろうとする意欲がある。(◎) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 発表（グループ発表含む） | 5 | 10 | 10 | 40 | 65 |
| | 筆記試験 | 10 | － | 10 | － | 20 |
| | 自己評価 | 5 | － | － | 5 | 10 |
| | 受講態度 | － | － | － | 5 | 5 |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 20 | 10 | 20 | 50 | 100 |
| 成績評価と割合 | 発表 65%、筆記試験 20%、自己評価 10%、受講態度 5% の 合計 100% で評価します。 | | | | | |
| テキスト | 『コールユーブンゲン』大阪開成館 『コンコーネ50番(中声用)』全音楽譜出版社 『新曲視唱(1)』エー・ティー・エヌ 何れも手持可 | | | | | |
| 参考書・教材 | なし | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 調の関係を理解する（長音階） [準備・課題] ト長調の歌唱・読譜・記譜を学ぶ。(1～2h) コールユーブンゲン No. 48 | | | | | |
| 2 | 嬰種長音階を理解する [準備・課題] ニ長調の歌唱・読譜・記譜を学ぶ。(1～2h) コールユーブンゲン No. 49 | | | | | |
| 3 | 嬰種長音階を理解する [準備・課題] イ長調の歌唱・読譜・記譜を学ぶ。(1～2h) コールユーブンゲン No. 50 | | | | | |
| 4 | 変種長音階を理解する [準備・課題] ヘ長調の歌唱・読譜・記譜を学ぶ。(1～2h) コールユーブンゲン No. 59 | | | | | |
| 5 | 変種長音階を理解する [準備・課題] 変ロ長調の歌唱・読譜・記譜を学ぶ。(1～2h) コールユーブンゲン No. 58 | | | | | |
| 6 | 変種長音階を理解する [準備・課題] 変ホ長調の歌唱・読譜・記譜を学ぶ。(1～2h) コールユーブンゲン No. 57 | | | | | |
| 7 | 既習課題の確認テスト [準備・課題] 既習全長音階の課題を理解する。(1～2h) | | | | | |
| 8 | 短音階を理解する [準備・課題] イ短調の歌唱・読譜・記譜を学ぶ。(1～2h) コールユーブンゲンNo. 60, 76 | | | | | |
| 9 | 嬰種短音階を理解する [準備・課題] ホ短調の歌唱・読譜・記譜を学ぶ。(1～2h) コールユーブンゲン No. 77 | | | | | |
| 10 | 嬰種短音階を理解する [準備・課題] ロ短調の歌唱・読譜・記譜を学ぶ。(1～2h) コールユーブンゲン No. 78 | | | | | |
| 11 | 嬰種短音階を理解する [準備・課題] 嬰ヘ短調の歌唱・読譜・記譜を学ぶ。(1～2h) コールユーブンゲン No. 79 | | | | | |
| 12 | 変種短音階を理解する [準備・課題] 二短調の歌唱・読譜・記譜を学ぶ。(1～2h) コールユーブンゲン No. 75 | | | | | |
| 13 | 変種短音階を理解する [準備・課題] ト短調の歌唱・読譜・記譜を学ぶ。(1～2h) コールユーブンゲン No. 74 | | | | | |
| 14 | 変種短音階を理解する [準備・課題] 変ハ短調の歌唱・読譜・記譜を学ぶ。(1～2h) コールユーブンゲン No. 73 | | | | | |
| 15 | 既習課題の確認テスト [準備・課題] 既習短音階の課題を理解する。(1～2h) | | | | | |
| 時間外での学習 | 毎回授業で学んだ課題の復習、予習をしっかりと行うことがソルフェージュ上達を確実なものにします。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 一回一回の授業がとても大切です。欠席しないよう体調にも気を付けてください。 オフィスアワーは授業後教室にて 木曜日12:10～12:30、木曜日14:30～14:40 | | | | | |

| 音楽理論Ⅰ | | 音楽総合学科 | | 1年前期 | | |
|-----------------|--|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 2単位 | | 講義 | 30時間 | |
| [教員]： 横井 香織 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 音楽を演奏するためには、楽譜についての「約束事」を知る必要があります。それが音楽理論です。すでに知っていることなども、基本から系統立てて学修します。音・音楽についての正確な知識を身に付け、自身の演奏する楽曲について理解を高め、演奏に活かされることを目指します。 | | | | | |
| 授業方法 | 講義授業ですが、問題を解きながら進めていきます。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 楽譜についての基礎的な知識を理解することができる。（◎） 2. [思考・判断・表現] 修得した基礎知識を応用することができる。（○） 3. [関心・意欲・態度] 理論を実践に活かすことができるよう、意欲的に取り組むことができる。（○） | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 試験 | 40 | 20 | － | － | 60 |
| | 小テスト | 15 | 5 | － | － | 20 |
| | 受講態度 | － | － | － | 20 | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 55 | 25 | － | 20 | 100 |
| 成績評価と割合 | 試験 60%、小テスト 20%、受講態度 20% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | 『新装版「楽典」理論と実習』音楽之友社 五線ノートも準備してください。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 必要な資料等は配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 授業説明 音・純正律と十二平均律 楽譜の書き方 [準備・課題] テキストの序章をひと通り読んでおく、音部記号・音符を書いてみる（2h） | | | | | |
| 2 | 譜表と音名 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題（2h） | | | | | |
| 3 | 音符と休符 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題（2h） | | | | | |
| 4 | リズムと拍子（1） リズム、拍と拍子、拍子の記法、拍子に関する演奏上の注意、強起と弱起 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題（4h） | | | | | |
| 5 | リズムと拍子（2） 拍子の種類、拍子の変化、シンコペーション、リズムに関する記譜上の注意 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題（4h） | | | | | |
| 6 | 音程（1） 度数、音程における完全・長・短などの種類、幹音どうしの2音によってできる音程 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題（4h） | | | | | |
| 7 | 音程（2） 派生音（＃・♭などのついた音）を含む2音によってできる音程 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題（4h） | | | | | |
| 8 | 音程（3） 複音程 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題（4h） | | | | | |
| 9 | 音程（4） 音程の転回、協和音程と不協和音程 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題（4h） | | | | | |
| 10 | 音階（1） 長音階と短音階① [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題（4h） | | | | | |
| 11 | 音階（2） 長音階と短音階② [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題（4h） | | | | | |
| 12 | 音階（3） 調① [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題（4h） | | | | | |
| 13 | 音階（4） 調② [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題（4h） | | | | | |
| 14 | 音階（5） 調の相互関係 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題（4h） | | | | | |
| 15 | 前期まとめ [準備・課題] 学修した内容の復習・試験対策（4～10h） | | | | | |
| 時間外での学習 | 復習・宿題は必ず行いましょう。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 一項目ずつ理解し次々と応用していけるよう、欠席はせず、理解できないことは積極的に質問してください。 オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。 | | | | | |

| 音楽理論Ⅱ | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|-----------------|--|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 2単位 | | 講義 | 30時間 | |
| [教員]：横井 香織 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 前期に引き続き、音・音楽についての正確な知識を身に付け、音楽理論の理解を深めていきます。学修した理論が実践に活かされることを目指します。 | | | | | |
| 授業方法 | 講義授業ですが、問題を解きながら進めていきます。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 楽譜についての基礎的な知識を理解することができる。（◎） 2. [思考・判断・表現] 修得した基礎知識を応用することができる。（○） 3. [関心・意欲・態度] 理論を実践に活かすことができるよう、意欲的に取り組むことができる。（○） | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 試験 | 40 | 20 | － | － | 60 |
| | 小テスト | 15 | 5 | － | － | 20 |
| | 受講態度 | － | － | － | 20 | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 55 | 25 | － | 20 | 100 |
| 成績評価と割合 | 試験 60%、小テスト 20%、受講態度 20% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | 『新装版「楽典」理論と実習』音楽之友社 五線ノートも準備してください。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 必要な資料等は配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 音階（6） 移調と転調① [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題（4h） | | | | | |
| 2 | 音階（7） 移調と転調② [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題（4h） | | | | | |
| 3 | 音階（8） 調の判定① [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題（4h） | | | | | |
| 4 | 音階（9） 調の判定② [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題（4h） | | | | | |
| 5 | 音階（10） 調の判定③、その他の音階 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題（4h） | | | | | |
| 6 | 和音（1） 三和音と七の和音 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題（4h） | | | | | |
| 7 | 和音（2） 三和音の種類 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題（4h） | | | | | |
| 8 | 和音（3） 和音の基本形および転回形 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題（4h） | | | | | |
| 9 | 和音（4） 音階各音上の三和音、七の和音 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題（4h） | | | | | |
| 10 | 和音（5） 和音の機能、主要三和音と副三和音 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題（4h） | | | | | |
| 11 | 速さ・強さに関する表示法 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題（4h） | | | | | |
| 12 | 曲想・奏法に関する表示法（1） 曲想に関する用語（発想標語） [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題（4h） | | | | | |
| 13 | 曲想・奏法に関する表示法（2） 奏法を指示する用語・記号 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題（4h） | | | | | |
| 14 | 曲想に関する表示法（3） 装飾音・装飾記号、略記法 [準備・課題] 学修した内容の復習・宿題（4h） | | | | | |
| 15 | まとめ [準備・課題] 学修した内容の復習・試験対策（4h） | | | | | |
| 時間外での学習 | 復習・宿題は必ず行いましょう。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 一項目ずつ理解し次々と応用していけるよう、欠席はせず、理解できないことは積極的に質問してください。 オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。 | | | | | |

| 音楽史 I | | 音楽総合学科 | | 1年前期 | | |
|-----------------|--|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 2単位 | | 講義 | 30時間 | |
| [教員]：三輪 泰子 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 音楽のルーツ、歴史、作曲家が生きた時代とその生涯について学びます。 | | | | | |
| 授業方法 | 講義形式で行います。自分に必要な音楽をたくさん聴きたい、感じたい、学びたいという姿勢で取り組んで欲しいので、ノートは、必ず、取っていただきます。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 音楽史の基礎的な知識を身に付け、人に伝えられるようになる。(◎) 2. [思考・判断・表現] 音楽分野全般へ感性を深めるために、音楽の背景を知る。(○) 3. [技能] 音楽史を学ぶ事により得た情報能力を、コミュニケーション能力に発展させる。(○) 4. [関心・意欲・態度] 常識としての音楽史を演奏、音楽指導活動に活かせるようにする。(○) | | | | | |
| 観点別評価 | | | | | | |
| | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | レポート | 40 | 20 | 20 | - | 80 |
| | ノートチェック | - | - | - | 10 | 10 |
| | 受講態度 | - | - | - | 10 | 10 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 40 | 20 | 20 | 20 | 100 |
| 成績評価と割合 | レポート(2回)80%、ノートチェック(2回)10%、受講態度10% で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生のは、単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | 『西洋音楽史概説』門馬直美著 春秋社(売店で購入してください) | | | | | |
| 参考書・教材 | 特にありません。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 古代、中世の音楽 [課題]音楽史の本を読んでみましょう。(1h) | | | | | |
| 2 | ルネサンス音楽 [課題]モンテベルディ、パレストリーナを聴いてみましょう。(1h) | | | | | |
| 3 | バロック音楽 [課題]ヴィヴァルディ、バッハ、ヘンデルを聴いてみましょう。(1h) | | | | | |
| 4 | クラシック音楽 [課題]モーツァルトを聴いてみましょう。(1h) | | | | | |
| 5 | クラシック音楽 [課題]ベートーヴェンを聴いてみましょう。(1h) | | | | | |
| 6 | ロマン主義音楽 [課題]メンデルスゾーン、シューベルトを聴いてみましょう。(1h) | | | | | |
| 7 | ロマン主義音楽 [課題]シューマン、ショパンを聴いてみましょう。(1h) | | | | | |
| 8 | 第1回レポート [課題]興味・関心を持った作曲家、曲、時代について、調べてまとめましょう。(1h) | | | | | |
| 9 | ロマン主義音楽 [課題]リストを聴いてみましょう。(1h) | | | | | |
| 10 | 新ロマン主義音楽 [課題]ヴァーグナー、ブラームスを聴いてみましょう。(1h) | | | | | |
| 11 | フランス音楽 [課題]ビゼー、サンサーンスを聴いてみましょう。(1h) | | | | | |
| 12 | イタリア音楽 [課題]ヴェルディ、プッチーニを聴いてみましょう。(1h) | | | | | |
| 13 | イギリス音楽 [課題]エルガー、ホルストを聴いてみましょう。(1h) | | | | | |
| 14 | ウィーンの音楽 [課題]Jシュトラウスを聴いてみましょう。(1h) | | | | | |
| 15 | アメリカの音楽 [課題]フォスター、ガーシュウィンを聴いてみましょう。(1h) | | | | | |
| 時間外での学習 | 興味をもった作曲家について調べたり、音楽を聴いたりしてください。図書館を有効利用するのも良いと思います。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 音楽を勉強していく上で、音楽史を知することは、演奏力の向上にもつながると思います。積極的に受講してください。 一生懸命書いたノートは、大切な記録となると思います。 オフィスアワーは、教室で授業前後です。 | | | | | |

| 音楽史Ⅱ | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|-----------------|--|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 2単位 | | 講義 | 30時間 | |
| [教員]：三輪 泰子 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 音楽のルーツ、歴史、作曲家が生きた時代とその生涯について学びます。 | | | | | |
| 授業方法 | 講義形式で行います。自分に必要な音楽をたくさん聴きたい、感じたい、学びたいという姿勢で取り組んで欲しいので、ノートは、必ず、取っていただきます。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 音楽史の基礎的な知識を身に付け、人に伝えられるようになる。（◎） 2. [思考・判断・表現] 音楽分野全般へ感性を深めるために、音楽の背景を知る。（○） 3. [技能] 音楽史を学ぶ事により得た情報能力を、コミュニケーション能力に発展させる。（○） 4. [関心・意欲・態度] 常識としての音楽史を演奏、音楽指導活動に活かせるようにする。（○） | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | レポート | 40 | 20 | 20 | － | 80 |
| | ノートチェック | － | － | － | 10 | 10 |
| | 受講態度 | － | － | － | 10 | 10 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 40 | 20 | 20 | 20 | 100 |
| 成績評価と割合 | レポート(2回)80%、ノートチェック(2回)10%、受講態度10% で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生のは、単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | 『西洋音楽史概説』門馬直美著 春秋社(売店で購入してください) | | | | | |
| 参考書・教材 | 特にありません。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | ロシアの音楽 [課題]ロシア5人組、ムソルグスキーの音楽を聴いてみましょう。（1h） | | | | | |
| 2 | ロシアの音楽 [課題]チャイコフスキーの音楽を聴いてみましょう。（1h） | | | | | |
| 3 | ノルウェー、フィンランドの民族主義音楽 [課題]グリーク・シベリウスの音楽を聴いてみましょう。（1h） | | | | | |
| 4 | チェコスロヴァキアの音楽 [課題]スメタナ、ドヴォルザークの音楽を聴いてみましょう。（1h） | | | | | |
| 5 | スペインの音楽 [課題]アルベニス、グラナドスの音楽を聴いてみましょう。（1h） | | | | | |
| 6 | 民族主義音楽のまとめ [課題]お気に入りの曲を見つけて聴いてみおましよう。（1h） | | | | | |
| 7 | 第3回レポート [課題]ノートチェックもしますので、忘れないようにしましょう。（1h） | | | | | |
| 8 | 近代・現代の音楽 [課題]ドビュッシー・ラヴェルの音楽を聴いてみましょう。（1h） | | | | | |
| 9 | 近代・現代の音楽 [課題]シェーンベルク、ストラヴィンスキーの音楽を聴いてみましょう。（1h） | | | | | |
| 10 | 近代・現代の音楽 [課題]プロコフィエフ、ショスタコーヴィチの音楽を聴いてみましょう。（1h） | | | | | |
| 11 | 近代・現代の音楽 [課題]ハチャトゥーリアンの音楽を聴いてみましょう。（1h） | | | | | |
| 12 | 近代・現代の音楽 [課題]カバレフスキーの音楽を聴いてみましょう。（1h） | | | | | |
| 13 | 近代・現代の音楽 [課題]バルトークの音楽を聴いてみましょう。（1h） | | | | | |
| 14 | 日本の音楽 [課題]日本の音色にも、耳を傾けてみましょう。（1h） | | | | | |
| 15 | 世界の音楽 [課題]インターネットを利用して、動画を見てみましょう。（1h） | | | | | |
| 時間外での学習 | 興味をもった作曲家について調べたり、音楽を聴いたりしてください。図書館を有効利用するのも良いと思います。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 音楽を勉強していく上で、音楽史を知することは、演奏力の向上にもつながると思います。積極的に受講してください。 一生懸命書いたノートは、大切な記録となると、思います。 オフィスアワーは、教室で授業前後です。 | | | | | |

| 鍵盤楽器Ⅰ | | 音楽総合学科 | | 1年前期 | | |
|------------------------------|---|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：横井 香織・河村 義子・野口 歩・三ツ橋 義晴 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | ピアノ（鍵盤楽器）の基礎的な音楽知識を理解して、演奏技術や表現力を習得していくことにより、音楽の素晴らしさを感じ、それぞれの専攻に役立てていくことができる。 | | | | | |
| 授業方法 | 一人一人の進度に合った個人レッスンです。 （レッスンの時間までは各自、練習室で自主練習してください） | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] ピアノの基礎的な奏法を理解し、演奏するための知識を身につけることができる。（○） 2. [思考・判断・表現] 演奏する曲に対する思考力と表現力を習得することができる。（◎） 3. [技能] 自身の演奏技術を磨き、各専門分野に結び付け役立てていくことができる。（◎） 4. [関心・意欲・態度] 音楽に対する関心を持ち、自己研鑽していくことができる。（○） | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 実技試験 | - | 30 | 35 | - | 65 |
| | 受講態度 | 20 | - | - | 15 | 35 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 20 | 30 | 35 | 15 | 100 |
| 成績評価と割合 | ・実技試験：65% 受講態度：35% の合計100%で評価します。 ・欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | ありません。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 個々のレベルに合った楽譜を選択します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 授業の説明 [準備・課題] 授業の進め方を説明し、次回からのレッスン曲を決める（1～2h） | | | | | |
| 2 | 練習曲・指使い [準備・課題] 譜読みをし、指のポジションや指使いを確認する（1～2h） | | | | | |
| 3 | 練習曲・部分練習 [準備・課題] レッソンの復習をし、片手奏や部分練習を行う（1～2h） | | | | | |
| 4 | 練習曲・音楽表現 [準備・課題] レッソンの復習をし、音の強弱やバランスを考えて演奏する（1～2h） | | | | | |
| 5 | 練習曲・曲想 [準備・課題] レッソンの復習をし、曲想を付ける（1～2h） | | | | | |
| 6 | 練習曲・弾き込み [準備・課題] レッソンの復習をし、曲の流れをつかむ（1～2h） | | | | | |
| 7 | 練習曲・仕上げ [準備・課題] レッソンの復習をし、曲をまとめる（1～2h） | | | | | |
| 8 | 試験曲・譜読み [準備・課題] 前期試験のための曲を選曲し譜読みをする（1～2h） | | | | | |
| 9 | 試験曲・指使い [準備・課題] レッソンの復習をし、指使いの工夫やポジションの再確認をする（1～2h） | | | | | |
| 10 | 試験曲・曲想 [準備・課題] レッソンの復習をし、曲にふさわしいテンポや響きを作り出す（1～2h） | | | | | |
| 11 | 試験曲・フレージング・バランス [準備・課題] レッソンの復習をし、音楽の流れやバランスを考える（1～2h） | | | | | |
| 12 | 試験曲・暗譜 [準備・課題] レッソンの復習をし、丁寧に暗譜をする（1～2h） | | | | | |
| 13 | 試験曲・弾き込む [準備・課題] レッソンの復習をし、曲の流れを捉えて弾き込む（1～2h） | | | | | |
| 14 | 試験曲・仕上げ [準備・課題] レッソンの復習をし、曲をまとめる（1～2h） | | | | | |
| 15 | 試験曲・休暇中の課題曲決め [準備・課題] 試験曲を自信を持って演奏できるように練習をする（1～2h） | | | | | |
| 時間外での学習 | レッスンで習得したことを改善するよう日々の練習の積み重ねが大切です。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 個々の進度に合わせ課題を進めていきますので、レッスンで学んだことを忘れずに復習するように心がけてください。 オフィスアワーは各担当講師のレッスン時間の前後休み時間です。 | | | | | |

| 鍵盤楽器Ⅱ | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|------------------------------|---|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：横井 香織・河村 義子・野口 歩・三ツ橋 義晴 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | ピアノ（鍵盤楽器）の基礎的な音楽知識を理解して、演奏技術や表現力を習得していくことにより、音楽の素晴らしさを感じ、それぞれの専攻に役立てていくことができる。 | | | | | |
| 授業方法 | 一人一人の進度に合った個人レッスンです。 （レッスンの時間までは各自、練習室で自主練習してください） | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] ピアノの基礎的な奏法を理解し、演奏するための知識を身につけることができる。(○) 2. [思考・判断・表現] 演奏する曲に対する思考力と表現力を習得することができる。(◎) 3. [技能] 自身の演奏技術を磨き、各専門分野に結び付け役立てていくことができる。(◎) 4. [関心・意欲・態度] 音楽に対する関心を常に継続して持ち、自己研鑽していくことができる。(○) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 実技試験 | - | 30 | 35 | - | 65 |
| | 受講態度 | 20 | - | - | 15 | 35 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 20 | 30 | 35 | 15 | 100 |
| 成績評価と割合 | ・実技試験：65%・受講態度：35%の合計100%で評価します。 ・欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | ありません。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 個々のレベルに合った楽譜を選択します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 休暇中の課題 [準備・課題] 休暇中の課題曲の発表・次回からのレッスン曲を決める(1～2h) | | | | | |
| 2 | 練習曲・譜読み [準備・課題] 新しい練習曲の譜読みをする(1～2h) | | | | | |
| 3 | 練習曲・フィンガートレーニング [準備・課題] レッソンの復習をし、指使いの工夫やポジションの確認をする(1～2h) | | | | | |
| 4 | 練習曲・部分練習 [準備・課題] レッソンの復習をし、片手奏や部分練習を行う(1～2h) | | | | | |
| 5 | 練習曲・楽語の理解と表現 [準備・課題] レッソンの復習をし、音の強弱やフレーズをつける(1～2h) | | | | | |
| 6 | 練習曲・曲想 [準備・課題] レッソンの復習をし、曲にふさわしい音色や響きを作る(1～2h) | | | | | |
| 7 | 練習曲・弾き込み [準備・課題] レッソンの復習をし、弾き込んで曲の流れをつかむ(1～2h) | | | | | |
| 8 | 練習曲・仕上げ [準備・課題] レッソンの復習をし、曲をまとめる・後期試験のための曲を決める(1～2h) | | | | | |
| 9 | 試験曲・指使い [準備・課題] 試験曲の譜読みを丁寧にする・指使いの工夫やポジションの再確認をする(1～2h) | | | | | |
| 10 | 試験曲・曲想 [準備・課題] レッソンの復習をし、曲にふさわしいテンポや響きを作り出す(1～2h) | | | | | |
| 11 | 試験曲・フレージング・バランス [準備・課題] レッソンの復習をし、音楽の流れやバランスを考える(1～2h) | | | | | |
| 12 | 試験曲・暗譜 [準備・課題] レッソンの復習をし、丁寧に暗譜をする(1～2h) | | | | | |
| 13 | 試験曲・弾き込む [準備・課題] レッソンの復習をし、曲の流れを捉えて弾き込む(1～2h) | | | | | |
| 14 | 試験曲・仕上げ [準備・課題] レッソンの復習をし、曲をまとめる(1～2h) | | | | | |
| 15 | 試験曲・休暇中の課題曲決め [準備・課題] 試験曲を自信を持って演奏できるように練習する(1～2h) | | | | | |
| 時間外での学習 | レッスンで習得したことを改善するよう日々の練習の積み重ねが大切です。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 個々の進度に合わせ課題を進めていきますので、レッスンで学んだことを忘れずに復習するように心がけてください。 オフィスアワーは各担当講師のレッスン時間の前後休み時間です。 | | | | | |

| スポーツ・レクリエーションⅠ | | 音楽総合学科 | | 1年前期 | | |
|-----------------|--|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]： 中野 由香里 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 子どもから大人まで幅広い年齢層で自分に合った軽スポーツやレクリエーションを楽しむことができます。これら軽スポーツやレクリエーションの特性について理解し、レクリエーションの中で行われる遊びや活動によってもたらされる「楽しさ」についてスポーツと関連させて学習し、保育や地域活動等で活かせるレクリエーションを学びます。 | | | | | |
| 授業方法 | レクリエーション・インストラクターの資格取得を目指し、主に体育館で実施します。内容によって教室で実施する場合もあります。①4月22日(土)・23日(日)のどちらか1日は岐阜メモリアルセンター芝生広場にて学外授業となります。②7月9日(土)は大垣市青年の家にて終日学外授業となります。①、②についての振替日は第1回の授業時に説明します。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] レクリエーションの特性について理解する。(△) 2. [思考・判断・表現] 保育者として、レクリエーションの方法について理解し、実践することができる。(◎) 3. [技能] 学んだ知識や技能を保育や地域活動等で活かすことができる。(◎) 4. [関心・意欲・態度] レクリエーション活動の中で、仲間と協力することができる。(◎) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 小テスト | 10 | － | 10 | － | 20 |
| | レポート | － | 15 | － | － | 15 |
| | 自己評価 | － | 15 | － | － | 15 |
| | 課題提出 | － | － | 20 | － | 20 |
| | 受講態度 | － | － | － | 30 | 30 |
| | 合 計 | 10 | 30 | 30 | 30 | 100 |
| 成績評価と割合 | 小テスト(1回) 20%、レポート(毎回) 15%、自己評価(毎回) 15%、課題提出(1回) 20%、受講態度(毎時間の取り組み) 30% の合計100%で評価します。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生は単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | 『レクリエーション支援の基礎』日本レクリエーション協会 『アイスブレイキング集』日本レクリエーション協会 | | | | | |
| 参考書・教材 | 『チャレンジ・ザ・ゲーム (ルールガイド) 』 | | | | | |
| 内 容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | スポーツレクリエーションとは（資格手続きの説明・授業内容の確認）、学外授業の説明（4月22・23日） [準備・課題] 資格について理解し、手続きの書類を準備する。（1h～2h） | | | | | |
| 2 | 軽スポーツ体験（4月22日・23日のどちらか1日） [準備・課題] 学外授業の振り返りをノートにまとめる。（1h～2h） | | | | | |
| 3 | レクリエーションの意義、レクリエーション運動を支える制度 アイスブレイキングの実践Ⅰ（安心感をつくる） [準備・課題] 学習内容をノートにまとめ、実践の復習をする。（1h～2h） | | | | | |
| 4 | レクリエーション・インストラクターの役割、アイスブレイキングの実践Ⅱ（自己紹介） [準備・課題] 学習内容をノートにまとめ、実践の復習をする。（1h～2h） | | | | | |
| 5 | ニュースポーツⅠ（バレーボール型） [準備・課題] 学習内容をノートにまとめる。（1h～2h） | | | | | |
| 6 | ニュースポーツⅡ（ターゲット型） [準備・課題] 学習内容をノートにまとめる。（1h～2h） | | | | | |
| 7 | ニュースポーツⅢ（その他のスポーツ） [準備・課題] 学習内容をノートにまとめる。（1h～2h） | | | | | |
| 8 | アイスブレイキングの実践Ⅲ（自然に触れ合う） [準備・課題] 実践内容をノートにまとめる。（1h～2h） | | | | | |
| 9 | キンボールⅠ（基本練習）、アイスブレイキングの実践Ⅳ（ダイナミック） [準備・課題] キンボールのルールを理解し、ノートにまとめる。（1h～2h） | | | | | |
| 10 | キンボールⅡ（試合）、アイスブレイキングの実践Ⅴ（グループ意識） [準備・課題] キンボールの試合を振り返りノートにまとめる。（1h～2h） | | | | | |
| 11 | チャレンジ・ザ・ゲーム普及審判員講習会授業の説明・準備 [準備・課題] チャレンジ・ザ・ゲームについて理解し、ノートにまとめる。（1h～2h） | | | | | |
| 12 | チャレンジ・ザ・ゲーム普及審判員講習会（参加者として） [準備・課題] 参加者として学習した内容をノートにまとめる。（1h～2h） | | | | | |
| 13 | チャレンジ・ザ・ゲーム普及審判員講習会（参加者として） [準備・課題] 参加者として学習した内容をノートにまとめる。（1h～2h） | | | | | |
| 14 | チャレンジ・ザ・ゲーム普及審判員講習会（スタッフとして） [準備・課題] スタッフとして学習した内容をノートにまとめる。（1h～2h） | | | | | |
| 15 | チャレンジ・ザ・ゲーム普及審判員講習会の振り返り、小テスト（前期授業内容の確認） [準備・課題] 前期の学習内容をノートにまとめる。（1h～2h） | | | | | |
| 時間外での学習 | 特定非営利活動法人岐阜県レクリエーション協会又は特定非営利活動法人大垣市レクリエーション協会主催の催しに積極的に参加すること。（参加手続きが必要な場合が有ります） | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | スポーツやレクリエーションのおもしろさや達成感を十分に体験できるよう一所懸命に取り組んでください。安全には十分に注意し、運動のできる服装と体育館シューズは必ず着用してください。オフィスアワーは研究室（H203：H号館2F）で毎週金曜日12：15～12：45です。 | | | | | |

| スポーツ・レクリエーションⅡ | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|-----------------|--|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]： 中野 由香里 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 子どもから大人まで幅広い年齢層で自分に合った軽スポーツやレクリエーションを楽しむ人が増加しています。コミュニケーションを深めるためのゲームやニュースポーツを中心にレクリエーション的な要素を取り入れながら実践します。また、スポーツ・レクリエーションに関する知的理解と指導法の習得について学びます。10月1日（日）は、学外授業となります（振替2回：授業時に説明します） | | | | | |
| 授業方法 | レクリエーション・インストラクターの資格取得を目指し、授業は全て体育館で実施します。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 各種目の競技特性を理解し、実践することができる。（◎） 2. [思考・判断・表現] 保育者として、状況を把握判断し、主体的に活動することができる。（○） 3. [技能] 学んだ知識や技能を保育や地域活動等で活かすことができる。（○） 4. [関心・意欲・態度] レクリエーション・活動の中で仲間と協力することができる。（◎） | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | レポート | 15 | － | － | － | 15 |
| | 自己評価 | 15 | － | － | － | 15 |
| | 発表 | － | 20 | 20 | － | 40 |
| | 受講態度 | － | － | － | 30 | 30 |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 30 | 20 | 20 | 30 | 100 |
| 成績評価と割合 | レポート(毎回) 15%、自己評価(毎回) 15%、発表(2回) 40%、受講態度(毎時間の取り組み) 30% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | 『レクリエーション支援の基礎』日本レクリエーション協会(売店で購入してください) 『アイスブレイキング集』日本レクリエーション協会(売店で購入してください) | | | | | |
| 参考書・教材 | 必要に応じて資料を配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | ガイダンスと学外授業の説明 [準備・課題] 授業内容を理解し学外授業の計画を立てる。（1h～2h） | | | | | |
| 2 | 学外授業：岐阜県レクリエーションフェスティバル（スタッフとして） [準備・課題] 学外授業の内容をノートにまとめる。（1h～2h） | | | | | |
| 3 | 学外授業：岐阜県レクリエーションフェスティバル（参加者として） [準備・課題] 学外授業の内容をノートにまとめる。（1h～2h） | | | | | |
| 4 | 学外授業の振り返り、コミュニケーションワークⅠ（個人ゲーム） [準備・課題] 個人ゲームについて理解し、手づくりのゲームを準備する。（1h～2h） | | | | | |
| 5 | コミュニケーションワークⅡ（伝承遊び） [準備・課題]（1h～2h）伝承遊びについて情報収集し、ノートにまとめる。（1h～2h） | | | | | |
| 6 | チャレンジ・ザ・ゲーム記録会 [準備・課題] 記録会の振り返りをまとめ、ノートにまとめる。（1h～2h） | | | | | |
| 7 | 目的に合わせたレクリエーション・ワーク（ドッジボール） [準備・課題] ドッジボールのルールを理解し、ノートにまとめる。（1h～2h） | | | | | |
| 8 | 対象に合わせたレクリエーション・ワーク（スポーツ・テンカ） [準備・課題] これまでの授業内容をノートにまとめる。（1h～2h） | | | | | |
| 9 | 対象に合わせたレクリエーション・ワーク（フライングディスク・ディスクゴルフ） [準備・課題] ディスクゴルフのコースづくりを計画し、ノートにまとめる。（1h～2h） | | | | | |
| 10 | 活動領域に合わせたアクティビティ（伝言ゲームⅠ） [準備・課題] クリスマス会に向けて準備をする。（1h～2h） | | | | | |
| 11 | 活動領域に合わせたアクティビティ（伝言ゲームⅡ） [準備・課題] クリスマス会に向けて準備をする。（1h～2h） | | | | | |
| 12 | イベント企画Ⅰ（グループ作り、内容確認） [準備・課題] クリスマス会の計画・準備、こども祭の計画・準備をノートにまとめる。（1h～2h） | | | | | |
| 13 | イベント企画Ⅱ（クリスマス会（発表）、こども祭の計画・確認） [準備・課題] クリスマス会を振り返り、ノートにまとめる。（1h～2h） | | | | | |
| 14 | イベント企画Ⅲ（リハーサル1月20日こども祭準備・最終確認） [準備・課題] 企画に対して振り返り、ノートにまとめる。（1h～2h） | | | | | |
| 15 | イベント企画Ⅳ（こども祭発表1月21日・振り返り1月22日） [準備・課題] 後期の授業を振り返り、ノートにまとめる。（1h～2h） | | | | | |
| 時間外での学習 | 特定非営利活動法人岐阜県レクリエーション協会又は特定非営利活動法人大垣市レクリエーション協会主催の催しに積極的に参加すること。（参加手続きが必要な場合が有ります） | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | スポーツやレクリエーションのおもしろさや達成感を十分に体験できるよう一所懸命に取り組んでください。安全には十分に注意し、運動のできる服装と体育館シューズは必ず着用してください。 オフィスアワーは研究室（H203：H号館2F）で毎週金曜日12：15～12：45です。 | | | | | |

| 医学概論 | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|-----------------|---|--------|---------------|------|----------|-----|
| | | 2単位 | | 講義 | 30時間 | |
| [教員]：村田 務 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 音楽療法士として対象者の理解をより深め実戦能力が高まるよう、必要とする医学全般の知識について歴史的・科学的・社会的側面から身につけていきます。特に「人体の構造と機能」、そして「よく遭遇する疾病」に関しての知識の理解と疾病名や各器官、臓器別などの用語等の理解を図ります。 | | | | | |
| 授業方法 | 音楽療法士は他職種と協働しながら意図的・計画的に行うことを踏まえ、医療・福祉現場で用いられる用語や基礎的知識が理解出来るように進めます。毎回、授業の初めに前回授業の範囲から小テストを行います。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 音楽療法の対象者の理解を深め、実際に行うための知識やスキルに役立てるよう、必要とする医学全般の知識が習得できる。(◎) 2. [関心・意欲・態度] 対象者や多職種とスムーズなコミュニケーションが図れ、人間としての尊厳を大切にできる教養と人間性が発揮できる。(○) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 筆記試験 | 50 | - | - | - | 50 |
| | 小テスト | 30 | - | - | - | 30 |
| | 受講態度 | - | - | - | 20 | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 80 | - | - | 20 | 100 |
| 成績評価と割合 | 期末試験(筆記) 50%、小テスト(毎回) 30%、受講態度 20% の 合計 100% で評価します。 3分の1以上欠席した学生は単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | テキストはありません。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 毎回、資料(プリント)を配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | オリエンテーション（講義の目的と概要） [準備・課題]講義内容を復習する(3h) | | | | | |
| 2 | 現代医学と歴史と意義、人体の基本的構造と機能（概観、細胞、代謝） [準備・課題]講義内容を復習する(3h) | | | | | |
| 3 | 器官系別にみた構造と機能（全体像と役割、正常な人体のイメージ） [準備・課題]講義内容を復習する(3h) | | | | | |
| 4 | 一般臨床医学の概要、病気の全体像を知る [準備・課題]講義内容を復習する(3h) | | | | | |
| 5 | 現代医学の代表的な疾病の概要（１） [準備・課題]講義内容を復習する(3h) | | 生活習慣病とがん | | | |
| 6 | 現代医学の代表的な疾病の概要（２） [準備・課題]講義内容を復習する(3h) | | 感染症と神経疾患、精神疾患 | | | |
| 7 | 現代医学の代表的な疾病の概要（３） [準備・課題]講義内容を復習する(3h) | | 骨関節の病気 | | | |
| 8 | 現代医学の代表的な疾病の概要（４） [準備・課題]講義内容を復習する(3h) | | 先天性疾患、脳性まひ | | | |
| 9 | 現代医学の代表的な疾病の概要（５） [準備・課題]講義内容を復習する(3h) | | 高齢者に特有な病気、認知症 | | | |
| 10 | 医学と社会福祉（疾患と生活問題、生命倫理と価値） [準備・課題]講義内容を復習する(3h) | | | | | |
| 11 | リハビリテーションの概要（生活機能とICF、医学的リハビリ） [準備・課題]講義内容を復習する(3h) | | | | | |
| 12 | 公衆衛生の動向（人口動態、平均寿命、健康状態） [準備・課題]講義内容を復習する(3h) | | | | | |
| 13 | 保健の動向と対策（保健所、健康増進、母子・老人・精神保健、障がい） [準備・課題]講義内容を復習する(3h) | | | | | |
| 14 | 医療サービス体制の動向（医療従事者と医療施設、医療システム） [準備・課題]講義内容を復習する(3h) | | | | | |
| 15 | まとめ（授業の振り返り、よく使う医学用語、略語の理解） [準備・課題]講義内容を復習する(3h) | | | | | |
| 時間外での学習 | 毎回、配布されたプリントを復習して、理解を深めてください。特に、講義時に提示されたポイントについて、重点的、正確に覚えるようにしてください。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 音楽療法士のみならず、社会人としても役立つ内容のため、関心を持ち理解するよう努めてください。また、小テスト(10分間)は、授業の初めにを行うので遅刻・欠席をしないように心がけてください。(回数減により、小テスト成績評価が下がります。) オフィスアワーは、講義終了後に教室で行います。 | | | | | |

| 教育原理 | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|-----------------|---|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 2単位 | | 講義 | 30時間 | |
| [教員]：矢田貝 真一 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | いじめ、不登校、非行、学力低下など多くの教育に関わる課題とその解決が求められるわが国にあって、「教育とは何か」という問いへの自分なりの考えを持つために、教育の目的・内容・方法・制度・行政などの基本原理について理解し、教育思想や制度の歴史についての認識を深めていきます。 | | | | | |
| 授業方法 | 講義を中心として、とらえ方や考え方などの討議や一人ひとりの発表も取り入れながら進め、知識を身につけるだけでなく、教育というものに対する自分なりのとらえ方や考え方の形成をめざして、授業を展開していきます。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 音楽療法と関連する教育についての知識を習得し、理解することができる。(◎) 2. [思考・判断・表現] 学んだ教育に関する内容を音楽と結びつけて考え、思考力や判断力、表現力にもとづいて「教育とは何か」という問いに自分なりに答えられる。(○) 3. [技能] 学んだ教育に関する内容を音楽療法の技能と結びつけてとらえ、活用することができる。(○) 4. [関心・意欲・態度] 教育について興味や関心を持ち、積極的に学修に取り組むことができる。(○) (◎・○・△は、音楽総合学科のDP・到達指標との結びつきの強さを示しています。) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 試験 | 40 | 10 | 10 | － | 60 |
| | レポート・発表 | 5 | 10 | 5 | － | 20 |
| | 学修成果の自己評価 | － | － | 5 | 5 | 10 |
| | 受講態度(学修や提出等の状況) | － | － | － | 10 | 10 |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 45 | 20 | 20 | 15 | 100 |
| 成績評価と割合 | 試験(中間まとめと定期テスト：記述テスト；2回) 60%、レポート・発表 20%、学修成果の自己評価 10%、受講態度(学修・発表・提出等の状況) 10% の 合計 100% で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生は定期テストの受験資格がありません。 | | | | | |
| テキスト | ありません。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、平成20年、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省、平成27年、『保育所保育指針解説書』厚生労働省、平成20年、幼稚園教育要領・認定こども園教育・保育要領・保育所保育指針改訂案、平成29年、『小学校学習指導要領』文部科学省、平成27年、菱田隆昭 編『幼児教育の原理 [第2版]』, みらい, 2009、山口意友『教育の原理とは何か[改訂版] 日本 の教育理念を問う』ナカニシヤ出版、2017、他に必要な資料は配付します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 第1週 | ガイダンス、この授業で学ぶこと(教育原理とは何か、どんなことを学ぶのか、学び方と心構えなど) [準備・課題] この科目の教育内容について復習する(1～2h) | | | | | |
| 第2週 | 教育とは何か(学校教育・社会教育・家庭教育、教育と子供、子供と環境) [準備・課題] 児童の権利条約の意義とその概要を調べてまとめる(2～4h) | | | | | |
| 第3週 | 教育の意義(教育とは、ヒトに教育がなぜ必要か、生涯学習とは) [準備・課題] 教育基本法での「教育の目的」と学校教育法における各学校の目的を調べてまとめる(3～5h) | | | | | |
| 第4週 | 教育の目的(教育基本法の理念、わが国の学校教育の目的と構造、教育の目標) [準備・課題] これまでの経験を通して教育者には何が求められていると考えるかをまとめる(3～5h) | | | | | |
| 第5週 | 教育者に求められるもの(教員養成の変遷、教育する者に必要な資質と能力) [準備・課題] 諸外国の教育思想(コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、ヘルバルト、デューイ、カントなど)について調べてまとめる(4～6h) | | | | | |
| 第6週 | 諸外国の教育史(教育観の変化、子供観の変化、教育思想にはどのようなものがあるか) [準備・課題] 学んだ教育観を参考に自分が考える最もふさわしい教育者のあり方をまとめる(3～5h) | | | | | |
| 第7週 | わが国の教育史(子供のとらえ方、学校制度の変遷、教育の展開) [準備・課題] 改訂される教育要領・学習指導要領の中心となる趣旨を調べて現行のものとの違いをまとめる・前半の学修内容を振り返ってまとめる(4～6h) | | | | | |
| 第8週 | 中間のまとめ(第1週～第7週の復習とテスト)とレポートの発表 [準備・課題] わが国の現在の学校制度について調べてまとめる(3～5h) | | | | | |
| 第9週 | わが国の教育制度(わが国の教育法規・教育制度の変遷としくみ、幼稚園・保育所・こども園のちがい) [準備・課題] 教育制度に関連する課題をひとつ取り上げ、自分の意見をまとめる(2～4h) | | | | | |
| 第10週 | 諸外国の教育制度(制度やしくみのちがい、考え方の相違点と共通点) [準備・課題] 現在の教育要領・学習指導要領・保育指針などの改訂について、主旨の概要やスケジュールを調べてまとめる(3～5h) | | | | | |
| 第11週 | 教育や保育の基準(教育要領・学習指導要領、教育・保育要領、保育指針について) [準備・課題] 教育課程の意味について調べてまとめる(3～5h) | | | | | |
| 第12週 | 教育課程と保育課程(教育課程とは、教育課程の基準、保育における教育課程と保育課程) [準備・課題] 教育における評価のとらえ方と方法について調べてまとめる(3～5h) | | | | | |
| 第13週 | 教育・保育における評価(評価とは、保育と評価、第三者評価) [準備・課題] 「教育とは何か」という問いへの自分の考えをまとめ、わが国の教育課題も調べてまとめる(4～6h) | | | | | |
| 第14週 | わが国における教育課題(具体的な課題、教育改革、これからの幼児教育と保育) [準備・課題] 教育に対する自分の考えと教育課題に関するレポートを発表できるように準備する(3～5h) | | | | | |
| 第15週 | 教育の課題についての発表と全体のまとめ(第1週～第14週のまとめ) [準備・課題] 全体を配付資料に基づいて復習する(4～6h) | | | | | |
| 時間外での学習 | [準備・課題] として示した内容を、()の標準学修時間をめどとして確実に取り組みましょう。質問等があれば、研究室(A305：A号館3F)へどうぞ。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 授業では調べてレポートなどにまとめ、それを発表する活動もあるので、資料活用・表現などの力も身につけるよう努力しましょう。 オフィスアワーはA305で毎週木曜日の16：20から17：30です。 | | | | | |

| | | | | | | |
|-----------------|--|--------|----------|------|----------|-----|
| 発達心理学 | | 音楽総合学科 | | 1年前期 | | |
| | | 2単位 | | 講義 | 30時間 | |
| [教員]： 茂木 七香 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 生まれてから現在までの十数年間で、みなさんの心と身体は様々な面で発達してきました。ではこのあとはどうなるのでしょうか？「発達」というと赤ちゃんが大人になるまでの間がクローズアップされがちですが、そのあともずっと、人は死ぬまで発達します。この授業では人の人生について、生涯発達心理学という考え方で発達段階に沿って学んでいきます。各発達段階で個人に起こる変化やそこで獲得されるもの、他者や社会とのかかわりなどを、心理学的に解説します。みなさんも発達し続ける当事者なので、共感を持って学べる内容だと思います。 | | | | | |
| 授業方法 | 基本的には講義形式ですが、実習課題に取り組んでもらったり、自分自身について振り返って記述してもらったりする機会もあります。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 社会の中で人とのかかわる上で不可欠である、人の心の働きと発達に関する基礎的な知識を理解し身につける。(◎) 2. [思考・判断・表現] 身近な事象を捉える際に、表に現れている部分だけを見るのではなく、発達心理学の知識や手法を用いて多角的な視点から考え理解することができる。(○) 3. [技能] 授業で得た知識や手法を、実生活での他者とのコミュニケーションで活用することができる。(○) 4. [関心・意欲・態度] 自分の心で感じたことを授業で得た知識と照らし合わせて捉えなおし、自己や他者の理解をよりいっそう深めようとする。(○) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 筆記試験 | 35 | 2 | 2 | 2 | 41 |
| | レポート | － | 8 | 8 | 8 | 24 |
| | 小テスト | 5 | － | － | － | 5 |
| | 受講態度 | － | 10 | 10 | 10 | 30 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 40 | 20 | 20 | 20 | 100 |
| 成績評価と割合 | 筆記試験41%(中間テスト20%、定期テスト21%)、レポート24%、小テスト5%(毎回の授業でのリアクションペーパーで実施)、受講態度30%(毎回の授業でのリアクションペーパー記入)の合計100%で評価します。欠席は減点とし、全体の3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | 教科書は指定しません。授業中に資料を配布します。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 授業の中で適宜紹介します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | イントロダクション：発達心理学とはなにか？ 人はいつまで発達するのか？ [準備・課題]これまでの十数年間で、自分自身がどのような面で発達してきたか振り返ってみる。(2～3h) | | | | | |
| 2 | 胎児期：母体から受ける影響 外界を認知する能力 [準備・課題]女性という立場から、胎児にとって最適な環境を整えるためにはどのようなことに配慮すればよいか考えてみる。(2～3h) | | | | | |
| 3 | 新生児期：臨界期、微笑行動、模倣行動、学習能力 [準備・課題]新生児期にふさわしい環境とはどのようなものか、具体的に挙げる。(2～3h) | | | | | |
| 4 | 乳児期①：赤ちゃんの心理を調べる方法 視空間認知能力 奥行知覚 [準備・課題]自分が乳児のころのエピソードをいくつか挙げ、心理学的に解説する。(2～3h) | | | | | |
| 5 | 乳児期②：表情の認知 愛着の形成 言語の獲得 [準備・課題]乳児と接したときの経験を思い出し、今日の授業で習った内容を照らし合わせて振り返る。(2～3h) | | | | | |
| 6 | 幼児期①：自己の形成 他者の理解 [準備・課題]自分自身が幼児期の頃、「自分」についてどのように感じていたか振り返ってみる。(2～3h) | | | | | |
| 7 | 幼児期②：心の理論 社会性の発達 [準備・課題]「心の理論」による子ども理解を、事例を用いて説明する。(2～3h) | | | | | |
| 8 | 中間テスト（範囲：第1回～第7回）／ 児童期①：仲間関係の形成 道徳性の発達 [準備・課題]自分自身の児童期の仲間関係を思い出し、授業で習った内容に当てはめて捉えなおす。(2～3h) | | | | | |
| 9 | 児童期②：自尊心と劣等感 論理的思考 [準備・課題]児童期の自分自身の自尊心と劣等感がどのように形成されていたかを思い起こす。(2～3h) | | | | | |
| 10 | 青年期①：友人関係 自我同一性 [準備・課題]自分自身のアイデンティティステイタスは今どのようなタイプなのかを考えてみる。(2～3h) | | | | | |
| 11 | 青年期②：性的成熟の受容 性役割 [準備・課題]生物学的な性別を受容する・しない生き方について、その多様性を調べてまとめる。(2～3h) | | | | | |
| 12 | 成人期①：職業への意識 親になること [準備・課題]自分にとって職業とはなにか、考えをまとめる。(2～3h) | | | | | |
| 13 | 成人期②：中年期の危機 人生の正午 [準備・課題]中年期にはどのような危機に直面するか、自分自身の考えも含めてまとめる。(2～3h) | | | | | |
| 14 | 老年期①：加齢変化 役割の変化 [準備・課題]加齢による変化にはどのようなものがあるか、いろいろな側面から挙げてみる。(2～3h) | | | | | |
| 15 | 老年期②：老年期の生きがい 死の受容 ／ まとめ：レポート課題提示 [準備・課題]高齢者の生きがいにはどのようなものがあるか、身近な例やドラマ・映画の登場人物から考察する。(2～3h) | | | | | |
| 時間外での学習 | あなたは今、この瞬間にも、発達直線を生から死に向かって進んでいます。あなたと関わっている他の人もそうです。自分の身の回りの環境や人々、ニュースなどを「発達」という観点から捉え直し、観察してみてください。今だけではなく、過去や未来が見えてくると思います。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 発達心理学は今まさにあなたが生きている人生の過程に関する学問です。当事者として楽しむ姿勢と、学問として学ぶ姿勢の両方を持って受講することが、よりいっそう深い理解につながります。オフィスアワーは毎週火曜日の10:30-12:30、気軽になんでも話しに来てください。 | | | | | |

| 音楽療法概論 | | 音楽総合学科 | | 1年前期 | | |
|-----------------|---|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 2単位 | | 講義 | 30時間 | |
| [教員]： 谷口 祐子 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 音楽療法の定義とそのプロセスをふまえながら、多様な障がいや生きにくさを抱える人々を支援するために、音楽を有効に活用することを学びます。また、実践的な音楽活動を行うことで、音楽が心身に与える作用について体験します。 | | | | | |
| 授業方法 | 音楽療法を概観するために、講義だけでなく、実践現場や音楽活動を紹介しながら、模擬的な実践も行っています。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 音楽療法の目的を理解し、その概要について基礎的な知識を得ている。(◎) 2. [思考・判断・表現] 音楽療法の対象者のための音楽に思慮を深め、その適切な表現に努力する。(○) 3. [技能] 音楽療法の対象者とコミュニケーションを取りながら、支援のための音楽を提供する。(△) 4. [関心・意欲・態度] 音楽療法の対象者や協力者に関心を持ち、音楽の持つ可能性の理解に意欲がある。(◎) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 筆記試験 | 30 | 5 | － | － | 35 |
| | 提出物 | 5 | 10 | － | 15 | 30 |
| | 模擬実践 | － | 10 | 5 | 10 | 25 |
| | 受講態度 | － | － | － | 10 | 10 |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 35 | 25 | 5 | 35 | 100 |
| 成績評価と割合 | 筆記試験(35%)、提出物(レポート、感想)(30%)、模擬実践(25%)、受講態度(10%)の合計(100%)で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | 高橋多喜子『補完・代替医療 音楽療法 改訂3版』金芳堂(売店で購入してください) | | | | | |
| 参考書・教材 | 授業内でプリントを配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 授業ガイダンス（音楽療法で使われる用語など） [課題]学んだ内容を復習し、課題に取り組む（2h） | | | | | |
| 2 | 音楽療法の定義、音楽療法の形態や対象 [課題]学んだ内容を復習し、課題に取り組む（2h） | | | | | |
| 3 | 音楽療法の歴史（原始時代～現代、日本の音楽療法） [課題]学んだ内容を復習し、課題に取り組む（2h） | | | | | |
| 4 | 音楽療法の現場紹介、音楽療法の手順 [課題]学んだ内容を復習し、課題に取り組む（2h） | | | | | |
| 5 | 高齢者への音楽療法Ⅰ（概要説明、対象者の理解） [課題]模擬実践に向けた準備（2h） | | | | | |
| 6 | 高齢者への音楽療法Ⅱ（目標設定、計画、練習） [課題]模擬実践に向けた準備（2h） | | | | | |
| 7 | 高齢者への音楽療法Ⅲ（練習、実践発表、記録） [課題]模擬実践の感想をまとめる（2h） | | | | | |
| 8 | 高齢者への音楽療法Ⅳ（評価、振り返り） [課題]学んだ内容を復習し、課題に取り組む（2h） | | | | | |
| 9 | 音楽が心身に及ぼす作用 [課題]学んだ内容を復習し、課題に取り組む（2h） | | | | | |
| 10 | 児童への音楽療法Ⅰ（概要説明、対象者理解） [課題]模擬実践に向けた準備（2h） | | | | | |
| 11 | 児童への音楽療法Ⅱ（音楽活動、評価） [課題]学んだ内容を復習し、課題に取り組む（2h） | | | | | |
| 12 | 成人への音楽療法Ⅰ（精神障害） [課題]学んだ内容を復習し、課題に取り組む（2h） | | | | | |
| 13 | 成人への音楽療法Ⅱ（その他） [課題]学んだ内容を復習し、課題に取り組む（2h） | | | | | |
| 14 | 医療現場での音楽療法 [課題]学んだ内容を復習し、課題に取り組む（2h） | | | | | |
| 15 | 音楽療法の課題、まとめ [課題]学んだ内容を復習し、課題に取り組む（2h） | | | | | |
| 時間外での学習 | 音楽療法や福祉、医療に関心を持ち、日頃から情報収集に努めてください。 各授業で学んだ内容について理解し、自分の意見を言えるようにしてください。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 音楽活動を多く取り入れながら、音楽療法について理解を深めていきます。 音楽で人を援助する意味を、一緒に考えましょう。オフィスアワーは授業後30分間です。 | | | | | |

| 音楽心理学 | | 音楽総合学科 | | 1年前期 | | |
|-----------------|---|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 2単位 | | 講義 | 30時間 | |
| [教員]：小西 文子 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 音楽心理学とは何かについて学びます。簡単な実験に参加することで、実際に音楽が人の心身にもたらす作用について学びます。音楽療法コースはこの授業が必修となっています。2年次からの卒業研究につなげることができるように、実験手法や心理尺度についても学びます。 | | | | | |
| 授業方法 | 演習を含む講義形式です。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 音楽心理学研究の流れについて理解し、基礎的な知識を身につけている。(◎) 2. [思考・判断・表現] 音楽心理学研究で用いられる研究法の違いを説明できる。(○) 3. [技能] 音楽心理学で用いられる質問紙の計算ができる。(△) 4. [関心・意欲・態度] 積極的に質問紙への解答、計算を含む課題に取り組み提出することができている。(◎) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 試験 | 40 | 20 | － | － | 60 |
| | レポート | － | － | 10 | 10 | 20 |
| | 受講態度 | － | － | － | 20 | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 40 | 20 | 10 | 30 | 100 |
| 成績評価と割合 | 試験 60%、レポート 20%、受講態度 20% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、授業回数の1/3以上欠席した学生は受験資格がありません。 レポートなど、授業で出した課題の提出のない学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | ありません。 | | | | | |
| 参考書・教材 | プリントを授業内で配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 音楽心理学とは 実験 1：メンタルテンポの測定。安静時と活動後の違いの比較 [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる (1～2h) | | | | | |
| 2 | メンタルテンポと好みのテンポの関連について ゲシュタルト原理と音の群化について [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる (1～2h) | | | | | |
| 3 | リズム知覚能力の発達 実験 4：調の色彩的表象 (12色以上の色鉛筆を持参してください) [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる (1～2h) | | | | | |
| 4 | 共感覚について 実験 5：楽器の音色による色彩的表象 (12色以上の色鉛筆を持参してください) [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる (1～2h) | | | | | |
| 5 | 絶対音感と相対音感について 音楽心理学の手法について (1)観察法 (2)実験法 (3)質問紙法 それぞれの特徴と適した研究について [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる (1～2h) | | | | | |
| 6 | 音による感情伝達 実験 6：打楽器による感情表現 [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる (1～2h) | | | | | |
| 7 | BGMについて BGMの歴史と現在の研究動向 [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる (1～2h) | | | | | |
| 8 | 音楽と消費者行動 CMにおける音楽の与える影響、店頭における音楽の影響について [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる (1～2h) | | | | | |
| 9 | 音楽心理学で用いる心理尺度について A V S M、S T A I [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる (1～2h) | | | | | |
| 10 | 音楽聴取に関する研究 1：感情の神経・生理学的測定について [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる (1～2h) | | | | | |
| 11 | 音楽聴取に関する研究 2：刺激間要因を問題として [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる (1～2h) | | | | | |
| 12 | 音楽聴取に関する研究 3：聴取者間要因を問題として [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる (1～2h) | | | | | |
| 13 | 演奏不安に関する研究について [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる (1～2h) | | | | | |
| 14 | 最近のトピックス 脳研究と音楽認知 [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる (1～2h) | | | | | |
| 15 | テスト前の振り返り [準備・課題]内容を振り返りまとめを行う (1～2h) | | | | | |
| 時間外での学習 | プリントをみて学んだことを復習してください。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 実験の参加や心理尺度の評定など、学生が作業しなければならない活動も授業に含まれます。積極的に参加してください。 心理尺度の評定の提出状況なども採点に含まれます。 オフィスアワーは研究室 (B403：B号館4階) で毎週木曜日の13時から14：30です。 | | | | | |

| 音楽療法演習 | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|-----------------|---|--------|----------|------|----------|----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：日比 あけみ | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 対象者に合わせた音楽活動の計画・実践・振り返りを模擬実践にて行います。実際の現場に立つ前に、基礎的な実践方法を身につけます。 | | | | | |
| 授業方法 | 学内での演習。実践形式で行います。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 対象者理解、アセスメントができる。 (○) 2. [思考・判断・表現] 音楽の使い方が理解できる。 (○) 3. [技能] 音楽活動の計画・実践ができる。 (◎) 4. [関心・意欲・態度] 模擬セッションで各役割を担当できる。 (◎) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 実践発表 | 10 | 10 | 20 | 10 | 50 |
| | 受講態度 | - | 10 | - | 10 | 20 |
| | レポート | - | - | 10 | 10 | 20 |
| | 期末試験 | 10 | - | - | - | 10 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 合 計 | 20 | 20 | 30 | 30 | 100 | |
| 成績評価と割合 | 実践発表50%、受講態度20%、レポート20%、期末試験10% の合計100%で評価します。 | | | | | |
| テキスト | 『弾き語りキーボード・セッション(1) 音楽療法の必須100曲 高齢者編』 あおぞら音楽社 『弾き語りキーボード・セッション(2) 音楽療法の必須100曲 子ども編』 あおぞら音楽社 『弾き語りキーボード・セッション(3) 音楽療法の必須100曲 おとな編』 あおぞら音楽社 | | | | | |
| 参考書・教材 | 資料を配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | オリエンテーション（年間計画・課題の確認） [準備・課題] 目標設定 1 （1～3h） | | | | | |
| 2 | グループ発表準備 [準備・課題] 計画、役割分担、練習 （1～3h） | | | | | |
| 3 | グループ発表① [準備・課題] 計画、実践、振り返り （1～3h） | | | | | |
| 4 | グループ発表② [準備・課題] 計画、実践、振り返り （1～3h） | | | | | |
| 5 | グループ発表③ [準備・課題] 計画、実践、振り返り （1～3h） | | | | | |
| 6 | グループ発表④ [準備・課題] 計画、実践、振り返り （1～3h） | | | | | |
| 7 | グループ発表⑤ [準備・課題] 計画、実践、振り返り （1～3h） | | | | | |
| 8 | グループ発表評価、個人発表準備 [準備・課題] 自己評価、目標設定 2、計画、練習 （1～3h） | | | | | |
| 9 | 個人発表① [準備・課題] 計画、実践、振り返り （1～3h） | | | | | |
| 10 | 個人発表② [準備・課題] 計画、実践、振り返り （1～3h） | | | | | |
| 11 | 個人発表③ [準備・課題] 計画、実践、振り返り （1～3h） | | | | | |
| 12 | 個人発表④ [準備・課題] 計画、実践、振り返り （1～3h） | | | | | |
| 13 | 個人発表⑤ [準備・課題] 計画、実践、振り返り （1～3h） | | | | | |
| 14 | 個人発表評価 [準備・課題] 自己評価、目標設定 3 （1～3h） | | | | | |
| 15 | 演習のまとめ [準備・課題] 期末試験の取り組み （1～3h） | | | | | |
| 時間外での学習 | 模擬実践を行うにあたり、授業外での準備は必須です。使用曲についての調査や練習は、事前に各自で進めてください。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | どのようにしたら相手と自分との関係作りがうまくいくのか、日常生活の中からも気付きを見つけてください。 オフィスアワーは授業終了後の30分間です。 | | | | | |

| 音楽療法・基礎 | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|-----------------|--|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 2単位 | | 講義 | 30時間 | |
| [教員]：小西 文子 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | この授業では、音楽療法のアセスメントの原理・方法についての基本的な知識と、アセスメントが実際にできるような技術について学びます。具体的には、アセスメントの種類について学ぶことと、音楽療法場面のビデオを見ながら記録を取る練習を通じて音楽療法士に必要な臨床的視点の獲得と、状況を的確に記録する文章能力を養います。 | | | | | |
| 授業方法 | 講義形式ですが授業の一部で演習活動も含まれます。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 音楽療法におけるアセスメントの種類や方法についての知識を持っている。(◎) 2. [思考・判断・表現] ランニング・アセスメントのビデオを見て、対象者の行動を客観的に正しく記述することができる。(◎) 3. [思考・判断・表現] 対象者のニーズを把握し、それに合った治療目標を設定し、目標を達成するための音楽活動を計画することができる。(◎) 4. [技能] 音楽療法に関する専門用語を理解し、使うことができる。(△) 5. [関心・意欲・態度] グループ活動において協力して話し合い、発表することができる。(○) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 試験 | 30 | 20 | － | － | 50 |
| | レポート | 10 | 20 | 5 | 5 | 40 |
| | 発表 | － | － | － | 10 | 10 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 40 | 40 | 5 | 15 | 100 |
| 成績評価と割合 | 試験 50%、レポート 40%、発表 10% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 課題の提出及び発表がない学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | 日野原重明 監修『標準音楽療法入門下巻・実践編』春秋社(売店で購入してください) | | | | | |
| 参考書・教材 | 授業内でプリントを配布します。 | | | | | |
| 内 容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | オリエンテーション：音楽療法の手順について アセスメントセッションのビデオを視聴、記録の練習① [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる (1～2h) | | | | | |
| 2 | アセスメントについて：調査票、標準化されたテスト、ランニング・アセスメントについて アセスメントセッションのビデオを視聴、記録の練習② [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる (1～2h) | | | | | |
| 3 | 記録の練習 1：行動観察 アセスメントセッションのビデオを視聴、記録の練習③ [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる (1～2h) | | | | | |
| 4 | 音楽活動の記録 [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる (1～2h) | | | | | |
| 5 | 記録者の感想 [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる (1～2h) | | | | | |
| 6 | 目標設定 [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる (1～2h) | | | | | |
| 7 | 長期目標と短期目標 [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる (1～2h) | | | | | |
| 8 | 目標に応じた音楽活動の計画 1：動きを促す活動 [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる (1～2h) | | | | | |
| 9 | 目標に応じた音楽活動の計画 2：社会性の発達を促す活動 [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる (1～2h) | | | | | |
| 10 | 目標に応じた音楽活動の計画 3：コミュニケーションを促す活動 [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる (1～2h) | | | | | |
| 11 | 事例から目標と活動を設定する演習 1：高齢者 [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる (1～2h) | | | | | |
| 12 | 事例から目標と活動を設定する演習 2：成人 [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる (1～2h) | | | | | |
| 13 | 事例から目標と活動を設定する演習 3：児童 [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる (1～2h) | | | | | |
| 14 | ランニング・アセスメントの計画 [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる (1～2h) | | | | | |
| 15 | まとめ：テスト前の振り返り [準備・課題]内容を振り返りまとめる (1～2h) | | | | | |
| 時間外での学習 | 教科書や指定された参考資料を読み、授業で学んだ事柄を理解して次の授業に臨んでください。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 音楽療法士になるにあたって基本的な知識と技能を身につけるための重要な授業です。 課題の提出状況が評価に含まれます。 オフィスアワーは研究室 (B403：B号館4階) で毎週木曜日の13：00～14：30です。 | | | | | |

| 音楽療法実践Ⅰ | | 音楽総合学科 | | 1年前期 | | |
|-----------------|---|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：小西 文子 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 音楽療法において現場で良く用いられる簡単な楽器のアンサンブルと、臨床現場に携帯できる伴奏楽器（ギター）の基本的奏法を学びます。また、実際に福祉施設に出かけて音楽活動を実践し、レポートを書きます。 | | | | | |
| 授業方法 | 学内の演習および学外施設の実践 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 簡単な和音奏の編曲ができる。簡単な打楽器の編曲ができる。（△） 2. [思考・判断・表現] 施設における音楽活動を適切に振り返り記録することができる。（◎） 3. [技能] ギターのオープンコードを用いて弾き歌いができる。（◎） 4. [関心・意欲・態度] 施設における音楽活動をグループで一部担当することができる。施設の利用者や職員に適切に対応することができる。（△） | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 試験 | － | － | 40 | － | 40 |
| | レポート | － | 40 | － | － | 40 |
| | 発表 | 10 | － | － | 5 | 15 |
| | 受講態度 | － | － | － | 5 | 5 |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 10 | 40 | 40 | 10 | 100 |
| 成績評価と割合 | 試験 40%、レポート 40%、発表 15%、受講態度 5% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 レポート提出のない学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | 授業内でプリントを配布します。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 授業内でプリントを配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | オリエンテーション ミュージックベルのアンサンブル（長調のⅠ－Ⅳ－Ⅴ） [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる（1～2h） | | | | | |
| 2 | ミュージックベルのアンサンブル（短調のⅠ－Ⅳ－Ⅴ） [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる（1～2h） | | | | | |
| 3 | トーンチャイムのアンサンブル（クリシェ） [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる（1～2h） | | | | | |
| 4 | 簡単なリズム楽器によるアンサンブル [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる（1～2h） | | | | | |
| 5 | ギター各部の名称、メンテナンスについて チューニングとオープンコード(1) E m、E [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる（1～2h） | | | | | |
| 6 | オープンコード(2) A、A 7 [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる（1～2h） | | | | | |
| 7 | オープンコード(3) D、D 7、D m [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる（1～2h） | | | | | |
| 8 | オープンコード(4) G、G 7 [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる（1～2h） | | | | | |
| 9 | オープンコード(5) C、C 7 [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる（1～2h） | | | | | |
| 10 | オープンコード(6) F [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる（1～2h） | | | | | |
| 11 | アルペジオ [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる（1～2h） | | | | | |
| 12 | 課題曲 1：大きな古時計 [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる（1～2h） | | | | | |
| 13 | 課題曲 2：世界の国からこんにちは [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる（1～2h） | | | | | |
| 14 | 課題曲 3：星影のワルツ [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる（1～2h） | | | | | |
| 15 | まとめ：テスト前対策 [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる（1～2h） | | | | | |
| 時間外での学習 | 施設での実践準備は授業内だけではなく授業外でも責任を持って行ってください。 アンサンブルの発表はグループで行いますので、協調性を持って課題に取り組んでください。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | ギター（クラシック、フォークどちらでも可）は各自用意してください。第5週目から使用します。学校のギターは学内のみの練習に貸し出します。 オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。 | | | | | |

| 音楽療法実践Ⅱ | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|-----------------|--|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：小西 文子 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 福祉施設におけるボランティア活動を通じて対象者への接し方や適切な行動を身につけることを目標とします。人前に出て話すこと、指導することにも慣れることができるように、役割を交代で分担します。グループ内で共同作業を行う上でのコミュニケーション能力を高めることも目的としています。 | | | | | |
| 授業方法 | 学内の演習と学外における実践 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 対象者グループの目標に沿った音楽活動を計画することができる。(◎) 2. [思考・判断・表現] グループに分かれて音楽療法活動を計画、実践、記録を取ることができる。(◎) 3. [技能] 高齢者と児童の現場でグループ音楽活動を実施することができる。(○) 4. [関心・意欲・態度] それぞれの施設でふさわしい振る舞いをする事ができる。グループ内で共同作業ができる。(△) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 試験 | － | 30 | 20 | － | 50 |
| | レポート | 30 | 10 | － | 5 | 45 |
| | 受講態度 | － | － | － | 5 | 5 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 30 | 40 | 20 | 10 | 100 |
| 成績評価と割合 | 試験 50%、レポート 45%、受講態度 5% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 レポートと発表のない学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | 授業内でプリントを配布します。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 授業内でプリントを配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | オリエンテーション 高齢者を対象とした音楽療法セッション1：対象者の説明、施設の概要など [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる（1～2h） | | | | | |
| 2 | 高齢者を対象とした音楽療法セッション2：活動計画 [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる（1～2h） | | | | | |
| 3 | 高齢者を対象とした音楽療法セッション3：活動準備 [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる（1～2h） | | | | | |
| 4 | 高齢者を対象とした音楽療法セッション4：リハーサル [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる（1～2h） | | | | | |
| 5 | 高齢者施設に出向いての音楽療法セッション5：実践 [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる（1～2h） | | | | | |
| 6 | 先週の振り返り クリスマスコンサートのレポート1 [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる（1～2h） | | | | | |
| 7 | クリスマスコンサートのレポート2 [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる（1～2h） | | | | | |
| 8 | 障害者を対象とした音楽活動準備 [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる（1～2h） | | | | | |
| 9 | 障害者施設に出向いての音楽活動ボランティア1 [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる（1～2h） | | | | | |
| 10 | 音楽活動以外のレクリエーション技術1 [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる（1～2h） | | | | | |
| 11 | 音楽活動以外のレクリエーション技術2 [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる（1～2h） | | | | | |
| 12 | 高齢者を対象とした音楽療法セッション6：活動計画 [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる（1～2h） | | | | | |
| 13 | 高齢者を対象とした音楽療法セッション7：活動準備、リハーサル [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる（1～2h） | | | | | |
| 14 | 高齢者施設に出向いての音楽療法セッション8：実践 [準備・課題]内容を振り返り、出された課題に取り組んで完成させる（1～2h） | | | | | |
| 15 | 実習の振り返り、記録について | | | | | |
| 時間外での学習 | 自分が担当する活動は自分で責任を持って時間外に準備してください。授業時間は計画や合わせるためのリハーサルに使います。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 多少の失敗は恐れず、積極的に学ぶ姿勢で対象者に接してください。 オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。 | | | | | |

| ウインドアンサンブルⅠA | | 音楽総合学科 | | 1年前期 | | | |
|-------------------------|---|--------|-------|----------|------|----------|-----|
| | | 2単位 | | 演習 | 60時間 | | |
| [教員]：服部 篤典・鈴木 孝育・野々垣 行恵 | | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | | |
| 授業内容 | 吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、各所において、それぞれの役割を理解し、演奏力の向上を目指します。また、授業以外に、各楽器の個人レッスンがあります。なお、演奏依頼があった場合、その練習になることがあります。 | | | | | | |
| 授業方法 | 吹奏楽の合奏、各楽器のレッスン、場合によってパート別レッスン、セクションごとのレッスンが行われる。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を理解し、クラシック、ジャズ、ポピュラー等ジャンルの様式を理解する。(△) 2. [思考・判断・表現] 吹奏楽で演奏されるジャンルの基本的な知識があり、楽曲に合った演奏表現ができる。(○) 3. [技能] 楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の要求に合った演奏ができる。長短すべてのスケール演奏が安定すること。(◎) 4. [関心・意欲・態度] 個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができる。(○) | | | | | | |
| 観点別評価 | | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | | 実技試験 | － | 10 | 50 | － | 60 |
| | | 受講態度 | － | － | － | 20 | 20 |
| | | 成長度 | 10 | 10 | － | － | 20 |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | 合 計 | 10 | 20 | 50 | 20 | 100 |
| 成績評価と割合 | 実技試験(期末) 60%、受講態度(普段の授業の取り組み) 20%、成長率(技術の成長度) 20% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | | |
| テキスト | なし。 | | | | | | |
| 参考書・教材 | 楽譜等その都度配布。 | | | | | | |
| 内 容 | | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | | |
| 1 | ガイダンス 授業の進め方、注意事項、スケジュール確認 [準備・課題]基礎の確認 (3h～6h) | | | | | | |
| 2 | 楽曲1 基礎力向上の為の楽曲配布・音だし [準備・課題]楽曲1の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | | |
| 3 | 楽曲1 基礎力向上の為の楽曲合奏 [準備・課題]楽曲1の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | | |
| 4 | 楽曲1 基礎力向上の為の楽曲仕上げ [準備・課題]楽曲1の復習 (3h～6h) | | | | | | |
| 5 | 楽曲2 音楽鑑賞用楽曲1 配布・音だし [準備・課題]楽曲2の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | | |
| 6 | 楽曲2 音楽鑑賞用楽曲1 合奏 [準備・課題]楽曲2の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | | |
| 7 | 楽曲2 音楽鑑賞用楽曲1 仕上げ [準備・課題]楽曲2の復習 (3h～6h) | | | | | | |
| 8 | 楽曲3 音楽鑑賞用楽曲2 配布・音だし [準備・課題]楽曲3の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | | |
| 9 | 楽曲3 音楽鑑賞用楽曲2 合奏 [準備・課題]楽曲3の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | | |
| 10 | 楽曲3 音楽鑑賞用楽曲2 仕上げ [準備・課題]楽曲3の復習 (3h～6h) | | | | | | |
| 11 | 楽曲4 音楽鑑賞用楽曲3 配布・音だし [準備・課題]楽曲4の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | | |
| 12 | 楽曲4 音楽鑑賞用楽曲3 合奏 [準備・課題]楽曲4の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | | |
| 13 | 楽曲4 音楽鑑賞用楽曲3 仕上げ [準備・課題]楽曲4の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | | |
| 14 | 試験課題曲配布・合奏 [準備・課題]試験課題曲の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | | |
| 15 | 試験課題曲合奏 [準備・課題]試験課題曲の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | | |
| 時間外での学習 | 授業以外に各楽器のレッスンがあります。必要に応じてパート練習、セクション練習を行ってください。 | | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。一人でも欠けるとアンサンブルが成立しません。無断欠席・遅刻厳禁。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。 | | | | | | |

| ウインドアンサンブル I B | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|-------------------------|---|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 2単位 | | 演習 | 60時間 | |
| [教員]：服部 篤典・鈴木 孝育・野々垣 行恵 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、各所において、それぞれの役割を理解し、演奏力の向上を目指します。また、授業以外に、各楽器の個人レッスンがあります。なお、演奏依頼があった場合、その練習になることがあります。 | | | | | |
| 授業方法 | 吹奏楽の合奏、各楽器のレッスン、場合によってパート別レッスン、セクションごとのレッスンが行われる。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を理解し、クラシック、ジャズ、ポピュラー等ジャンルの様式を理解する。(△) 2. [思考・判断・表現] 吹奏楽で演奏されるジャンルの基本的な知識があり、楽曲に合った演奏表現ができる。(○) 3. [技能] 楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の要求に合った演奏ができる。長短すべてのスケール演奏が安定すること。(◎) 4. [関心・意欲・態度] 個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができる。(○) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 実技試験 | － | 10 | 50 | － | 60 |
| | 受講態度 | － | － | － | 20 | 20 |
| | 成長度 | 10 | 10 | － | － | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 10 | 20 | 50 | 20 | 100 |
| 成績評価と割合 | 実技試験(期末) 60%、受講態度(普段の授業の取り組み) 20%、成長率(技術の成長度) 20% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | なし。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 楽譜等その都度配布。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | ガイダンス 授業の進め方、注意事項、スケジュール確認 [準備・課題]基礎の確認 (3h～6h) | | | | | |
| 2 | 楽曲 1 基礎力向上の為の楽曲配布・音だし [準備・課題]楽曲 1 の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | |
| 3 | 楽曲 1 基礎力向上の為の楽曲合奏 [準備・課題]楽曲 1 の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | |
| 4 | 楽曲 1 基礎力向上の為の楽曲仕上げ [準備・課題]楽曲 1 の復習 (3h～6h) | | | | | |
| 5 | 楽曲 2 音楽鑑賞用楽曲 1 配布・音だし [準備・課題]楽曲 2 の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | |
| 6 | 楽曲 2 音楽鑑賞用楽曲 1 合奏 [準備・課題]楽曲 2 の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | |
| 7 | 楽曲 2 音楽鑑賞用楽曲 1 仕上げ [準備・課題]楽曲 2 の復習 (3h～6h) | | | | | |
| 8 | 楽曲 3 音楽鑑賞用楽曲 2 配布・音だし [準備・課題]楽曲 3 の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | |
| 9 | 楽曲 3 音楽鑑賞用楽曲 2 合奏 [準備・課題]楽曲 3 の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | |
| 10 | 楽曲 3 音楽鑑賞用楽曲 2 仕上げ [準備・課題]楽曲 3 の復習 (3h～6h) | | | | | |
| 11 | 楽曲 4 音楽鑑賞用楽曲 3 配布・音だし [準備・課題]楽曲 4 の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | |
| 12 | 楽曲 4 音楽鑑賞用楽曲 3 合奏 [準備・課題]楽曲 4 の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | |
| 13 | 楽曲 4 音楽鑑賞用楽曲 3 仕上げ [準備・課題]楽曲 4 の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | |
| 14 | 試験課題曲配布・合奏 [準備・課題]試験課題曲の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | |
| 15 | 試験課題曲合奏 [準備・課題]試験課題曲の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | |
| 時間外での学習 | 授業以外に各楽器のレッスンがあります。必要に応じてパート練習、セクション練習を行ってください。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。一人でも欠けるとアンサンブルが成立しません。無断欠席・遅刻厳禁。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。 | | | | | |

| ウインドアンサンブルⅡ A | | 音楽総合学科 | | 1年前期 | | |
|------------------------|---|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：服部 篤典・鈴木 孝育・長尾 洪基 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、各所において、それぞれの役割を理解し、演奏力の向上を目指します。また、授業以外に、各楽器の個人レッスンがあります。なお、演奏依頼があった場合、その練習になることがあります。 | | | | | |
| 授業方法 | 吹奏楽の合奏、各楽器のレッスン、場合によってパート別レッスン、セクションごとのレッスンが行われる。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を理解し、クラシック、ジャズ、ポピュラー等ジャンルの様式を理解する。(△) 2. [思考・判断・表現] 吹奏楽で演奏されるジャンルの基本的な知識があり、楽曲に合った演奏表現ができる。(○) 3. [技能] 楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の要求に合った演奏ができる。長短すべてのスケール演奏が安定すること。(◎) 4. [関心・意欲・態度] 個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができる。(○) | | | | | |
| 観点別評価 | <div></div> | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 実技試験 | － | 10 | 50 | － | 60 |
| | 受講態度 | － | － | － | 20 | 20 |
| | 成長度 | 10 | 10 | － | － | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 10 | 20 | 50 | 20 | 100 |
| 成績評価と割合 | 実技試験(期末) 60%、受講態度(普段の授業の取り組み) 20%、成長率(技術の成長度) 20% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | なし。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 楽譜等その都度配布。 | | | | | |
| 内 容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | ガイダンス 授業の進め方、注意事項、スケジュール確認 [準備・課題]基礎の確認 (3h～6h) | | | | | |
| 2 | 楽曲1 基礎力向上の為の楽曲配布・音だし [準備・課題]楽曲1の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | |
| 3 | 楽曲1 基礎力向上の為の楽曲合奏 [準備・課題]楽曲1の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | |
| 4 | 楽曲1 基礎力向上の為の楽曲仕上げ [準備・課題]楽曲1の復習 (3h～6h) | | | | | |
| 5 | 楽曲2 音楽鑑賞用楽曲1 配布・音だし [準備・課題]楽曲2の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | |
| 6 | 楽曲2 音楽鑑賞用楽曲1 合奏 [準備・課題]楽曲2の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | |
| 7 | 楽曲2 音楽鑑賞用楽曲1 仕上げ [準備・課題]楽曲2の復習 (3h～6h) | | | | | |
| 8 | 楽曲3 音楽鑑賞用楽曲2 配布・音だし [準備・課題]楽曲3の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | |
| 9 | 楽曲3 音楽鑑賞用楽曲2 合奏 [準備・課題]楽曲3の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | |
| 10 | 楽曲3 音楽鑑賞用楽曲2 仕上げ [準備・課題]楽曲3の復習 (3h～6h) | | | | | |
| 11 | 楽曲4 音楽鑑賞用楽曲3 配布・音だし [準備・課題]楽曲4の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | |
| 12 | 楽曲4 音楽鑑賞用楽曲3 合奏 [準備・課題]楽曲4の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | |
| 13 | 楽曲4 音楽鑑賞用楽曲3 仕上げ [準備・課題]楽曲4の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | |
| 14 | 試験課題曲配布・合奏 [準備・課題]試験課題曲の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | |
| 15 | 試験課題曲合奏 [準備・課題]試験課題曲の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | |
| 時間外での学習 | 授業以外に各楽器のレッスンがあります。必要に応じてパート練習、セクション練習を行ってください。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。一人でも欠けるとアンサンブルが成立しません。無断欠席・遅刻厳禁。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。 | | | | | |

| | | | | | | |
|------------------------|---|--------|----------|------|----------|-----|
| ウインドアンサンブルⅡ B | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：服部 篤典・鈴木 孝育・長尾 洪基 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、各所において、それぞれの役割を理解し、演奏力の向上を目指します。また、授業以外に、各楽器の個人レッスンがあります。なお、演奏依頼があった場合、その練習になることがあります。 | | | | | |
| 授業方法 | 吹奏楽の合奏、各楽器のレッスン、場合によってパート別レッスン、セクションごとのレッスンが行われる。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を理解し、クラシック、ジャズ、ポピュラー等ジャンルの様式を理解する。(△) 2. [思考・判断・表現] 吹奏楽で演奏されるジャンルの基本的な知識があり、楽曲に合った演奏表現ができる。(○) 3. [技能] 楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の要求に合った演奏ができる。長短すべてのスケール演奏が安定すること。(◎) 4. [関心・意欲・態度] 個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができる。(○) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 実技試験 | － | 10 | 50 | － | 60 |
| | 受講態度 | － | － | － | 20 | 20 |
| | 成長度 | 10 | 10 | － | － | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 10 | 20 | 50 | 20 | 100 |
| 成績評価と割合 | 実技試験(期末) 60%、受講態度(普段の授業の取り組み) 20%、成長率(技術の成長度) 20% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | なし。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 楽譜等その都度配布。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | ガイダンス 授業の進め方、注意事項、スケジュール確認 [準備・課題]基礎の確認 (3h～6h) | | | | | |
| 2 | 楽曲1 基礎力向上の為の楽曲配布・音だし [準備・課題]楽曲1の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | |
| 3 | 楽曲1 基礎力向上の為の楽曲合奏 [準備・課題]楽曲1の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | |
| 4 | 楽曲1 基礎力向上の為の楽曲仕上げ [準備・課題]楽曲1の復習 (3h～6h) | | | | | |
| 5 | 楽曲2 音楽鑑賞用楽曲1 配布・音だし [準備・課題]楽曲2の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | |
| 6 | 楽曲2 音楽鑑賞用楽曲1 合奏 [準備・課題]楽曲2の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | |
| 7 | 楽曲2 音楽鑑賞用楽曲1 仕上げ [準備・課題]楽曲2の復習 (3h～6h) | | | | | |
| 8 | 楽曲3 音楽鑑賞用楽曲2 配布・音だし [準備・課題]楽曲3の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | |
| 9 | 楽曲3 音楽鑑賞用楽曲2 合奏 [準備・課題]楽曲3の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | |
| 10 | 楽曲3 音楽鑑賞用楽曲2 仕上げ [準備・課題]楽曲3の復習 (3h～6h) | | | | | |
| 11 | 楽曲4 音楽鑑賞用楽曲3 配布・音だし [準備・課題]楽曲4の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | |
| 12 | 楽曲4 音楽鑑賞用楽曲3 合奏 [準備・課題]楽曲4の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | |
| 13 | 楽曲4 音楽鑑賞用楽曲3 仕上げ [準備・課題]楽曲4の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | |
| 14 | 試験課題曲配布・合奏 [準備・課題]試験課題曲の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | |
| 15 | 試験課題曲合奏 [準備・課題]試験課題曲の研究及び練習 (3h～6h) | | | | | |
| 時間外での学習 | 授業以外に各楽器のレッスンがあります。必要に応じてパート練習、セクション練習を行ってください。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。一人でも欠けるとアンサンブルが成立しません。無断欠席・遅刻厳禁。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。 | | | | | |

| 吹奏楽理論Ⅰ | | 音楽総合学科 | | 1年前期 | | |
|-----------------|--|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 2単位 | | 講義 | 30時間 | |
| [教員]：長尾 洪基 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 一般的な音楽理論を含め、吹奏楽を指導、演奏する上での専攻楽器以外の各楽器の特徴を学び、移調を理解します。 | | | | | |
| 授業方法 | 音楽理論を含め吹奏楽で必要とされる理論を講義にて行います。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 専攻楽器以外の特徴も理解する (◎) 2. [思考・判断・表現] 楽典知識を活用できること (△) 3. [技能] 移調を即座に出来ること (○) 4. [関心・意欲・態度] 意欲的に授業に参加し、課題に取り組むこと (○) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 筆記試験 | 50 | 10 | 20 | － | 80 |
| | 受講態度 | － | － | － | 20 | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 50 | 10 | 20 | 20 | 100 |
| 成績評価と割合 | 筆記試験 80%、授業態度 20% の合計100%で評価します。 | | | | | |
| テキスト | なし | | | | | |
| 参考書・教材 | その都度配布 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | ガイダンス・授業の内容 [準備・課題] 音楽基礎知識の予習 (3h) | | | | | |
| 2 | 楽譜・音符について [準備・課題] 本時学習内容の復習 (3h) | | | | | |
| 3 | 音程 1 [準備・課題] 本時学習内容の復習 (3h) | | | | | |
| 4 | 音程 2 [準備・課題] 本時学習内容の復習 (3h) | | | | | |
| 5 | 音程 3 [準備・課題] 本時学習内容の復習 (3h) | | | | | |
| 6 | 音階 [準備・課題] 本時学習内容の復習 (3h) | | | | | |
| 7 | 近親調 [準備・課題] 本時学習内容の復習 (3h) | | | | | |
| 8 | 楽語・楽器論木管楽器 1 フルートについて [準備・課題] 本時学習内容の復習 (3h) | | | | | |
| 9 | 楽語・楽器論木管楽器 2 オーボエ・ファゴットについて [準備・課題] 本時学習内容の復習 (3h) | | | | | |
| 10 | 楽語・楽器論木管楽器 3 クラリネットについて [準備・課題] 本時学習内容の復習 (3h) | | | | | |
| 11 | 楽語・楽器論木管楽器 4 サクソフォンについて [準備・課題] 本時学習内容の復習 (3h) | | | | | |
| 12 | 移調 基本編 [準備・課題] 本時学習内容の復習 (3h) | | | | | |
| 13 | 移調 応用編 1 [準備・課題] 本時学習内容の復習 (3h) | | | | | |
| 14 | 移調 応用編 2 [準備・課題] 本時学習内容の復習 (3h) | | | | | |
| 15 | 前期まとめ・筆記試験対策 [準備・課題] 本時学習内容の復習 (3h) | | | | | |
| 時間外での学習 | 専攻楽器以外の理解が重要となってくるので、合奏やアンサンブル中も他楽器のことについて意識をもつこと。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 移調等の問題によって混乱しがちになりますが、たくさんの練習問題をこなしながら確実に理解していきましょう。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。 | | | | | |

| 吹奏楽理論Ⅱ | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|-----------------|--|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 2単位 | | 講義 | 30時間 | |
| [教員]：長尾 洪基 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 吹奏楽を指導、演奏する上で、各楽器の特徴を理解しスコアの読み方を学び、簡単な編曲を行います。 | | | | | |
| 授業方法 | 音楽理論を含め、吹奏楽で必要とされる理論を講義にて行います。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 専攻楽器以外の特徴も理解する (◎) 2. [思考・判断・表現] 楽典知識を活用できること (△) 3. [技能] 移調を即座に出来ること (○) 4. [関心・意欲・態度] 意欲的に授業に参加し、課題に取り組むこと (○) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 筆記試験 | 50 | 10 | 20 | - | 80 |
| | 受講態度 | - | - | - | 20 | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 50 | 10 | 20 | 20 | 100 |
| 成績評価と割合 | 筆記試験 80%、受講態度 20% の合計100%で評価します。 | | | | | |
| テキスト | なし | | | | | |
| 参考書・教材 | その都度配布 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 前期の復習 [準備・課題] 音楽基礎知識の予習 (3h) | | | | | |
| 2 | 楽器論金管楽器1 トランペット [準備・課題] 本時学習内容の復習 (3h) | | | | | |
| 3 | 楽器論金管楽器2 ホルン [準備・課題] 本時学習内容の復習 (3h) | | | | | |
| 4 | 楽器論金管楽器3 トロンボーン [準備・課題] 本時学習内容の復習 (3h) | | | | | |
| 5 | 楽器論金管楽器4 ユーフォニアム [準備・課題] 本時学習内容の復習 (3h) | | | | | |
| 6 | 楽器論金管楽器5 テューバ [準備・課題] 本時学習内容の復習 (3h) | | | | | |
| 7 | 弦バスの構造・特徴について [準備・課題] 本時学習内容の復習 (3h) | | | | | |
| 8 | コンデンススコアをアンサンブル譜へ書き替え(1) [準備・課題] 本時学習内容の復習 (3h) | | | | | |
| 9 | コンデンススコアをアンサンブル譜へ書き替え(2) [準備・課題] 本時学習内容の復習 (3h) | | | | | |
| 10 | コンデンススコアをアンサンブル譜へ書き替え(3) [準備・課題] 本時学習内容の復習 (3h) | | | | | |
| 11 | 打楽器について (種類・音域・楽譜の読み方) [準備・課題] 本時学習内容の復習 (3h) | | | | | |
| 12 | 打楽器の楽譜の書き方・作成 (ドラムマーチ) [準備・課題] 本時学習内容の復習 (3h) | | | | | |
| 13 | 吹奏楽 (管打楽器アンサンブル) の楽譜の書き方・作成 1 [準備・課題] 本時学習内容の復習 (3h) | | | | | |
| 14 | 吹奏楽 (管打楽器アンサンブル) の楽譜の書き方・作成 2 [準備・課題] 本時学習内容の復習 (3h) | | | | | |
| 15 | 後期まとめ・筆記試験対策 [準備・課題] 本時学習内容の復習 (3h) | | | | | |
| 時間外での学習 | 専攻楽器以外の理解が重要となってくるので、合奏やアンサンブル中も他楽器のことについて意識をもつこと。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 各自作成した楽譜を提出します。それぞれの楽器についての知識を再確認しておきましょう。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。 | | | | | |

| スコアリーディング | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|-----------------|--|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 2単位 | | 講義 | 30時間 | |
| [教員]：長尾 洪基 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 吹奏楽を指導・演奏する為に必要な楽譜の読み取り方や内容解釈の方法を学び、実際の演奏への応用を研究します。 | | | | | |
| 授業方法 | 楽曲分析・和声・楽器法など、楽曲内容を読み取るために必要な知識や技術を課題や演習にて習得し、実際に吹奏楽楽曲（の総譜およびコンデンススコア）を用いてスコアリーディング実習を行います。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 楽曲分析、和声、楽器法、などの知識を習得する。(◎) 2. [思考・判断・表現] 総譜を総合的に読み進める力を付ける。(○) 3. [技能] 読み取った内容を演奏や指導に活かすことができる。(△) 4. [関心・意欲・態度] 多様な音楽に関心を持ち積極的に取り込もうとすることができる。(○) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 試験 | 50 | 10 | 10 | － | 70 |
| | 受講態度 | － | 10 | － | 20 | 30 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 50 | 20 | 10 | 20 | 100 |
| 成績評価と割合 | 試験 70%、受講態度 30% の合計100%で評価します。 | | | | | |
| テキスト | なし | | | | | |
| 参考書・教材 | その都度配布 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | ガイダンス・授業の内容 | | | | | |
| 2 | 楽曲の形式について 1 [準備・課題] 本時学習内容の復習（3h） | | | | | |
| 3 | 楽曲の形式について 2 [準備・課題] 本時学習内容の復習（3h） | | | | | |
| 4 | 和声基礎 1 [準備・課題] 本時学習内容の復習（3h） | | | | | |
| 5 | 和声基礎 2 [準備・課題] 本時学習内容の復習（3h） | | | | | |
| 6 | 和声基礎 3 [準備・課題] 本時学習内容の復習（3h） | | | | | |
| 7 | 楽器法（オーケストレーション） 1 [準備・課題] 本時学習内容の復習（3h） | | | | | |
| 8 | 楽器法（オーケストレーション） 2 [準備・課題] 本時学習内容の復習（3h） | | | | | |
| 9 | 楽曲分析 1 [準備・課題] 本時学習内容の復習（3h） | | | | | |
| 10 | 楽曲分析 2 [準備・課題] 本時学習内容の復習（3h） | | | | | |
| 11 | 楽曲分析 3 [準備・課題] 本時学習内容の復習（3h） | | | | | |
| 12 | スコアリーディング 1 [準備・課題] 本時学習内容の復習（3h） | | | | | |
| 13 | スコアリーディング 2 [準備・課題] 本時学習内容の復習（3h） | | | | | |
| 14 | スコアリーディング 3 [準備・課題] 本時学習内容の復習（3h） | | | | | |
| 15 | スコアリーディング 4・筆記試験対策 [準備・課題] 本時学習内容の復習（3h） | | | | | |
| 時間外での学習 | 学習内容が多岐にわたります。その一つ一つを丁寧に復習し、総合的な力にしていきましょう。吹奏楽だけではなく様々なジャンルの優れた音楽を積極的に聞きましょう。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 楽曲解釈を深めより質の高い演奏を目指す為に、音楽内容を正確に読み取る力をつけましょう。オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。 | | | | | |

| リペア基礎(木管)Ⅰ | | 音楽総合学科 | | 1年前期 | | |
|-----------------|---|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 2単位 | | 実技 | 90時間 | |
| [教員]： 渡辺 博夫 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 木管楽器（クラリネット・フルート・アルトサックス）の仕組み・構造を理解し、基礎となる修理・調整方法を学ぶ。 安全な作業を十分に理解し、工具の適切な使用方法を学び修理・調整に必要な基本動作・扱い方を身につけ、木管楽器の基礎的な知識・技術の習得。 | | | | | |
| 授業方法 | 全体での実技を中心とし、講義・小テストなど入れながら木管楽器の基本的な作業動作、基礎的な知識・技術が身につく授業にしていきます。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 各木管楽器の仕組み・構造を理解し基礎的な楽器の状態を把握することができる (△) 2. [思考・判断・表現] 各木管楽器の状態を把握し、修繕箇所を見つけ解決法を判断できる (◎) 3. [技能] 各木管楽器の状態を把握し、修繕箇所を自らの技術で問題解決できる (◎) 4. [関心・意欲・態度] 楽器に関する事に関心・興味を持ち、自らが率先して学習する事ができる (△) | | | | | |
| 観点別評価 | | | | | | |
| | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 筆記試験 | 10 | － | － | － | 10 |
| | 実技試験 | － | 30 | 50 | － | 80 |
| | 受講態度 | － | － | － | 10 | 10 |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 10 | 30 | 50 | 10 | 100 |
| 成績評価と割合 | 試験 80%、受講態度 20% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | 『管打楽器の新しい楽器学と演奏方法』ヤマハ株式会社(売店で購入してください) | | | | | |
| 参考書・教材 | 各社カタログ、必要な資料は配布します。 | | | | | |
| 内 容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | ガイダンス・授業の進め方 工具の確認・使用方法 [準備・課題]学んだ内容の復習 (1h) | | | | | |
| 2 | クラリネット初歩実習 基礎知識、分解組み立て [準備・課題]学んだ内容の復習 (1h) | | | | | |
| 3 | クラリネット基礎実習① タンポ交換手順 [準備・課題]学んだ内容の復習 (2h) | | | | | |
| 4 | クラリネット基礎実習① 連絡、調整 [準備・課題]学んだ内容の復習 (2h) | | | | | |
| 5 | フルート初歩実習 基礎知識、分解組み立て [準備・課題]学んだ内容の復習 (1h) | | | | | |
| 6 | フルート基礎実習① タンポ交換手順 [準備・課題]学んだ内容の復習 (2h) | | | | | |
| 7 | フルート基礎実習① 連絡バランス、調整 [準備・課題]学んだ内容の復習 (2h) | | | | | |
| 8 | サクソフォン初歩実習 基礎知識、分解組み立て [準備・課題]学んだ内容の復習 (1h) | | | | | |
| 9 | サクソフォン基礎実習① タンポ交換手順 [準備・課題]学んだ内容の復習 (2h) | | | | | |
| 10 | サクソフォン基礎実習① 連絡バランス、調整等 [準備・課題]学んだ内容の復習 (2h) | | | | | |
| 11 | クラリネット基礎実習② ジョイントコルク交換 [準備・課題]学んだ内容の復習 (1h) | | | | | |
| 12 | クラリネット基礎実習② 全体調整 (パネ圧、開き、セリ、ガタ) [準備・課題]学んだ内容の復習 (1h) | | | | | |
| 13 | フルート基礎実習② ヘッドコルク交換位置確認 [準備・課題]学んだ内容の復習 (1h) | | | | | |
| 14 | フルート基礎実習② 全体調整 (パネ圧、開き、セリ、ガタ) [準備・課題]学んだ内容の復習 (1h) | | | | | |
| 15 | 前期木管基礎復習演習 [準備・課題]学んだ内容の復習 (3h～5h) | | | | | |
| 時間外での学習 | 授業で学んだ手順をしっかりと復習し、しっかりと基礎を身に付けましょう。 また、日頃から多くの楽器を見て・触れ様々な楽器を知る。特に自身の楽器については、良く観察しておくこと。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 全員が始めて学ぶ事ばかりです。失敗を恐れずに常に興味・関心を持ち取り組んでください。 解からない事は後回しにはせずにすぐに質問し理解することが上達の近道です。 オフィスアワーは、F201で毎週水曜日5限の16:40～18:10です。 | | | | | |

| リペア基礎(木管)Ⅱ | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|-----------------|---|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 2単位 | | 実技 | 90時間 | |
| [教員]： 渡辺 博夫 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 木管楽器（クラリネット・フルート・アルトサックス）の仕組み・構造を理解し、基礎となる修理・調整方法を学ぶ。 安全な作業を十分に理解し、工具の適切な使用方法を学び修理・調整に必要な基本動作・扱い方を身につけ、木管楽器の基礎的な知識・技術の習得。 | | | | | |
| 授業方法 | 全体での実技を中心とし、講義・小テストなど入れながら木管楽器の基本的な作業動作、基礎的な知識・技術が身につく授業にしていきます。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 各木管楽器の仕組み・構造を理解し基礎的な楽器の状態を把握することができる (△) 2. [思考・判断・表現] 各木管楽器の状態を把握し、修繕箇所を見つけ解決法を判断できる (◎) 3. [技能] 各木管楽器の状態を把握し、修繕箇所を自らの技術で問題解決できる (◎) 4. [関心・意欲・態度] 楽器に関する事に関心・興味を持ち、自らが率先して学習する事ができる (△) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 筆記試験 | 10 | － | － | － | 10 |
| | 実技試験 | － | 30 | 50 | － | 80 |
| | 受講態度 | － | － | － | 10 | 10 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 10 | 30 | 50 | 10 | 100 |
| 成績評価と割合 | 試験 90%、受講態度 10% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | 『管打楽器の新しい楽器学と演奏方法』ヤマハ株式会社(売店で購入してください) 前期購入品を使用します。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 各社楽器カタログ等、必要な資料は配布致します。 | | | | | |
| 内 容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | サクソフォン基礎実習② ネックコルク交換 [準備・課題]学んだ内容の復習 (1h) | | | | | |
| 2 | サクソフォン基礎実習② 全体調整 (テーブルキイ調整他) [準備・課題]全体調整(テーブルキイ調整)の復習 (3h～5h) | | | | | |
| 3 | クラリネット総合実習① タンボ交換、調整復習 [準備・課題]タンボ交換、調整の復習 (3h) | | | | | |
| 4 | クラリネット総合実習① タンボ交換、調整復習 [準備・課題]タンボ交換、調整の復習 (3h) | | | | | |
| 5 | フルート総合実習① タンボ交換、調整復習 [準備・課題]タンボ交換、調整の復習 (3h) | | | | | |
| 6 | フルート総合実習① タンボ交換、調整復習 [準備・課題]タンボ交換、調整の復習 (3h) | | | | | |
| 7 | サクソフォン総合実習① タンボ交換、調整復習 [準備・課題]タンボ交換、調整の復習 (3h) | | | | | |
| 8 | サクソフォン総合実習① タンボ交換、調整復習 [準備・課題]タンボ交換、調整の復習 (3h) | | | | | |
| 9 | クラリネット総合実習② 全タンボ交換、全体調整 [準備・課題]学んだ内容 a の復習 (3h) | | | | | |
| 10 | クラリネット総合実習② 全タンボ交換、全体調整 [準備・課題]学んだ内容の復習 (3h) | | | | | |
| 11 | フルート総合実習② 全タンボ交換、全体調整 [準備・課題]学んだ内容の復習 (3h) | | | | | |
| 12 | フルート総合実習② 全タンボ交換、全体調整 [準備・課題]学んだ内容の復習 (3h) | | | | | |
| 13 | サクソフォン総合実習② 部分タンボ交換、全体調整 [準備・課題]学んだ内容の復習 (3h) | | | | | |
| 14 | サクソフォン総合実習② 部分タンボ交換、全体調整 [準備・課題]学んだ内容の復習 (3h) | | | | | |
| 15 | クラリネット全タンボ交換、全体調整 [準備・課題]学んだ内容の復習 (5h) | | | | | |
| 時間外での学習 | 反復練習をすることにより精度・時間短縮を心がけよう。 また、日頃から多くの楽器を見て・触れ様々な楽器を知る。特に自身の楽器については、良く観察しておくこと。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 基本手順をしっかりと身につけて2年次への準備をしっかりとしよう。分からないことは1年次で解決！ オフィスアワーは、F201で毎週水曜日5限の16:40～18:10です。 | | | | | |

| リペア基礎(金管)Ⅰ | | 音楽総合学科 | | 1年前期 | | |
|-----------------|---|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 2単位 | | 実技 | 90時間 | |
| [教員]： 渡辺 博夫 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 金管楽器（トランペット・ホルン・トロンボーン）の仕組み・構造を理解し、基礎となる修理・調整方法を学ぶ。 安全な作業を十分に理解し、工具の適切な使用方法を学び修理・調整に必要な基本動作・扱い方を身につけ、金管楽器の基礎的な知識・技術の習得。 | | | | | |
| 授業方法 | 全体での実技を中心とし、講義・小テストなど入れながら金管楽器の基本的な作業動作、基礎的な知識・技術が身につく授業にしています | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 各金管楽器の仕組み・構造を理解し基礎的な楽器の状態を把握することができる (△) 2. [思考・判断・表現] 各金管楽器の状態を把握し、修繕箇所を見つけ解決法を判断できる (◎) 3. [技能] 各金管楽器の状態を把握し、修繕箇所を自らの技術で問題解決できる (◎) 4. [関心・意欲・態度] 楽器に関する事に関心・興味を持ち、自らが率先して学習する事ができる (△) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 筆記試験 | 10 | － | － | － | 10 |
| | 実技試験 | － | 30 | 50 | － | 80 |
| | 受講態度 | － | － | － | 10 | 10 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 10 | 30 | 50 | 10 | 100 |
| 成績評価と割合 | 試験 90%、受講態度 10% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | 『管打楽器の新しい楽器学と演奏方法』ヤマハ株式会社(売店で購入してください) | | | | | |
| 参考書・教材 | 各社楽器カタログ等、必要な資料は配布致します。 | | | | | |
| 内 容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | ガイダンス・授業の進め方 工具の確認、使用方法 [準備・課題]学んだ内容の復習 (1h) | | | | | |
| 2 | トランペット初歩実習 基礎知識、取扱い方法、分解組み立て [準備・課題]分解組み立ての復習 (1h) | | | | | |
| 3 | トランペット基礎実習① 抜き差し管調整 [準備・課題]抜き差し管調整の復習 (2h) | | | | | |
| 4 | トランペット基礎実習① ピストン調整 [準備・課題]ピストン調整の復習 (2h) | | | | | |
| 5 | ハンダ初歩実習 基礎知識 [準備・課題]学んだ内容の復習 (1h) | | | | | |
| 6 | ハンダ初歩実習 ハンダ付け作業 [準備・課題]ハンダ付け作業の復習 (2h) | | | | | |
| 7 | ホルン初歩実習 基礎知識、取扱い方法、分解組み立て [準備・課題]分解組み立ての復習 (1h) | | | | | |
| 8 | ホルン基礎実習① ロータリー糸交換 [準備・課題]ロータリー糸交換の復習 (2h) | | | | | |
| 9 | ホルン基礎実習① ロータリー調整 [準備・課題]ロータリー調整の復習 (2h) | | | | | |
| 10 | トロンボーン初歩実習 基礎知識、取扱い方法 [準備・課題]学んだ内容の復習 (1h) | | | | | |
| 11 | トロンボーン基礎実習① スライド調整 [準備・課題]スライド調整の復習 (2h) | | | | | |
| 12 | トロンボーン基礎実習① スライド調整 [準備・課題]スライド調整の復習 (2h) | | | | | |
| 13 | ハンダ付け基礎実習 ハンダ分解組み立て [準備・課題]ハンダ分解組み立ての復習 (2h) | | | | | |
| 14 | ハンダ付け基礎実習 ハンダ分解組み立て [準備・課題]ハンダ分解組み立ての復習 (2h) | | | | | |
| 15 | 前期金管楽器基礎復習演習 [準備・課題]学んだ内容の復習 (3h～5h) | | | | | |
| 時間外での学習 | 授業で学んだ手順をしっかりと復習し、しっかりと基礎を身に付けましょう。 また、日頃から多くの楽器を見て・触れ様々な楽器を知る。特に自身の楽器については、良く観察しておくこと。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 全員が始めて学ぶ事ばかりです。失敗を恐れずに常に興味・関心を持ち取り組んでください。 解からない事は後回しにはせずにすぐに質問し理解することが上達の近道です。 オフィスアワーは、F201教室で毎週水曜日5限の16:40～18:10です。 | | | | | |

| リペア基礎(金管)Ⅱ | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|-----------------|---|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 2単位 | | 実技 | 90時間 | |
| [教員]： 渡辺 博夫 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 金管楽器（トランペット・ホルン・トロンボーン）の仕組み・構造を理解し、基礎となる修理・調整方法を学ぶ。 安全な作業を十分に理解し、工具の適切な使用方法を学び修理・調整に必要な基本動作・扱い方を身につけ、金管楽器の基礎的な知識・技術の習得。 | | | | | |
| 授業方法 | 全体での実技を中心とし、講義・小テストなど入れながら金管楽器の基本的な作業動作、基礎的な知識・技術が身につく授業にしていきます。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 各金管楽器の仕組み・構造を理解し基礎的な楽器の状態を把握することができる (△) 2. [思考・判断・表現] 各金管楽器の状態を把握し、修繕箇所を見つけ解決法を判断できる (◎) 3. [技能] 各金管楽器の状態を把握し、修繕箇所を自らの技術で問題解決できる (◎) 4. [関心・意欲・態度] 楽器に関する事に関心・興味を持ち、自らが率先して学習する事ができる (△) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 筆記試験 | 10 | － | － | － | 10 |
| | 実技試験 | － | 30 | 50 | － | 80 |
| | 受講態度 | － | － | － | 10 | 10 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 10 | 30 | 50 | 10 | 100 |
| 成績評価と割合 | 試験 90%、受講態度 20% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | 『管打楽器の新しい楽器学と演奏方法』ヤマハ株式会社(売店で購入してください) 前期に購入したものを使用します。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 各社カタログ、資料等は配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | トランペット基礎実習② 抜き差し管中管へコミ修正、調整 [準備・課題]学んだ内容の復習 (2h) | | | | | |
| 2 | トランペット基礎実習② 抜き差し管中管へコミ修正、調整 [準備・課題]学んだ内容の復習 (2h) | | | | | |
| 3 | トランペット基礎実習② マウスパイプハンダ分解組み立て [準備・課題]マウスパイプハンダ分解、組み立て作業の復習 (3h～5h) | | | | | |
| 4 | トランペット基礎実習② マウスパイプハンダ分解組み立て [準備・課題]マウスパイプハンダ分解、組み立て作業の復習 (3h～5h) | | | | | |
| 5 | ホルン基礎実習② ロータリー縦ガタ修正 [準備・課題]学んだ内容の復習 (2h) | | | | | |
| 6 | ホルン基礎実習② ロータリー縦ガタ修正 [準備・課題]学んだ内容の復習 (2h) | | | | | |
| 7 | ホルン基礎実習② ロータリー調整、紐テンション調整 [準備・課題]学んだ内容の復習 (2h) | | | | | |
| 8 | ホルン基礎実習② ロータリー調整、紐テンション調整 [準備・課題]学んだ内容の復習 (2h) | | | | | |
| 9 | トロンボーン基礎実習② スライド調整、ウォーターキー調整 [準備・課題]学んだ内容の復習 (2h) | | | | | |
| 10 | トロンボーン基礎実習② スライド調整 [準備・課題]学んだ内容の復習 (2h) | | | | | |
| 11 | 金管楽器基礎実習① マウスピース、抜き差し管固着及び、シャンク変形修正 [準備・課題]学んだ内容の復習 (1h) | | | | | |
| 12 | トランペット基礎実習② ビストン固着修正、マウスパイプハンダ付け [準備・課題]学んだ内容の復習 (3h～5h) | | | | | |
| 13 | ホルン基礎実習② ロータリー固着分解調整、紐交換、全体調整 [準備・課題]学んだ内容の復習 (3h～5h) | | | | | |
| 14 | トロンボーン基礎実習② スライド調整、ウォーターキーコルク交換 [準備・課題]学んだ内容の復習 (3h～5h) | | | | | |
| 15 | ホルンロータリー固着修正、縦ガタ修正後調整、ロータリー糸交換調整、全体調整 [準備・課題]学んだ内容の復習 (5h) | | | | | |
| 時間外での学習 | 反復練習をすることにより精度・時間短縮を心がけよう。 また、日頃から多くの楽器を見て・触れ様々な楽器を知る。特に自身の楽器については、良く観察しておくこと。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 基本手順をしっかりと身につけて2年次への準備をしっかりとしよう。分からないことは1年次で解決！ オフィスアワーは、F101で毎週水曜日5限16：40～18：10です。 | | | | | |

| リペア基礎(総合)Ⅰ | | 音楽総合学科 | | 1年前期 | | |
|-----------------|--|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 3単位 | | 実技 | 120時間 | |
| [教員]：渡辺 博夫 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 木管楽器・金管楽器の区分にとらわれず多角的なアプローチから仕組み・構造を理解し、基礎となる修理・調整方法を学ぶ。 安全な作業を十分に理解し、工具の適切な使用方法を学び修理・調整に必要な基本動作・扱い方を身につけ、基礎的な知識・技術の習得。 正確性・効率性・商品知識・接客対応など現場での内容も視野に入れ授業を行っていく。 | | | | | |
| 授業方法 | 全体での実技を中心とし、講義・小テストなど入れながら管楽器の基本的な作業動作、基礎的な知識・技術が身につく授業にしていきます。また、実技以外の音楽業界などの講話なども行いたい。 | | | | | |
| 到達目標 | 1.[知識・理解] 各管楽器の仕組み・構造を理解し基礎的な楽器の状態を把握することができる (△) 2.[思考・判断・表現] 各管楽器の状態を把握し、修繕箇所を見つけ解決法を判断できる (◎) 3.[技能] 各管楽器の状態を把握し、修繕箇所を自らの技術で問題解決できる (◎) 4.[関心・意欲・態度] 楽器に関する事に関心・興味を持ち、自らが率先して学習する事ができる (△) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 筆記試験 | 10 | － | － | － | 10 |
| | 実技試験 | － | 30 | 50 | － | 80 |
| | 受講態度 | － | － | － | 10 | 10 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 10 | 30 | 50 | 10 | 100 |
| 成績評価と割合 | 試験 90%、受講態度 10% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | 『管打楽器の新しい楽器学と演奏法』ヤマハ株式会社(売店で購入してください) | | | | | |
| 参考書・教材 | 各社カタログ、資料等は配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 工具の加工① [準備・課題]学んだ内容の復習(1h) | | | | | |
| 2 | 工具の加工② [準備・課題]学んだ内容の復習(1h) | | | | | |
| 3 | 管楽器基礎知識① メンテナンス用品の取り扱い他 [準備・課題]学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 4 | 管楽器基礎知識② メンテナンス用品の取り扱い他 [準備・課題]学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 5 | クラリネット、トランペット基礎確認テスト [準備・課題]学んだ内容の復習(1h) | | | | | |
| 6 | 管楽器製造方法① [準備・課題]学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 7 | 管楽器製造方法② [準備・課題]学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 8 | フルート、ホルン基礎確認テスト [準備・課題]学んだ内容の復習(1h) | | | | | |
| 9 | 部品他の構造役割 [準備・課題]学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 10 | 管楽器以外の楽器について [準備・課題]学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 11 | サクソフォン、トロンボーン基礎確認テスト [準備・課題]学んだ内容の復習(1h) | | | | | |
| 12 | 主要管楽器メーカー講習① [準備・課題]学んだ内容の復習(3h～5h) | | | | | |
| 13 | 楽器店での管楽器リペア① [準備・課題]学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 14 | 工房や管楽器専門店での管楽器リペア② [準備・課題]学んだ内容の復習(2h) | | | | | |
| 15 | 前期総合基礎復習演習 [準備・課題]学んだ内容の復習(3h～5h) | | | | | |
| 時間外での学習 | 授業で学んだ手順をしっかりと復習し、しっかりと基礎を身に付けましょう。 また、日頃から多くの楽器を見て・触れ様々な楽器を知る。特に自身の楽器については、良く観察しておくこと。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 全員が初めて学ぶ事ばかりです。失敗を恐れずに常に興味・関心を持ち取り組んでください。 解からない事は後回しにはせずにすぐに質問し理解することが上達の近道です。 オフィスアワーは、F201で毎週水曜日5限の16:40～18:10です。 | | | | | |

| リペア基礎(総合)Ⅱ | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|-----------------|--|--------|----------|------|----------|----|
| | | 3単位 | | 実技 | 120時間 | |
| 〔教員〕： 渡辺 博夫 | | | | | | |
| 〔関連する資格・履修制限等〕： | | | | | | |
| 授業内容 | 木管楽器・金管楽器の区分にとらわれず多角的なアプローチから仕組み・構造を理解し、基礎となる修理・調整方法を学ぶ。 安全な作業を十分に理解し、工具の適切な使用方法を学び修理・調整に必要な基本動作・扱い方を身につけ、基礎的な知識・技術の習得。 正確性・効率性・商品知識・接客対応など現場での内容も視野に入れ授業を行っていく。 | | | | | |
| 授業方法 | 全体での実技を中心とし、講義・小テストなど入れながら管楽器の基本的な作業動作、基礎的な知識・技術が身につく授業にしていきます。また、実技以外の音楽業界などの講話なども行いたい。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 各管楽器の仕組み・構造を理解し基礎的な楽器の状態を把握することができる (△) 2. [思考・判断・表現] 各管楽器の状態を把握し、修繕箇所を見つけ解決法を判断できる (◎) 3. [技能] 各管楽器の状態を把握し、修繕箇所を自らの技術で問題解決できる (◎) 4. [関心・意欲・態度] 楽器に関する事に関心・興味を持ち、自らが率先して学習する事ができる (△) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 筆記試験 | 10 | － | － | － | 10 |
| | 実技試験 | － | 30 | 50 | － | 80 |
| | 受講態度 | － | － | － | 10 | 10 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 合 計 | 10 | 30 | 50 | 10 | 100 | |
| 成績評価と割合 | 試験 90%、受講態度 10% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | 『管打楽器の新しい楽器学と演奏法』ヤマハ株式会社(売店で購入してください) | | | | | |
| 参考書・教材 | 各社カタログ、資料等は配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 管楽器専門知識① 〔準備・課題〕学習した内容の復習(1h) | | | | | |
| 2 | 管楽器専門知識② 〔準備・課題〕学習した内容の復習(1h) | | | | | |
| 3 | 管楽器専門知識③ 〔準備・課題〕学習した内容の復習(1h) | | | | | |
| 4 | 主要楽器メーカー講習② 〔準備・課題〕学習した内容の復習(3h～5h) | | | | | |
| 5 | 管体材料の種類、取扱い方法 〔準備・課題〕学習した内容の復習(1h) | | | | | |
| 6 | 表面仕上げの種類による音色等の違い 〔準備・課題〕学習した内容の復習(1h) | | | | | |
| 7 | 特殊工具を使用するリペア 〔準備・課題〕学習した内容の復習(1h) | | | | | |
| 8 | 総合確認テスト 〔準備・課題〕学習した内容の復習(1h) | | | | | |
| 9 | 楽器店での管楽器修理③ 〔準備・課題〕学習した内容の復習(1h) | | | | | |
| 10 | 楽器店での管楽器修理④ 〔準備・課題〕学習した内容の復習(1h) | | | | | |
| 11 | 楽器店での管楽器修理⑤ 〔準備・課題〕学習した内容の復習(1h) | | | | | |
| 12 | 主要管楽器メーカー特別講義③ 〔準備・課題〕学習した内容の復習(3h～5h) | | | | | |
| 13 | 後期総合基礎復習演習① 〔準備・課題〕学習した内容の復習(3h～5h) | | | | | |
| 14 | 後期総合基礎復習演習② 〔準備・課題〕学習した内容の復習(3h～5h) | | | | | |
| 15 | 後期総合基礎復習演習③ 〔準備・課題〕学習した内容の復習(3h～5h) | | | | | |
| 時間外での学習 | 反復練習をすることにより精度・時間短縮を心がけよう。 また、日頃から多くの楽器を見て・触れ様々な楽器を知る。特に自身の楽器については、良く観察しておくこと。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 基本手順をしっかりと身につけ2年次への準備をしっかりとしよう。分からないことは1年次で解決！ オフィスアワーは、F201で毎週水曜日5限の16:40～18:10です。 | | | | | |

| 楽器奏法Ⅰ | | 音楽総合学科 | | 1年前期 | | |
|-----------------|--|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：鈴木 孝育 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | リペア技術者にとって修理品の点検は不可欠、修理をしても点検するすべがなくては、プロの技術者とは呼べません。楽器奏法の授業では、フルート・クラリネット・サクソフォン・ホルン・トランペット・トロンボーンといった吹奏楽で使用される代表的な管楽器のレッスンを受けることにより、各楽器の基本的な奏法を習得し楽器検品などに活かします。また演奏することによって、その楽器の機構や特徴を学ぶことができます。 | | | | | |
| 授業方法 | 各楽器に分かれ5～6週かけてレッスンを受け各楽器の演奏技術を修得します。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 各楽器の演奏上の基本的な構造が理解し、その説明ができる。(△) 2. [思考・判断・表現] リペア修理後の楽器の状態が演奏によってある程度把握できる。(△) 3. [技能] 各楽器の基本的な奏法を身につけ、ロングトーン・スケール・タンギングなどの奏法が容易にできる。(◎) 4. [関心・意欲・態度] 各楽器を演奏し修理の依頼者に対し故障の原因や修理での改善点がある程度説明できる。(○) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 実技試験 | － | － | 60 | － | 60 |
| | 各楽器の修得力 | 10 | 10 | － | － | 20 |
| | 受講態度 | － | － | － | 20 | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 10 | 10 | 60 | 20 | 100 |
| 成績評価と割合 | 実技試験(期末の試験) 60%、各楽器の修得力(楽器ごとの評価) 20%、 受講態度(普段の授業の取り組み) 20% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | ありません。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 楽譜等その都度配布。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | ガイダンス、授業の説明、レッスンのグループ分け、レッスンの受け方 [準備・課題]次回レッスン楽器の基礎知識 (2h～3h) | | | | | |
| 2 | 楽器1レッスン1：グループA (F1) B (C1) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [準備・課題]レッスン楽器の練習 (2h～3h) | | | | | |
| 3 | 楽器1レッスン2：グループA (F1) B (C1) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等) 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題]レッスン楽器の練習 (2h～3h) | | | | | |
| 4 | 楽器1レッスン3：グループA (F1) B (C1) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 基本奏法(ロングトーン、スケール等) 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題]レッスン楽器の練習 (2h～3h) | | | | | |
| 5 | 楽器1レッスン4：グループA (F1) B (C1) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題]次回レッスン楽器の基礎知識 (2h～3h) | | | | | |
| 6 | 楽器2レッスン1：グループA (C1) B (Sax) C (Tp) D (Hr) E (Tb) F (F1) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [準備・課題]レッスン楽器の練習 (2h～3h) | | | | | |
| 7 | 楽器2レッスン2：グループA (C1) B (Sax) C (Tp) D (Hr) E (Tb) F (F1) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等) 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題]レッスン楽器の練習 (2h～3h) | | | | | |
| 8 | 楽器2レッスン3：グループA (C1) B (Sax) C (Tp) D (Hr) E (Tb) F (F1) 基本奏法(ロングトーン、スケール等) 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題]レッスン楽器の練習 (2h～3h) | | | | | |
| 9 | 楽器2レッスン4：グループA (C1) B (Sax) C (Tp) D (Hr) E (Tb) F (F1) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題]次回レッスン楽器の基礎知識 (2h～3h) | | | | | |
| 10 | 楽器3レッスン1：グループA (Sax) B (Tp) C (Hr) D (Tb) E (F1) F (C1) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [準備・課題]レッスン楽器の練習 (2h～3h) | | | | | |
| 11 | 楽器3レッスン2：グループA (Sax) B (Tp) C (Hr) D (Tb) E (F1) F (C1) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等) 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題]レッスン楽器の練習 (2h～3h) | | | | | |
| 12 | 楽器3レッスン3：グループA (Sax) B (Tp) C (Hr) D (Tb) E (F1) F (C1) 基本奏法(ロングトーン、スケール等) 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題]レッスン楽器の練習 (2h～3h) | | | | | |
| 13 | 楽器3レッスン4：グループA (Sax) B (Tp) C (Hr) D (Tb) E (F1) F (C1) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題]レッスン楽器の復習 (2h～3h) | | | | | |
| 14 | 不得意楽器のレッスン1 学期末実技試験対策 [準備・課題]レッスン楽器の練習 (2h～3h) | | | | | |
| 15 | 不得意楽器のレッスン2 学期末実技試験対策 [準備・課題]レッスン楽器の練習 (2h～3h) | | | | | |
| 時間外での学習 | 短期間のレッスンの中で基本的な奏法を学ばなければいけないため、習得するためには強い意志と、努力が必要となります。与えられた課題をこなすためにしっかりと練習しましょう。 | | | | | |

| | |
|-----------------|---|
| 受講学生への メッセージ | 授業前に楽器の準備をしてください。レッスンに当たっては楽器の取り扱いなど担当教員の指示をしっかりと聞いて行ってください。 オフィスアワーは金曜日16:20～18:00です。 |
|-----------------|---|

| 楽器奏法Ⅱ | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|-----------------|--|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：鈴木 孝育 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | リペア技術者にとって修理品の点検は不可欠、修理をしても点検するすべがなくては、プロの技術者とは呼べません。楽器奏法の授業では、フルート・クラリネット・サクソフォン・ホルン・トランペット・トロンボーンといった吹奏楽で使用される代表的な管楽器のレッスンを受けることにより、各楽器の基本的な奏法を習得し楽器検品などに活かします。また演奏することによって、その楽器の機構や特徴を学ぶことができます。 | | | | | |
| 授業方法 | 各楽器に分かれ5～6週かけてレッスンを受け各楽器の演奏技術を修得します。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 各楽器の演奏上の基本的な構造が理解し、その説明ができる。(△) 2. [思考・判断・表現] リペア修理後の楽器の状態が演奏によってある程度把握できる。(△) 3. [技能] 各楽器の基本的な奏法を身につけ、ロングトーン・スケール・タンギングなどの奏法が容易にできる。(◎) 4. [関心・意欲・態度] 各楽器を演奏し修理の依頼者に対し故障の原因や修理での改善点がある程度説明できる。(○) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 実技試験 | － | － | 60 | － | 60 |
| | 各楽器の修得力 | 10 | 10 | － | － | 20 |
| | 受講態度 | － | － | － | 20 | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 10 | 10 | 60 | 20 | 100 |
| 成績評価と割合 | 実技試験(期末の試験) 60%、各楽器の修得力(楽器ごとの評価) 20%、 受講態度(普段の授業の取り組み) 20% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | ありません。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 楽譜等その都度配布。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | ガイダンス、授業の説明、レッスンのグループ分け、レッスンの受け方 [準備・課題] 次回レッスン楽器の基礎知識 (2h～3h) | | | | | |
| 2 | 楽器1 レッスン1：グループA (F1) B (Cl) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [準備・課題] レッスン楽器の練習 (2h～3h) | | | | | |
| 3 | 楽器1 レッスン2：グループA (F1) B (Cl) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等) 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] レッスン楽器の練習 (2h～3h) | | | | | |
| 4 | 楽器1 レッスン3：グループA (F1) B (Cl) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 基本奏法(ロングトーン、スケール等) 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] レッスン楽器の練習 (2h～3h) | | | | | |
| 5 | 楽器1 レッスン4：グループA (F1) B (Cl) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] 次回レッスン楽器の基礎知識 (2h～3h) | | | | | |
| 6 | 楽器2 レッスン1：グループA (Cl) B (Sax) C (Tp) D (Hr) E (Tb) F (F1) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [準備・課題] レッスン楽器の練習 (2h～3h) | | | | | |
| 7 | 楽器2 レッスン2：グループA (Cl) B (Sax) C (Tp) D (Hr) E (Tb) F (F1) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等) 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] レッスン楽器の練習 (2h～3h) | | | | | |
| 8 | 楽器2 レッスン3：グループA (Cl) B (Sax) C (Tp) D (Hr) E (Tb) F (F1) 基本奏法(ロングトーン、スケール等) 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] レッスン楽器の練習 (2h～3h) | | | | | |
| 9 | 楽器2 レッスン4：グループA (Cl) B (Sax) C (Tp) D (Hr) E (Tb) F (F1) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] 次回レッスン楽器の基礎知識 (2h～3h) | | | | | |
| 10 | 楽器3 レッスン1：グループA (Sax) B (Tp) C (Hr) D (Tb) E (F1) F (Cl) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [準備・課題] レッスン楽器の練習 (2h～3h) | | | | | |
| 11 | 楽器3 レッスン2：グループA (Sax) B (Tp) C (Hr) D (Tb) E (F1) F (Cl) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等) 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] レッスン楽器の練習 (2h～3h) | | | | | |
| 12 | 楽器3 レッスン3：グループA (Sax) B (Tp) C (Hr) D (Tb) E (F1) F (Cl) 基本奏法(ロングトーン、スケール等) 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] レッスン楽器の練習 (2h～3h) | | | | | |
| 13 | 楽器3 レッスン4：グループA (Sax) B (Tp) C (Hr) D (Tb) E (F1) F (Cl) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [準備・課題] レッスン楽器の復習 (2h～3h) | | | | | |
| 14 | 不得意楽器のレッスン1 学期末実技試験対策 [準備・課題] レッスン楽器の練習 (2h～3h) | | | | | |
| 15 | 不得意楽器のレッスン2 学期末実技試験対策 [準備・課題] レッスン楽器の練習 (2h～3h) | | | | | |
| 時間外での学習 | 短期間のレッスンの中で基本的な奏法を学ばなければいけないため、習得するためには強い意志と、努力が必要となります。与えられた課題をこなすためにしっかりと練習しましょう。 | | | | | |

| | |
|-----------------|---|
| 受講学生への メッセージ | 授業前に楽器の準備をしてください。レッスンに当たっては楽器の取り扱いなど担当教員の指示をしっかりと聞いて行ってください。 オフィスアワーは金曜日16:20～18:00です。 |
|-----------------|---|

| 楽器別演習Ⅰ | | 音楽総合学科 | | 1年前期 | | |
|------------------------|--|--------|----------|------|----------|----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：服部 篤典・鈴木 孝育・長尾 洪基 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 各専攻楽器の基礎力、演奏技術、表現力向上のためのレッスンをを行います。 状況により、ウインドアンサンブルの授業と連携します。 | | | | | |
| 授業方法 | 個人の進捗状況に応じてレッスンをを行う。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 楽譜の情報について理解している。(△) 2. [思考・判断・表現] 楽譜から得られる情報をもとに、自身の思いを演奏に表現する。(○) 3. [技能] 各専攻楽器の演奏に必要とされる音域が演奏できる。(◎) 4. [関心・意欲・態度] 演奏曲について指導者へ自発的な質問ができる。(○) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 実技試験 | － | 10 | 50 | － | 60 |
| | 受講態度 | － | － | － | 20 | 20 |
| | 成長度 | 10 | 10 | － | － | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 合 計 | 10 | 20 | 50 | 20 | 100 | |
| 成績評価と割合 | 実技試験(期末試験) 60%、受講態度(普段の授業の取り組み) 20%、成長率(技術の成長度) 20% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生は単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | なし | | | | | |
| 参考書・教材 | その都度配布 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | ガイダンス 授業の進め方、注意事項、スケジュール確認 [準備・課題] 配布課題に沿って演習 (2～4h) | | | | | |
| 2 | 基礎の確認 個々の奏法チェック、スケール、チューニング [準備・課題] 配布課題に沿って演習 (2～4h) | | | | | |
| 3 | 基礎の確認 個々の奏法チェック、スケール、チューニング [準備・課題] 配布課題に沿って演習 (2～4h) | | | | | |
| 4 | 演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題] 状況によりレッスンをを行う (2～4h) | | | | | |
| 5 | 演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題] 状況によりレッスンをを行う (2～4h) | | | | | |
| 6 | 演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題] 状況によりレッスンをを行う (2～4h) | | | | | |
| 7 | 演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題] 状況によりレッスンをを行う (2～4h) | | | | | |
| 8 | 演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題] 状況によりレッスンをを行う (2～4h) | | | | | |
| 9 | 演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題] 状況によりレッスンをを行う (2～4h) | | | | | |
| 10 | 演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題] 状況によりレッスンをを行う (2～4h) | | | | | |
| 11 | 演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題] 状況によりレッスンをを行う (2～4h) | | | | | |
| 12 | 演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題] 状況によりレッスンをを行う (2～4h) | | | | | |
| 13 | 演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題] 状況によりレッスンをを行う (2～4h) | | | | | |
| 14 | 演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題] 状況によりレッスンをを行う (2～4h) | | | | | |
| 15 | 演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題] 状況によりレッスンをを行う (2～4h) | | | | | |
| 時間外での学習 | レッスンで学んだことを各自で確立させるために必要に応じて、個人練習を行ってください。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 個人の奏法に余裕が持てることは合奏でも余裕が生まれ、良いアンサンブルを生み出すことができます。 日頃より、基礎練習等を積み上げておきましょう。 オフィスアワーは授業終了後。 | | | | | |

| 楽器別演習Ⅱ | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|------------------------|--|--------|----------|------|----------|----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：服部 篤典・鈴木 孝育・長尾 洪基 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 各専攻楽器の基礎力、演奏技術、表現力向上のためのレッスンをを行います。 状況により、ウインドアンサンブルの授業と連携します。 | | | | | |
| 授業方法 | 個人の進捗状況に応じてレッスンをを行う。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 楽譜の情報について理解している。(△) 2. [思考・判断・表現] 楽譜から得られる情報をもとに、自身の思いを演奏に表現する。(○) 3. [技能] 各専攻楽器の演奏に必要とされる音域が演奏できる。(◎) 4. [関心・意欲・態度] 演奏曲について指導者へ自発的な質問ができる。(○) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 実技試験 | － | 10 | 50 | － | 60 |
| | 受講態度 | － | － | － | 20 | 20 |
| | 成長度 | 10 | 10 | － | － | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 合 計 | 10 | 20 | 50 | 20 | 100 | |
| 成績評価と割合 | 実技試験(期末試験) 60%、受講態度(普段の授業の取り組み) 20%、成長率(技術の成長度) 20% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生は単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | なし | | | | | |
| 参考書・教材 | その都度配布 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | ガイダンス 授業の進め方、注意事項、スケジュール確認 [準備・課題] 配布課題に沿って演習 (2～4h) | | | | | |
| 2 | 基礎の確認 個々の奏法チェック、スケール、チューニング [準備・課題] 配布課題に沿って演習 (2～4h) | | | | | |
| 3 | 基礎の確認 個々の奏法チェック、スケール、チューニング [準備・課題] 配布課題に沿って演習 (2～4h) | | | | | |
| 4 | 演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題] 状況によりレッスンをを行う (2～4h) | | | | | |
| 5 | 演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題] 状況によりレッスンをを行う (2～4h) | | | | | |
| 6 | 演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題] 状況によりレッスンをを行う (2～4h) | | | | | |
| 7 | 演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題] 状況によりレッスンをを行う (2～4h) | | | | | |
| 8 | 演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題] 状況によりレッスンをを行う (2～4h) | | | | | |
| 9 | 演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題] 状況によりレッスンをを行う (2～4h) | | | | | |
| 10 | 演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題] 状況によりレッスンをを行う (2～4h) | | | | | |
| 11 | 演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題] 状況によりレッスンをを行う (2～4h) | | | | | |
| 12 | 演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題] 状況によりレッスンをを行う (2～4h) | | | | | |
| 13 | 演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題] 状況によりレッスンをを行う (2～4h) | | | | | |
| 14 | 演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題] 状況によりレッスンをを行う (2～4h) | | | | | |
| 15 | 演奏技術向上のために必要な部分の確認 [準備・課題] 状況によりレッスンをを行う (2～4h) | | | | | |
| 時間外での学習 | レッスンで学んだことを各自で確立させるために必要に応じて、個人練習を行ってください。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 個人の奏法に余裕が持てることは合奏でも余裕が生まれ、良いアンサンブルを生み出すことができます。 日頃より、基礎練習等を積み上げておきましょう。 オフィスアワーは授業終了後。 | | | | | |

| 楽器研究Ⅰ | | 音楽総合学科 | | 1年前期 | | |
|-----------------|--|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：木下 紘治郎 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | ・管打楽器業界で即戦力として通用する人材に必要な、豊富で、より専門的な知識の修得を行います。 ・演奏力、指導力、幅広い音楽知識、リペア技術、又はそれに関する知識を背景に持った人材である プレーイング・セールス・エンジニアの育成を目指します。 ・お客様に信頼され、支持される人間性豊かな業界人を目指します。 | | | | | |
| 授業方法 | 講義形式で行います。より理解を深めるため楽器本体、カタログ、CD、DVDを活用します。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 管楽器の基本的知識、歴史、特性、メーカー等を理解し、お客様とのコミュニケーションが出来る。(◎) 2. [思考・判断・表現] 楽器業界で営業活動を行うにあたって、課題解決に必要な基礎的な思考力、判断力を持ちお客様とコミュニケーションできる。(○) 3. [関心・意欲・態度] 常に自己資質の向上心を持ち、信頼され、積極的にコミュニケーションする意欲がある。(△) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 筆記試験 | 60 | 20 | － | 10 | 90 |
| | レポート | 5 | 2 | － | 3 | 10 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 65 | 22 | － | 13 | 100 |
| 成績評価と割合 | 筆記試験 90%、レポート 10% の 合計 100% で評価します。 3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | 『管楽器価格一覧表 2017年度版』(900円・税別)ミュージックトレード社(売店で購入してください) 『打楽器価格一覧表 2017年度版』(800円・税別)ミュージックトレード社(売店で購入してください) | | | | | |
| 参考書・教材 | 自作資料を配布します。楽器別カタログを配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | ガイダンス(この授業で学ぶこと、プレーイング・セールス・エンジニアについて／音楽産業と楽器産業) 管楽器の基礎知識① 歴史、発音原理 [準備・課題]学習内容の復習。プレーイング・セールス・エンジニアの仕事を理解し興味を持つこと(3h) | | | | | |
| 2 | 管楽器の基礎知識② 楽器の分類と種類、調性、音域、管体材料、円筒管と円錐管 [準備・課題]学習内容の復習(2h) | | | | | |
| 3 | 管楽器の基礎知識③ バルヴとスライド、トーンホール、キイメカニズム、楽器評価のポイント [準備・課題]学習内容の復習。管楽器の基礎で学んだことを確認し、楽器別の研究に臨むこと(5h) | | | | | |
| 4 | フルート 歴史、種類、キイタイプ、管体材料、トーンホール、ヘッド、ハンドメイド、メーカー [準備・課題]学習内容の復習。実際に楽器、ヘッドで確認すること。クラリネットのカタログを事前に見ておくこと(3h) | | | | | |
| 5 | クラリネット 歴史、種類、キイシステム、管体材料、リードとマウスピース、リガチャーの3点セット、メーカー [準備・課題]学習内容の復習。サクソフォンのカタログを事前に見ておくこと(3h) | | | | | |
| 6 | サクソフォン 歴史、種類、キイシステム、管体材料、ネック、メーカー [準備・課題]学習内容の復習。オーボエのカタログを確認しておくこと(3h) | | | | | |
| 7 | オーボエ 歴史、種類、キイシステム、管体材料、リード、メーカー [準備・課題]学習内容の復習。ファゴット(バスーン)のカタログを確認しておくこと(3h) | | | | | |
| 8 | ファゴット(バスーン) 歴史、種類、キイシステム、管体材料、リード、ヴォーカル、メーカー [準備・課題]学習内容の復習。トランペットのカタログを確認しておくこと(3h) | | | | | |
| 9 | トランペット 歴史、種類、管体材料、バルブの種類、支柱と響き、ボアサイズ、ベル、トリガー、メーカー [準備・課題]学習内容の復習。ホルンのカタログを確認しておくこと(3h) | | | | | |
| 10 | ホルン 歴史、調性による分類、管体材料、業界2タイプによる分類、デタッチャブル、ベル、メーカー [準備・課題]学習内容の復習。トロンボーンのカタログを確認しておくこと(3h) | | | | | |
| 11 | トロンボーン 歴史、種類、管体材料、スライド、バルブの種類、ベル、メーカー [準備・課題]学習内容の復習。ユーフォニアム、チューバのカタログを確認しておくこと(3h) | | | | | |
| 12 | ユーフォニアム&チューバ① 歴史、種類、管体材料、バルブの種類、コンペンセーティングシステム 管の巻き方、メーカー [準備・課題]学習内容の復習。ホルネット、アルトホルン、バリトンのカタログを確認しておくこと(3h) | | | | | |
| 13 | ユーフォニアム&チューバ② サクソルン族(ホルネット、アルトホルン、バリトン、メーカー) 金管バンド(プラス・バンド)について。 [準備・課題]学習内容の復習。マーチングプラスのカタログを確認しておくこと(3h) | | | | | |
| 14 | マーチングプラス 特徴、種類、コンバーチブルモデル、マーチングの形態、メーカー [準備・課題]学習内容の復習(3h) | | | | | |
| 15 | 前期のまとめ 夏期休暇課題について(吹奏楽コンクール及びマーチングコンクール視察／楽器店訪問) [準備・課題]学習内容の復習。前期授業全資料、カタログを持参すること(3h) | | | | | |
| 時間外での学習 | コンクール視察は演奏を聴くだけでなく、会場での関係者の動線、編成、演奏曲、使用楽器の傾向等を観察してください。楽器業界の第一線である「楽器店訪問」から学ぶことが多くあります。機会を見つけ訪問しましょう。専門誌、インターネット等で最新情報を入手する習慣をつけましょう。専門楽器以外は学生同士で研究しましょう。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 自分の専門楽器だけでなく、全ての楽器に興味を持ってください。そこから得た知識が将来必ず活かされます。リペアを仕事にしようとする方は必修です。又、楽器店勤務を希望する方にもオールマイティーな知識が求められます。オフィスアワー：質問は授業前後に教室で対応します。 | | | | | |

| 楽器研究Ⅱ | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|-----------------|---|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 1単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]： 木下 紘治郎 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| | | | | | | |
| 授業内容 | 前期に引き続き楽器知識について行います。打楽器類（コンサート用、マーチング用、音板打楽器）和楽器（太鼓類、笛類、弦楽器類）、教育楽器（リコーダー、鍵盤ハーモニカ、教育機器）楽器店で扱われる楽器（鍵盤楽器、弦楽器、LM楽器、民族楽器、管打楽器関連商品）の知識及び関連知識として吹奏楽の歴史を学びます。 | | | | | |
| 授業方法 | 講義形式で行います。より理解を深めるため楽器本体、カタログ、DVD，CDを活用します。 | | | | | |
| 到達目標 | 1.[知識・理解] 各楽器の知識を修得し、お客様とプロフェッショナルとしての対応ができる。(◎) 2.[思考・判断・表現] 楽器業界で営業活動するにあたって、課題解決に必要な基礎力、判断力を持ち、お客様とのコミュニケーション能力がある。(△) 3.[関心・意欲・態度] 常に自己能力の向上心を持ち、お客様とのコミュニケーション能力がある。(△) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 筆記試験 | 70 | 5 | - | 5 | 80 |
| | レポート | 10 | 5 | - | 5 | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 80 | 10 | - | 10 | 100 |
| 成績評価と割合 | 筆記試験 80%、レポート 20% の 合計 100% で評価します。 3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | 特にありません。 前期で購入した管打楽器価格一覧表、楽器別カタログを使用します。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 自作資料を配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 打楽器(1) コンサート打楽器の分類 ①ティンパニ(歴史、種類、サイズ、セッティング、チューニングインジケータ、メーカー) [準備・確認]学習内容の復習。コンサートパーカッションのカタログを確認しておくこと(3h) | | | | | |
| 2 | 打楽器(2) スネアドラム、バスドラム、シンバル、チャイム他(歴史、種類、各部の名称、サイズ、材質、セッティング、取り扱い、メーカー) [準備・確認]学習内容の復習。実際に楽器で確認すること。音板楽器のカタログを確認しておくこと(3h) | | | | | |
| 3 | 打楽器(3) 音板打楽器(概論、種類、各部の名称、材質、湿度・温度とビッチの関係、取り扱い、メーカー) [準備・確認]学習内容の復習。マーチングパーカッションのカタログを確認しておくこと(3h) | | | | | |
| 4 | 打楽器(4) マーチングパーカッション(概論、種類、編成、チューニング、アクセサリー、メーカー) [準備・確認]学習内容の復習(2h) | | | | | |
| 5 | 和楽器(1) 邦楽と和楽器について、歴史、種類と分類、奏法、各流派 (1)和太鼓 (2)管楽器類(尺八) [準備・確認]学習内容の復習(2h) | | | | | |
| 6 | 和楽器(2) 管楽器類 篠笛、竜笛、能管、笙、箏篋「雅楽について」 [準備・確認]学習内容の復習(2h) | | | | | |
| 7 | 和楽器(3) 弦楽器(三味線、琴と箏) [準備・確認]学習内容の復習。和楽器の知識をまとめておくこと(5h) | | | | | |
| 8 | 教育楽器(1) リコーダー(歴史、種類、材質、バロック式とジャーマン式、教育的特性、奏法、メーカー) [準備・確認]学習内容の復習(2h) | | | | | |
| 9 | 教育楽器(2) 鍵盤ハーモニカ(歴史、種類（鍵盤数）、教育的特性、メーカー) [準備・確認]学習内容の復習(2h) | | | | | |
| 10 | 教育機器(種類、電子式指導用オルガンの教育的特性と機能) [準備・確認]学習内容の復習(2h) | | | | | |
| 11 | 楽器店で扱われる楽器類(鍵盤楽器、弦楽器、LM楽器、民族楽器、楽器関連商品) [準備・確認]学習内容の復習。楽器店で確認することを勧めます(5h) | | | | | |
| 12 | 楽器関連商品(チューナーとメトロノームの吹奏楽活動での効果的な活用研究) [準備・確認]学習内容の復習。自分の効果的な活用法を考えておくこと(3h) | | | | | |
| 13 | 日本における吹奏楽の歴史(日本の吹奏楽の始まりから現在、そして将来を展望する) [準備・確認]学習内容の復習。後期実施資料を準備し、読み直ししておきましょう(5h) | | | | | |
| 14 | 後期のまとめ。後期実施課題をまとめます。 [準備・確認]学習内容の復習。後期実施全資料を持参してください。筆記試験勉強に集中しましょう。返却された夏期休暇課題を読み直し、来週持参してください(6h) | | | | | |
| 15 | 夏期休暇課題のまとめ。コンクール視察、楽器店訪問で気付いた事と学んだこと。 [準備・確認]学習内容の復習。筆記試験勉強に集中しましょう(6h) | | | | | |
| 時間外での学習 | 楽器店を訪問して商品の展示方法（レイアウト、メーカー、機種、量、POP等）を観察したり、新しい情報を入手しましょう。調査ではありません。必ずお客として訪問してください。お店の方々と仲良くなる事で、多くの知識、情報を得ることができます。学ばせていただく姿勢が大切です。邦楽を生演奏で聴くことは少ないと思いますが、名古屋市の能楽堂、熱田神宮の神事、結婚式での雅楽、お祭りのお神楽など機会を見つけてください。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 楽器のオールマイティーを目指しましょう。興味と関心、好奇心が最大の資質です。授業内容を復習しカタログや専門誌、インターネット等で確認し、知識を確実にしましょう。 オフィスアワー：質問等は授業の前後に教室で対応します。 | | | | | |

| 専攻楽器Ⅰ | | 音楽総合学科 | | 1年前期 | | |
|------------------|---|--------|----------|------|----------|----|
| | | 2単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：服部 篤典・鈴木 孝育 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 演奏能力向上に向け基礎力、演奏技術、表現力の向上を図るレッスンを行います。各々のレベルに合わせ、希望する楽曲を選択し、楽曲を深く理解し演奏に臨みます。 | | | | | |
| 授業方法 | 個人レッスン。 必要に応じてピアノ伴奏付きで行います。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 楽曲の様式、作曲家などの基本的な知識がある(△) 2. [思考・判断・表現] 楽譜を深く理解し音楽性を伴った演奏ができる(△) 3. [技能] 専攻楽器として相応しい演奏をすることができる(◎) 4. [関心・意欲・態度] 伴奏との意思疎通ができる(○) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 実技試験 | － | － | 60 | － | 60 |
| | 受講態度 | － | － | － | 20 | 20 |
| | 成長度 | 10 | 10 | － | － | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 合 計 | 10 | 10 | 60 | 20 | 100 | |
| 成績評価と割合 | 実技試験(期末の実技試験) 60%、受講態度(普段の授業の取り組み) 20%、成長度(技術の成長度) 20%の合計100%で評価します。 欠席・遅刻は減点とし、3分の1以上欠席した学生は単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | なし | | | | | |
| 参考書・教材 | 取り組む楽曲は各自で購入。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | ガイダンス 授業の進め方 [準備・課題] 楽曲選択研究 (2～3h) | | | | | |
| 2 | 楽曲選曲 各々のレベルに合った楽曲を教員と相談の上決めます [準備・課題] 選択楽曲の研究・練習 (2～3h) | | | | | |
| 3 | 前期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 (2～3h) | | | | | |
| 4 | 前期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 (2～3h) | | | | | |
| 5 | 前期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 (2～3h) | | | | | |
| 6 | 前期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 (2～3h) | | | | | |
| 7 | 前期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 (2～3h) | | | | | |
| 8 | 前期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 (2～3h) | | | | | |
| 9 | 前期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 (2～3h) | | | | | |
| 10 | 前期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 (2～3h) | | | | | |
| 11 | 前期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 (2～3h) | | | | | |
| 12 | 前期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 (2～3h) | | | | | |
| 13 | 前期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 (2～3h) | | | | | |
| 14 | 前期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 (2～3h) | | | | | |
| 15 | 前期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 (2～3h) | | | | | |
| 時間外での学習 | 計画的に自己研鑽を。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 出来なかったことが出来るようになる喜びを感じてください。 オフィスアワーは水曜日16:40～。 | | | | | |

| 専攻楽器Ⅱ | | 音楽総合学科 | | 1年後期 | | |
|------------------|---|--------|----------|------|----------|-----|
| | | 2単位 | | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：服部 篤典・鈴木 孝育 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： | | | | | | |
| 授業内容 | 演奏能力向上に向け基礎力、演奏技術、表現力の向上を図るレッスンを行います。各々のレベルに合わせ、希望する楽曲を選択し、楽曲を深く理解し演奏に臨みます。 | | | | | |
| 授業方法 | 個人レッスン。 必要に応じてピアノ伴奏付きで行います。 | | | | | |
| 到達目標 | 1. [知識・理解] 楽曲の様式、作曲家などの基本的な知識がある(△) 2. [思考・判断・表現] 楽譜を深く理解し音楽性を伴った演奏ができる(△) 3. [技能] 専攻楽器として相応しい演奏をすることができる(◎) 4. [関心・意欲・態度] 伴奏との意思疎通ができる(○) | | | | | |
| 観点別評価 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計 |
| | 実技試験 | － | － | 60 | － | 60 |
| | 受講態度 | － | － | － | 20 | 20 |
| | 成長度 | 10 | 10 | － | － | 20 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 合 計 | 10 | 10 | 60 | 20 | 100 |
| 成績評価と割合 | 実技試験(期末の実技試験) 60%、受講態度(普段の授業の取り組み) 20%、成長度(技術の成長度) 20%の合計100%で評価します。 欠席・遅刻は減点とし、3分の1以上欠席した学生は単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | なし。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 取り組む楽曲は各自で購入。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | ガイダンス 授業の進め方 [準備・課題] 楽曲選択研究 (2～3h) | | | | | |
| 2 | 楽曲選曲 各々のレベルに合った楽曲を教員と相談の上決めます。 [準備・課題] 選択楽曲の研究・練習 (2～3h) | | | | | |
| 3 | 後期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 (2～3h) | | | | | |
| 4 | 後期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 (2～3h) | | | | | |
| 5 | 後期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 (2～3h) | | | | | |
| 6 | 後期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 (2～3h) | | | | | |
| 7 | 後期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 (2～3h) | | | | | |
| 8 | 後期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 (2～3h) | | | | | |
| 9 | 後期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 (2～3h) | | | | | |
| 10 | 後期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 (2～3h) | | | | | |
| 11 | 後期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 (2～3h) | | | | | |
| 12 | 後期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 (2～3h) | | | | | |
| 13 | 後期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 (2～3h) | | | | | |
| 14 | 後期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 (2～3h) | | | | | |
| 15 | 後期選択楽曲のレッスン 各々の進捗状況に合わせてのレッスン ・演奏技術の向上 ・楽曲分析 ・音色の研究 ・表現力の追求 [準備・課題] 選択楽曲の研究及び練習 (2～3h) | | | | | |
| 時間外での学習 | 計画的に自己研鑽を。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 出来なかったことが出来るようになる喜びを感じてください。 オフィスアワーは水曜日16:40～。 | | | | | |